

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウアカジン トウカイイバウ 学校法人 東海大学							
フリガナ 大学の名称		トウカイイバウ 東海大学 (Tokai University)							
大学本部の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的		本学科は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、多様性と国際性を兼ね備えた広い視野とコミュニケーション能力を有するとともに、情報通信に関する専門知識と技術を身につけ、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考力と活用力を備えた、情報通信技術者としての使命感、倫理観をもった人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及 び開設年次	所在地	
	情報通信学部 [Undergraduate School of Information and Telecommunication Engineering]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
	情報通信学科 [Department of Information and Telecommunication Engineering]	4	240	—	960	学士（情報通信 学） [Bachelor of Information and Telecommunicati on Engineering]	令和4年4月 第1年次	神奈川県平塚市 北金目4-1-1 東京都港区 高輪2-3-23	
	計		240	—	960				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		別紙のとおり							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報通信学部情報通信学 科	58科目	7科目	15科目	80科目	124単位			

教	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
員	新	情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)	令和3年3月認可申請
		児童教育学部児童教育学科	9 (7)	5 (5)	6 (5)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	20 (9)	
	設	経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定
		国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定
		情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	令和3年4月届出予定
		工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定
		工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)	令和3年4月届出予定
		工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定
		建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	令和3年4月届出予定
		建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)	令和3年4月届出予定
		人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定
		海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定
組	分	文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	17 (17)	令和3年4月届出予定
		農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定
		農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定
		農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	令和3年4月届出予定
		計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)	— —	
		既	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	
		文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)	
		文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	
の	設	文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
		文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)	
		文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)	
		文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
		文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	
		文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
		文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)	
		政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
		政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	
		法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
概	要	教養学部人間環境学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	27 (27)	
		教養学部芸術学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	88 (88)	
		体育学部体育学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
		体育学部競技スポーツ学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	
		体育学部武道学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)	
		体育学部生涯スポーツ学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
		体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
		分								
		既								
		分								

教 員 組 織 の 概 要	既 員 組 織	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	8 (7)	4 (4)	4 (0)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
	設 置 の 概 要	生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	— (—)
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	分	札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
		計	64 (64)	66 (66)	47 (47)	8 (8)	185 (185)	0 (0)	— (—)
		合 計	594 (591)	360 (360)	386 (381)	426 (426)	1766 (1758)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計											
	事 務 職 員		779 (779)		269 (269)		1048 (1048)											
	技 術 職 員		57 (57)		2 (2)		59 (59)											
	図 書 館 専 門 職 員		44 (44)		22 (22)		66 (66)											
	そ の 他 の 職 員		8 (8)		0 (0)		8 (8)											
	計		888 (888)		293 (293)		1181 (1181)											
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし							
	校 舎 敷 地		1,770,691.41 ㎡		2,052.88 ㎡		0.00 ㎡		1,772,744.29 ㎡			内借用地：55,045.86㎡						
	運 動 場 用 地		396,797.97 ㎡		0.00 ㎡		0.00 ㎡		396,797.97 ㎡			内借用地：47,282.12㎡						
	小 計		2,167,489.38 ㎡		2,052.88 ㎡		0.00 ㎡		2,169,542.26 ㎡									
	そ の 他		211,174.76 ㎡		0.00 ㎡		0.00 ㎡		211,174.76 ㎡			内借用地：153,717.23㎡						
	合 計		2,378,664.14 ㎡		2,052.88 ㎡		0.00 ㎡		2,380,717.02 ㎡			借用期間：2～30年						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計									
			532,456.15 ㎡ (532,456.15 ㎡)		0.00 ㎡ (0.00 ㎡)		0.00 ㎡ (0.00 ㎡)		532,456.15 ㎡ (532,456.15 ㎡)									
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体						
		480 室		328 室		1,260 室		79 室 (補助職員 20 人)		6 室 (補助職員 0 人)								
専任教員研究室				新設学部等の名称				室 数				48 室						
				情報通信学部情報通信学科														
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		大学全体での共用として、 電子データベースは37種〔うち国外16種〕 学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約45,000種〔うち国外約42,200種〕 電子ブックは約12,700点〔うち国外約7,000点〕が利用可能。			
	情報通信学部情報通信学科		41,390 [3,920] (40,709 [3,864])		1,028 [420] (982 [400])		213 [125] (191 [114])		205 (193)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
	計		41,390 [3,920] (40,709 [3,864])		1,028 [420] (982 [400])		213 [125] (191 [114])		205 (193)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体						
			21,687.00 ㎡			3,734 席			2,318,166 冊									
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体						
			24,060.79 ㎡			トレーニングセンター			25mプール									
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等				330千円		330千円		330千円		330千円		— 千円		— 千円		
		共同研究費等				1,680千円		1,680千円		1,680千円		1,680千円		— 千円		— 千円		
		図 書 購 入 費		200千円		320千円		440千円		560千円		680千円		— 千円		— 千円		
		設 備 購 入 費		5,988千円		2,994千円		2,994千円		2,994千円		2,994千円		— 千円		— 千円		
	学生1人当り納付金		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次					
			1,554千円		1,354千円		1,354千円		1,354千円		— 千円		— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要					私立大学等経常経費補助金、手数料等													

基本計画書—6

既設大 学等 の 状 況	《大学院》									
	総合理工学研究科									
	総合理工学専攻	博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47	平成17年 平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等 〃
	地球環境科学研究科									
	地球環境科学専攻	博士課程	3	—	—	—	博士(理学)・博士(工学)	—	平成17年 平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等 〃
	生物科学研究科									
	生物科学専攻	博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博文(看護学)	0.10	平成17年 平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等 〃
	文学研究科									
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和44年 昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	〃
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	〃
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	〃
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	〃
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	〃
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	〃
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	〃
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	〃
	政治学研究科									
	政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年 昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	〃
	経済学研究科									
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年 昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃
	法学研究科									
	法律学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00	平成2年 平成16年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	法律学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃
	人間環境学研究科									
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.45	平成19年 平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	芸術学研究科									
	音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年 昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃
	体育学研究科									
	体育学専攻	博士課程前期	2	20	—	35	修士(体育学)	1.36	昭和51年 昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	体育学専攻	博士課程後期	3	3	—	3	博士(体育学)	—	令和3年	〃
	理学研究科									
	数理科学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56	昭和43年 昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	〃
	化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	〃
	工学研究科									
	電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.03	平成28年 平成28年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.24	平成28年	〃
	建築土木工学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.16	平成28年	〃
	機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.21	平成28年	〃
	医学生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	情報通信学研究科									
	情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.99	平成24年 平成24年	東京都港区高輪2-3-23 〃
	海洋学研究科									
	海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.65	昭和42年 平成27年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1 〃

令和3年度より学生募集停止
令和3年度より学生募集停止

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃	
	健康科学研究科								平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃	
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃	
	農学研究科								平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃	
	生物学研究科								令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.25	令和2年	〃	
	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	—	—	—	短期大学士(食物栄養学)	—	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		2	—	—	—	短期大学士(児童教育学)	—	昭和44年	〃	令和2年度より学生募集停止
	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	—	—	—	短期大学士(看護学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名 称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規 模 等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡	
	名 称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規 模 等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡	
	名 称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規 模 等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡	
	名 称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規 模 等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡	
	名 称：望星丸 目的：海洋調査研修 所 在 地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規 模 等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m	

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△ 160）	※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△ 100）	※令和4年4月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△ 40）	※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△ 200）	※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△ 120）	※令和4年4月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△ 20）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
経営学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
観光ビジネス学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
電気電子情報工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
医療福祉工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
児童教育学部（令和3年3月認可申請）	
児童教育学科（150）	
経営学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（230）	
国際学部（令和3年4月届出予定）	
国際学科（200）	
情報理工学部情報メディア学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部生物工学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部機械システム工学科（140）（令和3年4月届出予定）	
工学部医工学科（80）（令和3年4月届出予定）	
建築都市学部（令和3年4月届出予定）	
建築学科（240）	
土木工学科（100）	
人文学部（令和3年4月届出予定）	
人文学科（180）	
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（130）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（20）（令和3年4月届出予定）	
文理融合学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（130）	
地域社会学科（100）	
人間情報工学科（70）	
農学部農学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部動物科学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部食生命科学科（70）（令和3年4月届出予定）	
政治経済学部	
政治学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
経済学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
教養学部	
人間環境学科〔定員減〕（△ 40）（令和4年4月）	
芸術学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
体育学部	
体育学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
競技スポーツ学科〔定員増〕（30）（令和4年4月）	
生涯スポーツ学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
工学部	
応用化学科〔定員増〕（20）（令和4年4月）	
電気電子工学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
海洋学部	
海洋生物学科〔定員減〕（△ 10）（令和4年4月）	
医学部	
看護学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
生物学部	
生物学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	
海洋生物科学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	

学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

東海大学						
学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		160	—	640	
	経済学科		160	—	640	
	経営学科		160	—	640	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
	国際学科		80	—	320	
体育学部	体育学科		110	—	440	
	競技スポーツ学科		140	—	560	
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		110	—	440	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		60	—	240	
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		140	—	560	
	動力機械工学科		150	—	600	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで
	看護学科		85	—	340	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	

令和4年度

東海大学						
学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考 変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		200	—	800	定員変更(40)
	経済学科		200	—	800	定員変更(40)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		230	—	920	学部の設置(届出)
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科		120	—	480	定員変更(△40)
	芸術学科		70	—	280	定員変更(△20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	国際学科		200	—	800	学部の設置(届出)
児童教育学部	児童教育学科		150	—	600	学部の設置(認可申請)
体育学部	体育学科		120	—	480	定員変更(10)
	競技スポーツ学科		170	—	680	定員変更(30)
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		120	—	480	定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		70	—	280	定員変更(10)
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
	情報メディア学科		100	—	400	学部の学科の設置(届出)
工学部			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	生物工学科		100	—	400	学部の学科の設置(届出)
	応用化学科		100	—	400	定員変更(20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	電気電子工学科		120	—	480	定員変更(△20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	機械システム工学科		140	—	560	学部の学科の設置(届出)
	機械工学科		140	—	560	
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	医工学科		80	—	320	学部の学科の設置(届出)
建築都市学部	建築学科		240	—	960	学部の設置(届出)
	土木工学科		100	—	400	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	情報通信学科		240	—	960	学部の学科の設置(届出)
人文学部	人文学科		180	—	720	学部の設置(届出)
海洋学部			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		80	—	320	定員変更(△10)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	
	海洋理工学科	海洋理工学専攻	130	—	520	学部の学科の設置(届出)
		航海学専攻	20	—	80	
医学部	医学科		110	—	660	臨時定員増(8)は令和3年度まで
	看護学科		95	—	380	定員変更(10)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
文理融合学部	経営学科		130	—	520	
	地域社会学科		100	—	400	学部の設置(届出)
	人間情報工学科		70	—	280	

令和3年度					
農学部	応用植物科学科	80	—	320	
	応用動物科学科	80	—	320	
	バイオサイエンス学科	70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
	デザイン文化学科	70	—	280	
生物学部	生物学科	70	—	280	
	海洋生物科学科	70	—	280	
計		6773	—	27328	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	観光学専攻	(M)	8	—	16	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9	
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16	
計			563	—	1277	

令和4年度					
農学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	農学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	動物科学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	食生命科学科	70	—	280	学部の学科の設置(届出)
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
生物学部	生物学科	75	—	300	定員変更(5)
	海洋生物科学科	75	—	300	定員変更(5)
計		6855	—	27640	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	観光学専攻	(M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40		
		(D)	3	—	9		
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16		
計			563	—	1277		

教 育 課 程 等 の 概 要														
（情報通信学部 情報通信学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールA	1前	2		○			10	7	6			
	基礎教養科目	入門ゼミナールB	1後	2		○			10	7	6			
	基礎教養科目	小計（2科目）	—	4	0	0	—		10	7	6	0	0	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	地域・国際理解	1前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	現代教養講義	2前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	小計（3科目）	—	6	0	0	—		0	0	0	0	0	兼1
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1				○						兼1
	健康スポーツ科目	生涯スポーツ理論実習	1前・後	1				○						兼1
	健康スポーツ科目	小計（2科目）	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼1
	Ⅲ 英語科目	シ英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2			○						兼1
	Ⅲ 英語科目	シ英語コミュニケーション	英語リーディング&ライティング	1前・後	2			○						兼1
	Ⅲ 英語科目	シ英語コミュニケーション	小計（2科目）	—	4	0	0	—		0	0	0	0	兼1
Ⅳ 主専攻科目	学系共通科目	SDGs入門	1前		2	○								兼1
	学系共通科目	政治学入門	1後		2	○								兼1
	学系共通科目	経済学入門	1後		2	○								兼1
	学系共通科目	法学入門	1後		2	○								兼1
	学系共通科目	異文化コミュニケーション入門	2前		2	○								兼1
	学系共通科目	アントレプレナーシップ入門	2後		2	○								兼1
	学系共通科目	グローバルPBL	4前		2			○						兼1
	学系共通科目	小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼6

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報通信学部 情報通信学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
IV 主 専 攻 科 目	情報通信学基幹：自己発展科目 AI社会と情報倫理	1後		2		○			1					
	アカデミック英語	2前	2					○				1		
	テクニカルライティング	2前	2				○				1			
	知的財産	2前		2		○						1		
	グローバルスキル	2後	2					○				1		
	テクニカルプレゼンテーション	2後	2				○			1				
	プロジェクト基礎	2休		2				○	10	7	6			
	技術英語	3前	2				○			1				
	プロジェクト実習 1	3前	2					○	10	7	6			
	情報通信産業論	3前		2		○			1					
	企業研究	3前		1				○	1					
	グローバルビジネス英語	3後	2				○		1					
	プロジェクト実習 2	3後	2					○	10	7	6			
	インターンシップ	3後		2				○		1				
	小計（14科目）	—	16	11	0	—			10	7	6	1	0	
情報通信学基幹：専門科目	情報通信学通論	1前	2			○			1					
	自然科学基礎	1前		2		○					1			
	情報通信数学基礎	1前		3		○			1					※実習
	プログラミング	1前		2				○		1				
	物理学実験	1後		2				○				1		
	データサイエンスと数理	1後		3		○						1		※実習
	データ構造とアルゴリズム	1後		3		○			1					※実習
	AIプログラミング	1後		2				○	1					
	離散数学	2前		3		○							1	※実習
	情報理論	2前		2		○			1					
	基礎解析学	2前		2		○							1	
	要求工学	2前		2		○			1					
	人間工学	2前		2		○			1					
	デジタル信号処理	2後		2		○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要														
（情報通信学部 情報通信学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
IV 主 専 攻 科 目	情報通信学基幹：専門科目 統計学	2後		2		○						1		
	データベース	2後		3		○			1					※実習
	コンピュータアーキテクチャ	2後		3		○			1					※実習
	認知科学	2後		2		○					1			
	暗号と情報セキュリティ	2後		2		○				1				
	ソフトウェア設計モデリング	3前		2		○				1				
	ヒューマンインタフェース	3前		3		○					1			※実習
	通信ネットワーク工学	3前		3		○			1					※実習
	機械学習	3前		3		○					1			※実習
	WEBアプリケーション開発	3後		3		○					1			※実習
	オペレーティングシステム	3後		3		○				1				※実習
	サイバーセキュリティ	3後		3		○					1			※実習
	情報通信ゼミナール	3後	2				○		10	7	6			
	卒業研究 1	4前	4				○		10	7	6			
	卒業研究 2	4後	4				○		10	7	6			
	小計（29科目）	—	12	62	0	—			10	7	6	1	0	
先 端 的 デ ー タ 処 理	人工知能と知的制御	3前		2		○			1					
	自然言語処理	3前		2		○					1			
	データ分析	3前		2		○				1				
	サイバーフィジカルシステム	3後		2		○			1					
	メディア処理・認識	3後		3		○				1				※実習
	ビッグデータ	3後		2		○					1			
	小計（6科目）	—	0	13	0	—			2	2	2	0	0	
ブ ラ ッ ト フ ォ ー ム ・ デ ザ イ ン	クラウドコンピューティング	3前		2		○			1					
	プラットフォームアーキテクチャ	3前		2		○				1				
	言語処理系基礎	3前		2		○			1					
	エッジ・コンピューティング	3後		2		○			1					
	モバイルコンピューティング	3後		2		○			1					
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			3	1	0	0	0	

基本計画書—16

教 育 課 程 等 の 概 要															
(情報通信学部通信ネットワーク工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
論 I 現代文明	現代文明論	2前	2			○								兼2	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
II 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前・後	2		○								兼1	
		社会科学	1前・後	2		○								兼1	
		自然科学	1前・後	2		○								兼1	
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1		○								兼1	
		ボランティア	1後	1		○								兼1	
		地域理解	1前	1		○								兼1	
		国際理解	1前	1		○								兼1	
		小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
	目健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1				○						兼5	
		生涯スポーツ理論実習	1前・後	1				○						兼2	
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
III 英語科目	ケ英語シヨニコニ目	英語リスニング&スピーキング	1後	2				○						兼12	
		英語リーディング&ライティング	1前	2				○						兼10	
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼12
	育グ成ローバル人材	グローバルスキル	2前	2				○						兼12	
		アカデミック英語	2後	2				○						兼12	
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼12

教 育 課 程 等 の 概 要															
（情報通信学部通信ネットワーク工学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	学部共通科目	情報通信学概論	1後	2		○			2	1				兼1	
	基礎数学	1前		2		○								兼1	
	基礎物理A	1後		1		○								兼1	
	基礎物理B	1後		1		○								兼1	
	応用数学A	1後		2		○								兼1	
	応用数学B	2前		2		○								兼1	
	応用数学C	2後		2		○								兼1	
	グローバルビジネス英語	3後	2			○								兼3	
	インターンシップ	3後		2				○			1				
	知的財産	4前		2		○								兼1	
	小計（10科目）	—	4	14	0	—			3	1	1	0	0	兼8	
	基幹科目	通信ネットワーク工学通論	1前	2		○			6	3					
	入門ゼミナール	1前	2				○		5	3					
	ゼミナール	3後	2				○		5	3					
	卒業プロジェクト1	4前	2				○		5	3					
	卒業研究1	4前	2				○		5	3					
	卒業プロジェクト2	4後	2				○		5	3					
	卒業研究2	4後	2				○		5	3					
	小計（7科目）	—	14	0	0	—			6	3	0	0	0		
	自己発展科目	離散数学	1前	4		○								兼2	
	線形代数	2前		4		○								兼1	
	微分積分	1後		4		○								兼1	
	確率統計	3前		4		○								兼1	
	データ解析	2後		4		○				1					
	企業研究	3前		1				○						兼1	
	企業情報システム	3後		2		○								兼1	
	小計（7科目）	—	0	23	0	—			0	1	0	0	0	兼7	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報通信学部通信ネットワーク工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	通信系科目	論理回路	2前	4		○				1				
		情報理論	2後	2		○			1					
		電気回路	2後	4		○				1				
		デジタル信号処理	3前	4		○				1				
		通信工学	3後	4		○			1					
		小計（5科目）	—	0	18	0	—			2	1	0	0	0
	ソフトウェア系科目	プログラミング入門	1前	2				○		1				
		コンピュータの基礎	1後	2		○				1				
		データ構造とアルゴリズム	1後	4			○		1					
		ネットワークプログラミング	2前	2				○	1					
		オペレーティングシステム	2前	4			○		1					
		オブジェクト指向プログラミング	2後	2				○	1					
		アプリケーション設計	3前	2				○	1					
		ソフトウェア工学	2後	2		○			1					
		プログラミング応用	3後	2				○	1					
		データベース	3後	4			○		1					
		小計（10科目）	—	2	24	0	—			4	2	0	0	0

基本計画書—25

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報通信学部組込みソフトウェア工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前	2			○								兼2
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前・後	2		○								兼1
	社会科学	1前・後	2			○								兼1
	自然科学	1前・後	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1		○								兼1
	ボランティア	1前	1			○								兼1
	地域理解	1後	1			○								兼1
	国際理解	1後	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
	目健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1				○						兼5
	生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅲ 英語科目	ケ英一語シヨミコニ目	英語リスニング&スピーキング	1後	2				○						兼12
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○						兼10
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼12
	育グロ一バル人材	グローバルスキル	2前	2				○						兼12
	アカデミック英語	2後	2					○						兼12
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼12

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報通信学部組込みソフトウェア工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	学部共通科目	情報通信学概論	1後	2		○			1		1			兼1
	基礎数学	1前		2		○								兼1
	基礎物理A	1後		1		○								兼1
	基礎物理B	1後		1		○								兼1
	応用数学A	1後		2		○								兼1
	応用数学B	2前		2		○								兼1
	応用数学C	2後		2		○								兼1
	グローバルビジネス英語	3後	2			○								兼3
	インターンシップ	3後		2				○	2		1			
	知的財産	4前		2		○								兼1
	小計（10科目）	—	4	14	0	—			3	0	2	0	0	兼8
	基幹科目	入門ゼミナール	1前	2			○		4	3	2			
	組込みソフトウェア工学通論	1後	2			○			5	3	2			
	プロジェクト基礎1	2前		4			○		1	1	2			
	プロジェクト基礎2	2後		4			○		1	2	1			
	組込み開発プロジェクト1	3前		4			○		1	1				
	組込み開発プロジェクト2	3後		4			○		1	1				
	プレゼミナール	3後		2			○		5	3	2			
	卒業研究1	4前	2				○		4	3	2			
	卒業研究2	4後	2				○		5	3	2			
	小計（9科目）	—	8	18	0	—			5	3	2	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報通信学部組込みソフトウェア工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	ソフトウェア系科目	プログラミング入門	1前	2				○			2			
		プログラミング応用	1後	4			○			1	1			
		データ構造とアルゴリズム・同演習	2前	4			○		1					
		ゲームプログラミング・同演習	2前	4			○		1	1				
		データベース	2後	2			○		1					
		ソフトウェア工学1	2後	2		○			1					
		コンパイラ	3前	2		○			1					
		ソフトウェア工学2	3前	2		○			1					
		ネットワークコンピューティング	3前	2		○			1					
		オペレーティングシステム	3後	2		○				1				
		データ工学	3後	2		○			1					
		小計（11科目）	—	2	26	0	—		3	1	2	0	0	
ハードウェア系科目		基礎電気回路	1前	2		○			1					
		電気回路・同演習	1後	4			○			1				
		論理回路・同演習	2前	4			○		1					
		電子回路1	2前	2		○				1				
		コンピュータシステム・同演習	2後	4			○		1					
		電子回路2	2後	2		○				1				
		コンピュータアーキテクチャ	3前	2		○			1					
		パルス・デジタル回路	3前	2		○				1				
		ハードウェア設計	3後	2		○					1			
		制御工学	3後	2		○								兼1
		小計（10科目）	—	0	26	0	—		1	2	1	0	0	兼1

基本計画書—29

授 業 科 目 の 概 要				
（情報通信学部 情報通信学科）				
科目 区分	学 科 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現 代 文 明 論		現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
		入門ゼミナールA	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「大学での学び方」を学ぶことを目的とし、4年間の計画的な学習スケジュールを構築しつつ、ノートの取り方や情報収集の方法、情報リテラシー、図書館の利用方法といった、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識をまずは養っていく。さらに特定のテーマについて個人の関心に応じた調査・発表といった演習を通じ、学生個別の学問的関心を喚起させ、自分自身が持つ興味や関心を正しく探求し表現していく方法を学ぶ。	
II 現 代 教 養 科 目	基 礎 教 養 科 目	入門ゼミナールB	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「入門ゼミナールA」で培った個人的関心から生じた問いを、より公共的・普遍的な問いへ変換させる能力を養うことを目的とする。具体的にはクリティカルリーディング、レポートのまとめ方の学び、グループ演習・発表を通じて、「スキルの向上」を目指すと同時に、所属学科における専門分野の基礎的知識や問題点に対しての取り組み方、倫理観などの育成を通じて、本学が育成を目指す、自ら考え、集い、挑み、成し遂げていく力を身に付けるための学び方と姿勢を醸成していく。	
		シティズンシップ	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。背景の違いはあっても、共同体に参加する人々のことを市民（シティズン）と呼ぶ。この科目では、「シティズンシップ（市民性）」の観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする。参加型授業を通じ、社会の様々な課題について話し合い、周囲と協同しつつ解決方法を考えることで、社会参加のあり方を学ぶ。	
	発 展 教 養 科 目	地域・国際理解	人は日々、ある地域で様々なひと・もの・ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むために、地域で仲間をつくり、議論し、協同し、基盤となる豊かな地域を持続させていく必要がある。一方、現代の地域社会はグローバル化の波にされされ、遠く離れた地域ともひと・もの・ことを介して緊密に連動するようになっている。この科目では、自らが暮らす地域社会と国際社会の現実を見つめ、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える。さらに、コミュニティにおける自らの役割を認識することを目標とする。	
		現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にされされる一方、気候変動や階級格差など、様々な問題解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きるため、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみ、学ぶ必要がある。この科目は教員自身が現在取り組んでいる研究について講義する。文理融合的な幅広い視野を重視しつつ、現代の新たな研究知見を学び、幅広い知識と視野を養う。	
II 現 代 教 養 科 目	健 康 ス ポ ー ツ 科 目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの「おもしろさ」や「大切さ」などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目 区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ 英語 科目	英語 コミュニケーション 科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
Ⅳ 主 専 攻 科 目	学 系 共 通 科 目	SDGs入門	「持続可能な開発（sustainable development）」あるいは「持続可能性（sustainability）」という視点がますます重要な時代がやってきた。国連と国際社会も2030年までの国際目標であるSDGsに取り組んでいる。本授業では、この概念が生まれ、やがて主流の意識となっていく国際社会の流れを理解し、この概念が現在の社会で具体的にどのように実践されているのかについて学ぶ。また、SDGsの中で掲げられる17の目標について、それぞれの根拠となる科学を知り、その実現のための政策課題と社会や個人の人生・生活に及ぼす影響について考える。そして、この取り組みの先にある社会と問題点、そして多様な可能性を自らが考えていくことにより、目的意識を持ちながら本学科での学修を進めていくきっかけづくりを行う。	
		政治学入門	政治学は、社会における様々な対立を調整して人々の生活をより安全に豊かにするための学問である。この目的達成のため、特に現代の政治現象について学び、学生自身の学習力・思考力・探究力を身につける。はじめに「政治と政治学」をテーマに、現代の社会科学の特色や、現代政治学の対象と方法など、必要な予備的事項について解説する。講義前半では政治システム、政治文化、権力といった政治学の基礎的概念や、政党、官僚組織など政治の世界の行動主体を取り上げる。講義後半では、変貌する現代社会の問題を考えるため、現代の民主主義理論について考察する。	
		経済学入門	本授業はマクロ経済学・ミクロ経済学の入門科目であり、日本経済の現状と抱えている問題の今後を理解・議論できるようになるための基礎知識を習得する。講義前半はミクロ経済学を解説し、市場経済がどのような特徴を持ち、その市場がどのように形成され、どのような働きをするのかについて分析する。講義後半はマクロ経済学を解説し、一国の生産や消費といった経済活動の水準がどのような仕組みで決まり、経済政策（財政・金融政策）が一国の経済水準にどのような影響を及ぼすかについて分析する。	
		法学入門	本授業は、法学の入門科目であり、日本の「法」「法制度」「法学」について基礎的な知識の習得を目的とする。法とは、六法全書に載っている法律の条文だけを意味するのではない。法は、書かれた条文としての姿では死んでいるといってもよく、実際の人々が生きる社会・文化の中で様々な個人や集団によって現実に動かされて初めて生命を帯びた生き法となる。このような視点から、日本の法制度と法律の基本的事項、法律分野としては、民法、刑法、憲法の基礎的な考え方や概念を学習する。	
		異文化コミュニケーション入門	現代社会において、文化は国や人種における背景の違いはもちろんのこと、同じ国籍でも地域性や世代などの集団レベルの経験などにより文化背景が異なる状況が、当たり前のように生じておりこれが認められている。加えて、ネットワーク社会の進展と全世界への広がりにより、身近な生活から世界まで、異なる文化的背景に接する機会は年々増加しており、より身近なものとなっている。本科目では、このような文化背景の異なる人への開かれた心と態度を養うことを基本とし、“多くの共通点や類似点を見出す”ことと“多くの相違点を見出すこと”、それら両方をクロスして交わりながら受入れることにより、新しい概念・可能性を探りながら問題解決を目指していく姿勢と力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目 区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	学 系 共 通 科 目	アントレプレナーシップ入門	アントレプレナーシップは、起業機会を創出しそれを創造的なアイデアで具体化・実現化していく「起業活動」とその活動を支える内面的資質である「企業家精神」に焦点を当てた理論である。ビジネス環境が複雑化しつつ大きく変化している現況においては、多くの新しいビジネスチャンスがある。この科目は、新しい事業や企業を創造するために要求される発想や挑戦意欲、スタートアップのアイデア、起業後の軌跡などについて、ケーススタディなどを通じて学ぶことで、受講生が起業活動のプロセスを具体的にイメージし、起業に興味をもってもらうことを目的としている。	
		グローバルPBL	本科目は、他分野のメンバーを含むチームプロジェクトを通じて、プロジェクト管理、コミュニケーション、チームワーク、コンフリクトマネジメントなど協働する能力と学んだ専門知識を社会実装するための技術力を高める。提携海外大学、他学部、地域など様々なレベルでの協働プロジェクトを用意し、自己の役割と責任を果たすと共にプロジェクト全体の目的達成のための能力を養う。	
	情 報 通 信 学 基 幹 ： 自 己 発 展 科 目	AI社会と情報倫理	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に情報通信技術者として必要な倫理観を身につけるために開講される。AIは成熟型社会が直面する社会問題を解決に導き持続可能な社会を構築可能な反面、その社会への影響力は大きい。AIのネガティブな社会的側面を回避するために、ITガバナンス、資源管理、リスクアセスメント（リスク特定、リスク分析、リスク評価）、雇用環境、プライバシーなどあるゆる面でITやAIを有効かつ安全に利用できる社会の構築とそのため倫理性、判断基準、行動基準、規制や根拠に関する法律学的な考え方について学習する。	
		アカデミック英語	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に国際社会に必要な英語能力を育成するために開講される。語句、表現、文法を中心に学習し、英文の意味を正確に把握し、自分の力で論理的な英文を組み立てる力を育成するとともに、英文を読んでもしくは主旨や要旨を把握する力を育成し、英文を書くことに慣れるとともに、アカデミックライティングの基礎であるパラグラフの書き方を学ぶ。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		テクニカルライティング	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に協働に必要なコミュニケーション能力を育成するために開講され、技術文書作成スキルの向上を目指す。技術文書では、読み手に書き手の考え方が正しく伝わる必要がある。そのためには、内容の理解の他、技術文書独特の構造（パターン）や用語の使い方に慣れる必要がある。「プロジェクト・実験の計画書や報告書」、「発表時の配布資料（予稿）」、「プレス発表や製品の紹介文」など具体的なテーマを設定しこれらの書き方を学ぶ。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		知的財産	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に知的な創作を保護するための知的財産法について学ぶために開講される。知的財産法の内容は、今日の企業活動において、極めて重要なものとなっている。とくにコンピュータプログラムの保護に代表されるように、知的財産法は、いまや情報通信技術などテクノロジーの発展に欠かすことのできないものである。本科目では、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法、実用新案、意匠など知的財産法の基礎的な内容を学習する。	
		グローバルスキル	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に国際社会に必要な英語能力を育成するために開講される。あるテーマに関連した語句や表現を学習し、英文を開き、聞いた情報をもとに適切な発信ができるよう、日常の口頭コミュニケーション力を養成する。テーマに沿った状況での会話をペアで作成し、発表するとともに、正確に聞き取り、正確な表現を習得し、自分の意見を述べるスピーチ原稿を作成し、発表する方法を学ぶ。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報通信学部 情報通信学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	情 報 通 信 学 基 幹 ： 自 己 発 展 科 目	テクニカルプレゼンテーション	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に協働に必要なコミュニケーション能力を育成するために開講され、プレゼンテーションスキルについて学ぶ。プレゼンテーションの手順、ITツールを利用した効果的な資料の作成手法を習得し、「自分の考えを正しく相手に伝えることが出来る」技術者となるための技術を身につける。具体的には、「プレゼンテーションのプランニング」「聞き手の分析と目標設定」「構成の決定」「言葉の使い方（説明の仕方）」「言葉以外の使い方」「視聴覚資料の作成方法」「リハーサル」「発表・質疑・説得・交渉」などに関する技法について演習を交えて学ぶ。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		プロジェクト基礎	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は問題発見フェーズの集大成として設置される。1,2年次に学んだ現代文明論科目、現代教養科目および基礎的な専門科目を通じて、現代社会の問題を調査し、グループワークを通じて情報通信技術を用いてどのように解決する手段があるのかを検討する。さらに実習設備を体験利用する事により、その解決手段について具体的な検討を行い、知識獲得フェーズにおける学びの計画立案を行う。	
		技術英語	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は国際社会で必要な英語能力を育成するために開講される。急激に国際化している技術開発やソフトウェア市場で必要となる英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。具体的には、海外のエンジニアと技術的なディスカッションをする能力、自社製品の 프로모ーションや論文発表での英語によるプレゼンテーション能力、ソフトウェア開発のドキュメントを英語で作成する能力、他国に発注したソフトウェア開発プロジェクトを管理する上でメールや電話によるコミュニケーション能力を学ぶ。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		プロジェクト実習 1	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特にチームプロジェクトを通じてプロジェクト管理、コミュニケーション、チームワーク、コンフリクトマネジメントなど協働する能力と学んだ専門知識を社会実装するための技術力を高めるために開講される。問題発見フェーズで設定した課題に関連した、1,2年次の専門科目を応用して解決できる小課題を設定、課題解決に必要な応用技術を学び、プロジェクトを通じて課題解決に取り組む。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		情報通信産業論	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に情報通信に関する産業界を理解するために開講される。情報通信学科の主専攻科目が、現在社会で利用されている情報システムとどのように関連しているのかについて産業界の方々による講義を通して学び、本学科を卒業することによりどのようなスキルを身につけることができ、どのような仕事が出来ようになり、どのような仕事に就けるのかを理解する。さらに、卒業後の進路（就職や進学）に関して、また、5年後、10年後の自分自身について、目標を立てて積極的に様々なことに挑戦しながら学生生活を送ることが出来るような意識付けを行う。	
		企業研究	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に各業界の特徴、現在直面している問題、今後の展望および必要とされる個人の能力とキャリアを考えるために開講される。業界における企業の位置付けや将来性などを学んだ後、興味を持っている業界・技術分野における企業の探し方を学び、調査分析を行う。あわせて、IT技術者として要求される能力、責任感、エンプロイアビリティについて学び自身のIT業界でのキャリアを考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	情報通信学基幹：自己発展科目	グローバルビジネス英語	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に国際社会に必要な英語能力を育成するために開講される。大学卒業後にグローバルに活躍する人材を養成することを目標に、実践的な外国語能力及びコミュニケーション能力を身につける。卒業時に『仕事で英語が使える』レベルに達するためには文法・語彙の知識の定着と発音・リスニング能力の向上とともに、日常会話やビジネスシーンで頻出する表現を身に付け、かつ英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が重要である。よって、(1) 様々な文化背景を持った人々に対する理解する力、(2) 時事・IT関連のビジネスニュース等を英語で理解し自分の言葉で説明できる英語力、(3) ビジネスでの交渉を念頭に置いたコミュニケーション・スキルといった内容を、習熟度に合わせて学習する。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		プロジェクト実習2	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特にチームプロジェクトを通じてプロジェクト管理、コミュニケーション、チームワーク、コンフリクトマネジメントなど協働する能力と学んだ専門知識を社会実装するための技術力を高めるために開講される。本科目では、問題発見フェーズで設定した課題に関連した、これまでに学んだ専門科目を応用して解決可能な課題を設定、課題解決に必要な応用技術を学び、プロジェクトを通じて課題解決に取り組む。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		インターンシップ	情報通信学基幹：自己発展科目は情報通信技術を産業界の発展や持続可能な国際社会の実現に役立てるために、コミュニケーション能力やコーディネート力といったコンピテンシーの獲得を目的として設置する。 本科目は特に情報通信に関する産業界を理解するために開講される。本科目では、学生が将来、社会に出て活動する現場を、実際に感じて「働くこと・働く仕事・働く仕事場」を理解させることが一番の目的である。そのため、企業派遣前の事前指導においてインターンシップを経験する当該企業に関して事前に調査し、「働く」ことに関する具体的な研修目的を学び、研修後の事後指導において、その研修目的をどこまで達成したのか、なにが自分に不足しているか、この経験を今後の就職活動にどのように生かしていくかについて理解し今後の目標を立てる。	
	情報通信学基幹：専門科目	情報通信学通論	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に情報通信技術全般の概要を把握するために開講される。本科目では、情報通信技術における「ネットワーク」「セキュリティ」「コンピュータ工学」「プラットフォーム技術」「ソフトウェア工学」「データベース・情報管理」「UXデザイン」「アプリケーション開発」「ウェブ・モバイルシステム」「情報倫理・知的財産」等の各分野についてその概要を学ぶ。	
		自然科学基礎	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特にその知識基盤として自然科学を論理的に理解するために開講される。電気と磁気、電気回路についての基礎的、物理的な解説を中心に行う。情報通信技術には、電気および磁気の力を用いた物理的な応用が多い。そのため、技術開発のためには電気、磁気の物理的な理解が欠かせない。また、自然現象を理論的に理解するための基礎的素養としても物理学の知識は欠かせない。よって本科目では情報通信技術で必要となる知識だけでなく広く自然科学としての知識も学ぶ。	
		情報通信数学基礎	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に数学について情報通信の様々な分野で共通に必要な基礎知識を学ぶために開講される。線形代数、微積分を中心とし、解析学、確率・統計、集合論の基礎的内容を、情報通信技術と関連付けて学ぶ。応用的内容はそれを必要とする科目の中で学ぶ事とし、その土台となる知識の取得と情報通信技術との関連を理解することを目的とする。	講義：14時間 実習：14時間
		プログラミング	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特にコンピュータで課題処理を行う際に必要となるプログラミングの基礎知識を学ぶために開講される。実習を通して、構造化プログラミング、手続き型プログラミング、オブジェクト指向プログラミングなどプログラミングの考え方、効率的な問題解決のためのプログラムの開発方法など、どのプログラム言語を学ぶ場合でも必要となるプログラミングの基礎概念・知識を学習する。併せて、問題解決の手順を考える能力、論理的な思考力も養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報通信学部 情報通信学科）				
科目 区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	情 報 通 信 学 基 幹 ： 専 門 科 目	物理学実験	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に電気を中心とした自然科学の現象を実感し理解を深めるために開講される。重力、音波・波動、熱および電磁気などに関する分野を対象とした実験を行い、それらの現象を理解すると共に測定器の配置や操作、データ解析、信頼性の評価、レポート作成技術について学ぶ。	
		データサイエンスと数理	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に、データサイエンスに必要となる数学的知識を身につけるために開講される。現代は今までのどの時代よりも膨大なデータを蓄積できるようになった。この膨大なデータに対して、データサイエンスの技術を活用することで、社会のあらゆる分野に大きな変革がもたらされるだろう。データサイエンスの基本的な仕組みについて解説するとともに、そのために必要となる数学について演習を交えながら学ぶ。具体的には、線形代数、統計学、確率論、データ解析、最適化、モデリング、プログラミングなどについて学ぶ。	講義：14時間 実習：14時間
		データ構造とアルゴリズム	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に、効率のよいプログラムを作成するために欠かすことのできないデータ構造とアルゴリズムについて学習する。具体的には、まずデータ構造とアルゴリズムの位置づけを明らかにし、次にデータ構造の一般的な性質と主要なデータ構造の操作方法およびアルゴリズムの設計手順と代表的な問題のアルゴリズムについて述べる。さらにこれを総合してデータ構造とアルゴリズムの概念を理解し、問題に応じて適したデータ構造とアルゴリズムが選択できるようになること、基本的なデータ構造を組み合わせて新しいデータ構造を組み立てたり、アルゴリズムの基本技法を組み合わせて新しいアルゴリズムを作ることができるようになることを目標とする。	講義：14時間 実習：14時間
		AIプログラミング	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に、AIについて理解し最適な利用法を身につけるために開講される。AIによるデータ分析について実習を通じて学ぶ。AIの各種アルゴリズムにはどのようなものがあるか、それを用いてどのようなデータ分析を行うことが出来るか、データの特徴に対して最適なアルゴリズムは何か、学習済みのモデルを利用した効率化などについて概論的に実習を通じて学ぶ。実習では単にツールを使うだけでなく、数学的な理解のもとにパラメータを調整するなどの方法についても学ぶ。	
		離散数学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に情報システムを学び応用力を身につけるための論理的な思考法やモデル化の手法など、数理的なアプローチを修得するために開講される。本科目では、数理能力を身につけるために、数理論理学、集合論、ブール代数、グラフ理論、モデル化、最適化、オートマトン等の基礎概念を学ぶと共に、これらがデータ構造とアルゴリズム、情報理論、プログラミング等とどのように関連するかについても学ぶ。	講義：14時間 実習：14時間
		情報理論	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に情報とは何かを定義しその性質を理解するために開講される。情報源と符号化の定義、平均符号長、一意に復号可能な符号と瞬時に復号可能な符号、平均符号長の最小値とエントロピー、コンパクト符号について学び、通信路と相互情報量について学ぶ。理解には確率過程に関する数学の知識が必要なため、適宜事象と確率条件付き確率と独立等の確率に関する知識も学習する。	
		基礎解析学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に、線形代数と微分積分の知識を基盤として、情報通信技術との関わりを十分に意識しながら研究対象を定量的に表現して、それを解析していく力を学ぶ。自然科学の法則を表現する方法としての微分方程式、そして微分方程式を解くための手法、および微分方程式の解を解釈するための考え方を学ぶ。また、情報通信技術に応用される多変数関数の極値問題、線形代数の固有値問題、ラプラス変換、フーリエ変換、z変換、ベクトル解析、複素関数論などの基礎理論を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	情報通信学基幹：専門科目	要求工学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 システムに対するユーザの要求は曖昧であり、また環境によって変化するため、その仕様を定義することは非常に困難である。一方、システムを開発する上ではユーザの要求を外部仕様として定義することが非常に重要となる。要求工学は、ユーザの要求を把握し、その解決方法を提示して、それを検証するという問題解決プロセスを工学的に定式化する技術の集合体である。外部環境・内部環境を入力情報として、ニーズ分析、目的分析などを実施した上で、その結果を外部仕様として定義し、この仕様をもとに、システム設計、構築・製作、試験の開発プロセスを展開する。本科目では、要求工学に係る様々な技術について体系的に学ぶ。	
		人間工学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目では、個人及び集団としての人間の身体的特性、生理的特性、心理的特性、情報処理特性、行動特性等の諸特性について理解するとともに、人間が適応することのできる人間の諸特性に配慮したインタフェース、職場・職務を設計する能力を習得する。さらに、人間特性に配慮したヒューマンインタフェース設計、職場環境及び職務の設計を行うために有効な人間工学的配慮事項について学ぶ。また、加齢や障害による低下が生じた場合の支援方法の一つとして、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインの考え方を、事例を通して学ぶ。	
		デジタル信号処理	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に画像、映像、音声など現実世界の様々な情報をコンピュータで解析・処理するために必要な知識を学ぶ。サンプリングと量子化、フーリエ解析、ラプラス変換、z変換、サンプリング定理について学び、DFTおよびこれを高速化したFFTなど、各種デジタル信号処理のアルゴリズムとその理論上・計算上の特性などについて理解する。また、ディジタルフィルタの概念および、特徴についても学習する。	
		統計学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目では、自然科学、工学、社会科学、経済学など様々な分野に応用されている確率論・統計学について学ぶ。コンピュータの発達により、調査目的を決めてデータをとって入力すれば、直ぐにその調査目的に対する結論が得られる状態になっている。既成の理論にしたがって調査結果の分析を行うだけであれば、ソフトウェアを用意すれば十分である。しかしながら、新しい事態が起こったときに十分対応出来る能力、表示された数値や結論などを正しく読み取る力を身に付ける必要がある。確率・統計の理論を理解し、それを活用するための技術について学ぶ。	
		データベース	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 データベースとはデータを保管、管理するための仕組みである。従来の関係データベースと近年急成長してきたNoSQLデータベースの2種類に大別される。本科目では、まず、実際のデータベースシステムMySQLを用いて、データ操作およびユーザー管理の各種SQL命令について学ぶ。そして、関係データベースの各種データモデルや業務用データベース設計法について具体例を通じて学ぶ。さらに、NoSQLデータベースについても、代表的なNoSQLデータベースについて、その基本的な考え方および基本操作について学ぶ。その上で実践的な応用問題についても取り組む。	講義：14時間 実習：14時間
		コンピュータアーキテクチャ	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目では、数値、文字、図形などのデジタル表現、それらのデジタル表現をコンピュータが処理するための命令、命令を実行するための構造について学ぶ。さらに、周辺機器との入出力、メモリシステム、ストレージシステムについて演習を交えて学習する。特に、仮想化技術を支えるアドレス変換、割込・例外処理、特権モードについては、具体的な事例を参照しながら、実習により理解を深める。	講義：14時間 実習：14時間

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目 区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	情 報 通 信 学 基 幹 ： 専 門 科 目	認知科学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に人を情報処理システムとみなした場合に人間の認知過程をどのように理解するかについて学ぶ、人工知能の基礎ともなる科目である。まず、認知科学の概要を概観し、知覚、認知、注意、表象、記憶などについて学ぶ。次に、脳の情報処理、即ち、五感から入力された情報を「知る過程」、知識を得て「記憶する過程」、知識を利用して「問題を解決する過程」などについて学ぶ。	
		暗号と情報セキュリティ	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に安全な情報通信ネットワークを構築するための重要な要素技術の中から、主に暗号技術および情報セキュリティ技術に着目して学修を進め、これら要素技術の基礎について理解を深める。高度情報化社会においては、情報および情報システムの安全性の確保が不可欠である。本科目では、個々の技術の基本的な考え方を学ぶことにより、現在の多様な先端技術や今後に出創される新しい技術についても理解し柔軟に対応するための基礎学力や、最新の知識を取り入れ活用するための応用力を培う。	
		ソフトウェア設計モデリング	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 現在のソフトウェアは大勢の人々が協力し開発する。従って、プロセス(工程)があり分担がある。開発に携わる人々は、何を作ろうとしているのか、依頼すること／されることは何か等を明確にし、お互いに情報を共有しなければならない。情報を共有するための道具としてソフトウェアモデルは重要な役割を果たす。本科目では、ソフトウェアプロセスおよびソフトウェアモデルについて学習する。ソフトウェア開発にとって重要な3要素は、品質・コスト・納期とソフトウェアプロセス／モデルがどのように関係するかについて明らかにする。特に、UML (Unified Modeling Language)でモデリングする方法を中心に学習する。	
		ヒューマンインタフェース	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に人と機械の間で効率的な情報のやり取りを行うためのインタフェース技術について学ぶ。人の特性を考慮した効果的なインタフェースの設計とアプリケーションへの実装、ユーザの経験に基づくインタフェース設計、人間中心設計の考え方、ユーザーアシスト技術とアクセシビリティ、ユーザーアドボカシーの理解について学ぶ。また実習を通じて実際にインタフェースの設計と評価も行う。	講義：14時間 実習：14時間
		通信ネットワーク工学	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に通信ネットワークシステムの設計や構築、利用に必要な基礎事項を修得する。高度情報化社会における通信ネットワークシステムは、情報の迅速な伝達や情報処理資源の円滑な利用に必須の技術である。広く参照されている通信機能の階層的モデルに沿って、各階層が提供する機能をそれぞれ学修し、通信ネットワークシステムの事例を通じて実際の仕組みを学ぶことにより、最新の通信技術への理解と将来の応用技術に寄与する柔軟な思考を促進する。	講義：14時間 実習：14時間
		機械学習	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 機械学習とは、機械（コンピュータ）が自ら学習し、膨大なデータから判断基準や特徴パターンを見つけることである。機械学習の技術を応用することで、今まで蓄積したデータから学習し、そこから得られた知識により未来のものを予測することができるようになる。本科目では、機械学習の回帰、クラスタリングおよび分類などの基本アルゴリズムについて解説し、Python言語によるプログラムを用いて実現する。その上で、これらの基本アルゴリズムの演習として、株価予測、自然言語処理や画像識別など応用問題に取り組み、Pythonプログラムによるアプリケーションを作成する。	講義：14時間 実習：14時間
		WEBアプリケーション開発	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目では、HTMLやCSSによるレスポンシブWebデザインに対応したWebページ作成の基礎から、World Wide Webの仕組み、WebサーバサイドプログラミングによるインタラクティブなWebサイトの基礎を学ぶ。その後、セッションによる接続管理やデータベース、APIなどを用いて実際のWebシステムに近いシステムの作成を目指す。また、サーバサイドとクライアントサイドのプログラムを組み合わせることによるWebサーバの負荷や通信量軽減手法なども学ぶ。	講義：14時間 実習：14時間

授 業 科 目 の 概 要				
（情報通信学部 情報通信学科）				
科目 区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	情 報 通 信 学 基 幹 ： 専 門 科 目	オペレーティングシステム	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目では、コンピュータを動作させるための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムの動作と利用方法について実習を交えて学習する。主な学習項目は、構成要素、システムコール、ファイルシステム、仮想記憶、マルチタスク、マルチユーザー、デバイスドライバである。また、オペレーティングシステムの性能を測定／解析する手法も学習する。実習にはプログラム言語のスキルが必要である。	講義：14時間 実習：14時間
		サイバーセキュリティ	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特にセキュリティ分野において、システムや人を含めた安全管理技術全般について学ぶ。ネットワークを介してつながっているサイバー空間を対象として、マルウェア対策、サイバーインシデントのハンドリング（発見、共有、管理）やセキュリティオペレーション（サイバー攻撃の検出や分析、攻撃を受けている箇所への適確なアドバイスなど）について学ぶ。	講義：14時間 実習：14時間
		情報通信ゼミナール	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 本科目は特に研究室単位の少人数ゼミナール形式にて、与えられたテーマに沿って問題解決のための技法・技術を体験的に修得する。国内外の文献調査、グループディスカッション、情報収集と分析、プレゼンテーションなどを通じて問題発見・解決の過程を体験的に学んでいく。この科目は、今まで身に付けて来た知識やコミュニケーション力、コーディネート力を実践的に融合させ、自らの力としていき、卒業研究1・2へ繋げる科目である。 加えて、グループ学習や課題発表等を通じて、学生同士、教員からのアドバイスなどにより、他者からの視点による新たな気づきや、倫理観の育成などを行っていく。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		卒業研究1	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 特に卒業研究1・2はその集大成となる。本科目では、まず、社会の現状と要請、学術的動向と価値を考慮した卒業研究テーマの設定を行う。その背景と目的を理解し、解決するための方法と解決までのスケジュールを検討する。さらに、解決のために必要となる関連分野の調査、専門知識・技能の修得とグループワーク等による意見交換を通じて自ら考える力を養うと同時に、目的意識の高揚、倫理観の醸成を行う。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
		卒業研究2	情報通信学基幹：専門科目は、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として設置する。 特に卒業研究1・2はその集大成となる。本科目では、卒業研究1で計画した研究方法、スケジュールに基づき、具体的に研究を遂行する。自ら計画した研究を実施することにより、得られたデータの取り扱い、学生同士の意見交換、教員からのアドバイス等を経ながら、使命感、倫理観、実社会で活躍できる力等を身に付けていく。そして、遂行途中での中間評価とそれに基づく計画修正などを経て、問題解決に至るプロセスを体験し、成し遂げていく。 最後に本学科における学修成果として卒業論文を執筆し研究成果のプレゼンテーションを行う。本学科の重要科目として位置付けられる必修科目である。	
	先 端 的 デ ー タ 処 理	人工知能と知的制御	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 IoT・人工知能・ロボットの諸技術の進展に伴って、センサーにより外界の状況を把握し、文脈に応じた推論と意思決定に基づいて、外界に対し応答するという処理を繰り返す知的制御システムが重要になっている。本科目では、ロボットに代表される知的制御システムのコア技術を理解・活用する力の育成を目的として、人工知能と知的制御を概説する。人工知能については、探索、ゲームの理論、学習と認識、言語と論理などの基礎的な要素技術が知的制御システムを実現する上でどのように役立つかを学ぶ。知的制御では、外界とインタラクションしながら状況認識や学習を可能するための基盤技術である強化学習とベイズフィルタの考え方を学ぶ。	
		自然言語処理	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目はコミュニケーションにおいて必要不可欠なメディアである言語について扱う。まず、自然言語処理・理解に基づいた言語メディアについて学ぶ。自然言語処理の必要性和困難さ、言語理解における構文論と意味論、および構文解析に重点をおいた言語処理技法、構文・意味解析技法、文法データ、意味データの作成法などについて学ぶとともに、これらの学習から、人間の自己表現能力、コミュニケーション能力と言語メディアの関係を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	先端的データ処理	データ分析	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目はデータから新たな知見を獲得する統計的手法を中心に、どのようにしてデータ分析によって一般的な課題を解決するのかを学び、それを実践する力（統計的思考に基づく課題解決力）を身につける。具体的には、統計グラフや指標によるデータの要約と比較、統計的仮説検定による仮説の検証、モデリングによる現象の理解と予測について、理論的な理解と統計ソフトウェアによる分析の実践を学ぶ。また、分析結果を他者に伝えるための適切な資料の作成についても学ぶ。	
		サイバーフィジカルシステム	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 e-society5.0の推進・普及に伴い、現実世界(フィジカル空間)から収集した大規模データをサイバー空間上でデータ処理することで、社会を最適化するサイバーフィジカルシステム(CPS)が重要になってきた。CPSの実現には、実世界を表現・シミュレートするモデルベースアプローチと、データから実世界の知識を抽出するデータ駆動アプローチを融合した問題解決力が必要になる。本科目では、CPSの設計・理解に必要なコア技術を理解・活用する力の育成を目的として、モデルベースアプローチとして、知識表現、物理モデル、シミュレーションを学び、データ駆動アプローチとして、データモデルと統計モデルを学んだ上で、両アプローチを融合するための制御モデルを学ぶ。	
		メディア処理・認識	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目は音声、画像を中心としたデジタルメディア処理について学ぶ。まずデータのデジタル化と分析の基礎となる周波数解析についてその概念と数学的知識について理解する。さらに各種画像処理、音声処理の手法について実習を交えて学ぶとともに、現代社会で欠かせない個人認証技術やインタフェース技術となっている音声認識、画像認識について学ぶ。	講義：14時間 実習：14時間
		ビッグデータ	先端的データ処理科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にデータを収集・処理・分析する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 近年、インターネットのWebサイトやSNSの投稿などのように、膨大なデータが創出され、蓄積されてきた。2010年前後に、従来の技術では取り扱いが困難となった大規模データ集合を表す言葉として、「ビッグデータ」が登場した。ビッグデータに保存、管理に関するデータベース技術、並列処理、分散処理などパフォーマンスコンピューティング技術、さらにHadoopのような大規模データ処理のための基本的な枠組みについて学ぶ。その上で、フライトデータ、Twitterデータ、位置情報データなどの大規模データセットを用い、実践的なデータマイニングアプリケーションを作成する。	
	プラットフォーム・デザイン	クラウドコンピューティング	プラットフォーム・デザイン科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にシステム実装の基盤となるソフトウェアやハードウェアに関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 高度情報化社会においては、ユーザが必要な機器や機能を個別に揃えてシステムを構築する従来の形態に加えて、情報通信ネットワークを介して必要な機能を迅速に入手するクラウドコンピューティングが広く利用されている。本科目では、クラウドコンピューティングを支える主要な基盤技術について理解を深め、多様な機能を提供する情報処理資源を活用する基礎知識を修得する。クラウドコンピューティングの基本的な構成を学ぶことにより、高度な情報処理機能を柔軟に利用するための基礎と、最新技術を組み合わせ活用するための応用力を獲得する。	
		プラットフォームアーキテクチャ	プラットフォーム・デザイン科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にシステム実装の基盤となるソフトウェアやハードウェアに関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目では、情報技術において様々なサービスの基盤・土台となっているプラットフォームについて学ぶ。マイクロプロセッサ・OS（オペレーティングシステム）・通信プロトコル・開発フレームワーク・ライブラリといった、世界中で大きなシェアをもつプラットフォーム群は、様々な経緯で標準の地位を獲得してきた。こうしたプラットフォームの、ソフトウェア・ハードウェア両面のインターフェイス設計、具体的な使用方法やアーキテクチャを知ること、それらのプラットフォームが多くのユーザを獲得してきた過程や、共通に持つ性質を理解する。	
		言語処理系基礎	プラットフォーム・デザイン科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にシステム実装の基盤となるソフトウェアやハードウェアに関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 近年、スマートフォンやスマートスピーカーに話しかけると、天気やニュースを教えてくれたり、テレビを付けてくれたりするようになった。このように人が話す言葉を自然言語と呼び、人の言葉を処理するシステムを自然言語処理系と呼ぶ。また、プログラムを処理しコンピュータで動かすことをプログラミング言語処理系と呼ぶ。各々は個別の発展を遂げているが、初期の基礎的な概念は共通である。本科目では、基礎的な概念を中心に、近年のメタモデリングやメタ言語などを学ぶ。また、言語処理系と関連したプログラミングについても学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報通信学部 情報通信学科)				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	プ ラ ツ ト フ ォ ー ム ・ デ ザ イ ン	エッジ・コンピューティング	プラットフォーム・デザイン科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にシステム実装の基盤となるソフトウェアやハードウェアに関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 エッジコンピューティングは、利用者が使用する端末やセンサーなど、データの発生源およびその活用に物理的に近い場所に装置を配置し、計算、ストレージなどの資源を効率的に活用するコンピューティングモデルである。本科目では、センサーや機器などがインターネットにつながり新たなサービスを提供するIoT（Internet of Things）実現のために、インターネットとの接続性、多種多様なデータ処理（機械学習を含む）の高速化、セキュリティ・プライバシーの確保など、インターネットにつながるエッジ（きわ）に求められる要件と、それらを実現するための技術とその利用形態について学ぶ。	
		モバイルコンピューティング	プラットフォーム・デザイン科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特にシステム実装の基盤となるソフトウェアやハードウェアに関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 モバイルコンピューティングとは、スマートフォンや携帯電話、ラップトップコンピューターなどの携帯端末を用いたワイヤレスネットワークを中心としたコンピュータの利用形態である。ワイヤレスネットワークは、携帯電話網、無線LAN、Bluetoothなどの無線通信技術の発展により大きくその進化を遂げた。本科目ではモバイルコンピューティングの基盤となる無線通信、ワイヤレスネットワーク、ネットワークプロトコル（アドホックネットワークプロトコル等）などの技術と、これら技術によって実現される利用形態について学ぶ。	
	総 合 情 報 シ ス テ ム	情報検索と検索インタフェース	総合情報システム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に情報の伝達・表現に関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 従来の図書論文検索、特許検索から現代のWeb検索エンジンまで、情報検索技術は、時代とともに進化し、人々の情報アクセス能力の向上に大きく貢献した。本科目では、従来のTFIDF、ベクトル空間法から始まり、潜在意味解析、トピックモデル、ページランクまで代表的な情報検索技術について学ぶ。また、検索エンジンの構成やユーザーインターフェースの実現における考え方およびユーザーからのアクセス情報を検索処理にフィードバックする手法についても学ぶ。さらにアプリケーションプログラムを作成し、検索エンジンシステムの性能評価を行う。	
		CGとバーチャルリアリティ	総合情報システム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に情報の伝達・表現に関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目では、多様な情報処理技術を統合し、コンピュータ内に高い臨場感でバーチャル空間を構築し、各種インタフェース技術を用いた五感インタフェースを介してコミュニケーションを取る技術について学習する。具体的には、CGの基礎概念と各種技法、バーチャルリアリティにおけるセンサ技術、ディスプレイシステム、シミュレーションシステムについて実習を交えて学ぶ。	講義：14時間 実験：14時間
		モバイルアプリケーション開発	総合情報システム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に情報の伝達・表現に関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目では、まず、モバイルアプリケーションとPC向けアプリケーションとの違い、ネイティブアプリケーション、ハイブリッドアプリケーションやマルチプラットフォームアプリケーションなどのモバイルアプリケーションの種類について学ぶ。その後、Java(AndroidSDK)やKotlin等を用いたモバイル端末向けプログラミングの基礎、センサやカメラなどを使用したアプリケーションの開発実習、エミュレータによる動作テストを行う。また、モバイル側アプリケーションとサーバ側での処理を連携させたシステムについても学ぶ。	講義：14時間 実験：14時間
		スマートロボットシステム	総合情報システム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に情報の伝達・表現に関する高度な技術を身につけることを目的として設置される。 ドローンや自動掃除機は、身近なスマートロボットシステムである。旧来の組込みシステムは、機器を動かすことが中心であった。スマートと名付けられたシステムは、ネットワークにつながることで、様々なサービスを提供する。例えば、スマートフォンでは、音楽、ゲーム等、多様なサービスを楽しむことができる。一方、単なるフォン(phone)は電話でしかない。本科目では、ロボットを動かすことに加え、ロボットが提供するサービスを考え実現することについて学ぶ。その過程において、プロジェクト開発の基礎について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報通信学部 情報通信学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム	マネジメントシステム	マネジメントシステム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に経営上の諸問題を解決する際に必要となる高度な技術を身につけることを目的として設置される。 マネジメント（経営）には、ヒト・モノ・カネ・情報という4つの資源が欠かせない。マネジメントの効率化を図るためには、これらの資源を有効に活用することが要求される。つまり、マネジメント組織の目標を達成するためには、これらの4つの資源をどのような方法で活用すべきか考える必要がある。そのためには、管理の考え方が有効である。本科目では、経営システム工学分野で用いられるヒト・モノ・カネ・情報に関する管理の考え方について学び、実際の生産現場やサービス提供の場でどのように活用されているかを理解する。	
		品質と信頼性・安全性	マネジメントシステム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に経営上の諸問題を解決する際に必要となる高度な技術を身につけることを目的として設置される。 品質管理・マネジメントとは、顧客から見た企業・組織が提供している有形、無形の製品の“質”を維持し、向上し、創造するためのマネジメント技術である。建設業であれ、製造業であれ、または病院やホテルなどのサービス業でさえも、品質管理は必須となる。近年の医療事故、自動車のリコール問題などは品質管理・マネジメントが取り扱う問題の一例であり、技術の高度化・複雑化や成熟社会における顧客の多様化に伴い、今日においてより一層重要視される学問である。本科目は、実践事例を交えながら、品質管理の概要を理解し、社会・企業における品質管理の重要性・意義の理解を目標とする。	
		スマート社会と人間行動	マネジメントシステム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に経営上の諸問題を解決する際に必要となる高度な技術を身につけることを目的として設置される。 情報通信技術の進展により、ネットワークと様々な機器を接続し、AIなどの問題解決エンジンを用いて遠隔で操作するIoT技術が普及しつつある。それによって、従来人間が行っていた行動が、IoT技術が組み込まれたシステムにとって替わる可能もある。このようなスマート社会の到来により、人間行動が変容することは避けられない。本科目では、IoT技術が組み込まれた機器、システムについて学ぶとともに、スマート社会における人間行動の変容と、IoT技術が人間に与える影響について考察する。	
		プロジェクトマネジメント	マネジメントシステム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に経営上の諸問題を解決する際に必要となる高度な技術を身につけることを目的として設置される。 プロジェクトマネジメントは、未知の領域を含んでおり失敗のリスクが高いプロジェクトを成功に導くために必須の管理手法である。本科目では、ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントについて、プロジェクトマネジメント知識体系のデファクトスタンダードであるPMBO K (Project Management Body Of Knowledge)に準じたプロジェクトマネジメントの概念ならびに基本的なプロジェクト管理の進め方などの体系を修得することを目標とする。	
		オペレーションズ・リサーチ	マネジメントシステム科目は情報通信技術で問題解決する際に必要となる知識の中で特に経営上の諸問題を解決する際に必要となる高度な技術を身につけることを目的として設置される。 本科目では、実社会における諸問題を数理的にモデル化し、それを分析することにより科学的に問題解決を図るオペレーションズリサーチ (Operations Research:OR) について学ぶ。オペレーションズリサーチの様々な理論・技術を身近な問題を通して学ぶとともに、学生自身の身近な問題を対象に、グループワーク形式による解決に取り組み、その成果の発表（プレゼンテーション）を行う。	

(位置関係図)

東海大学 湘南校舎
神奈川県平塚市

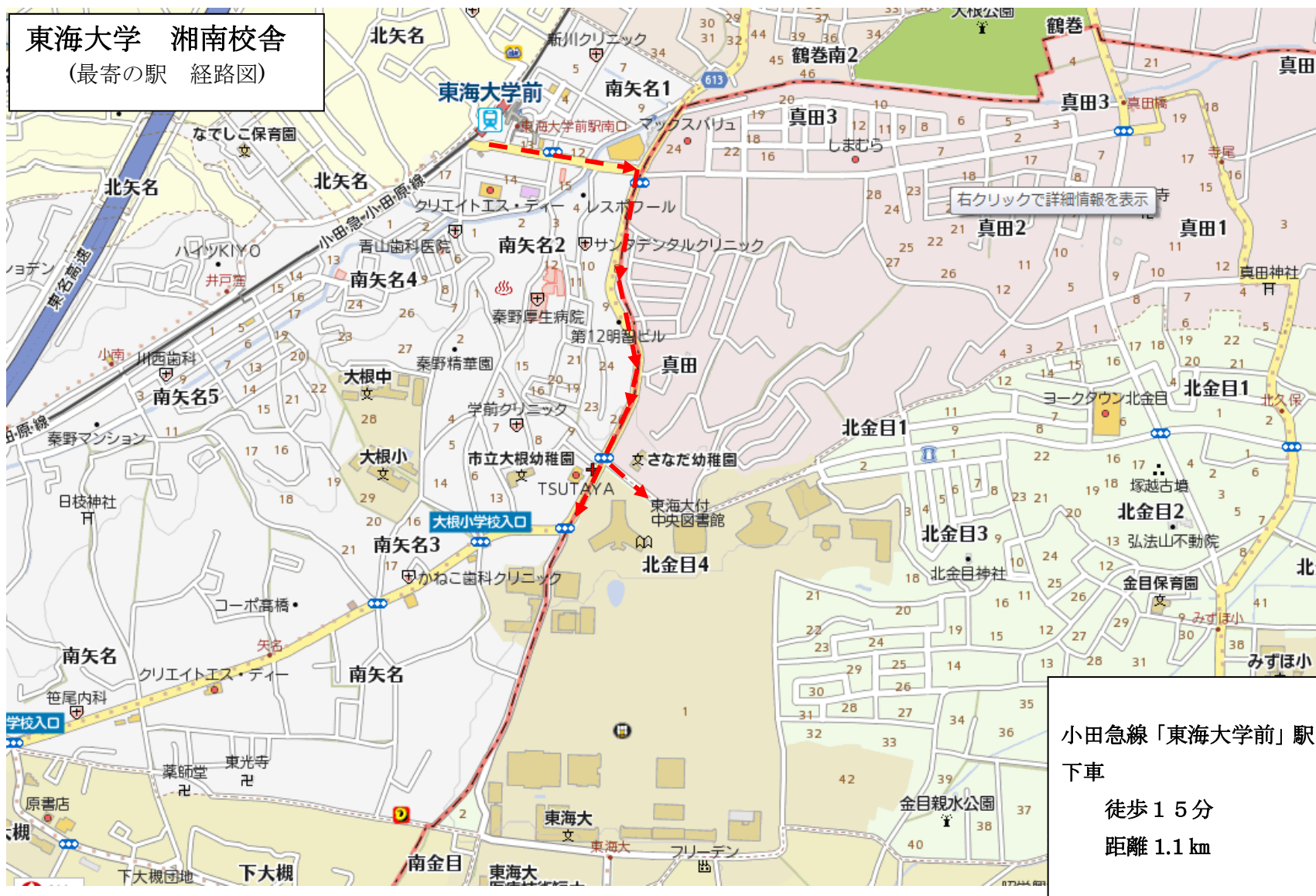


(位置関係図)

東海大学 高輪校舎

東京都港区



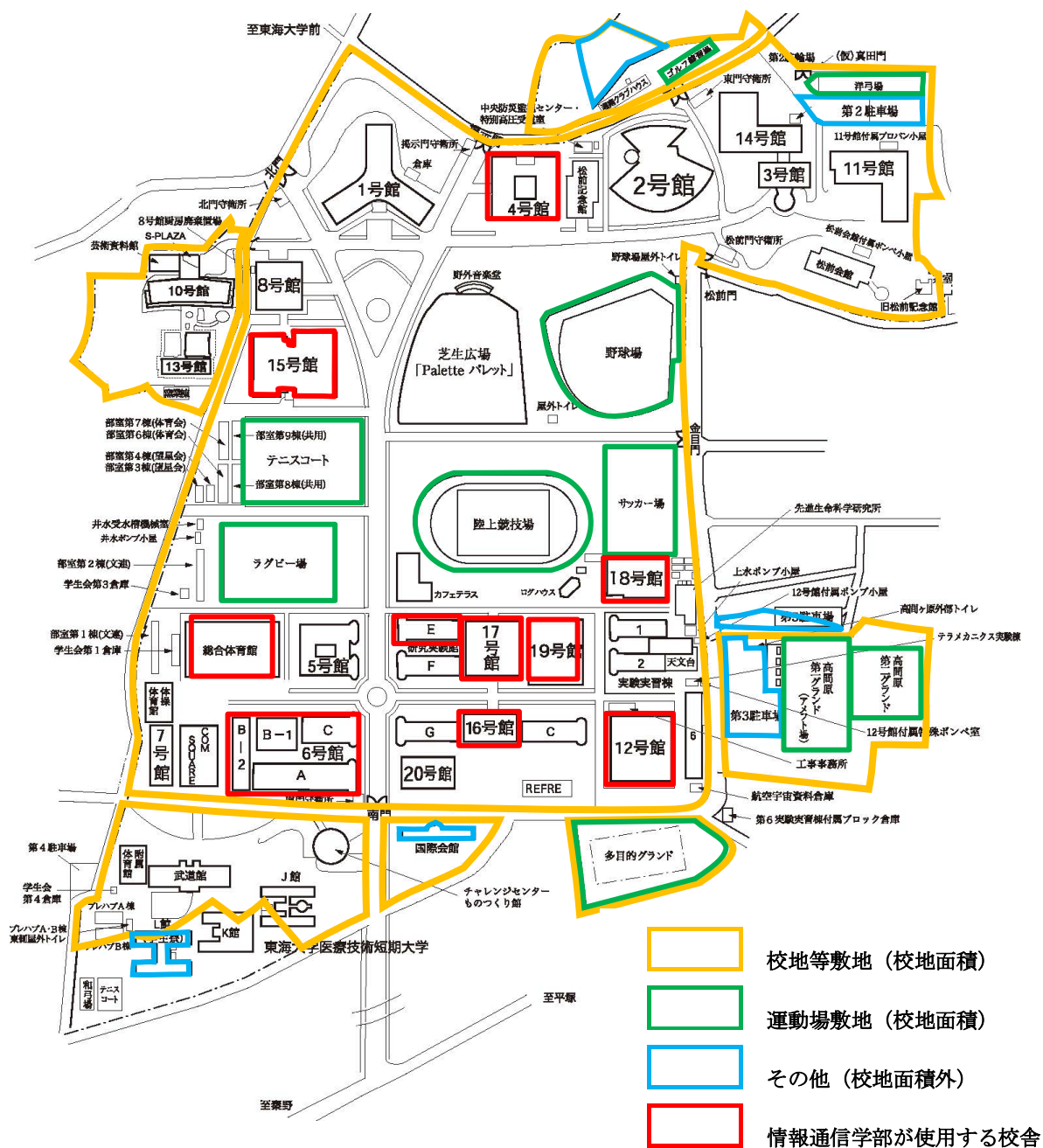


図面-10

東海大学 高輪校舎 (最寄りの駅 経路図)



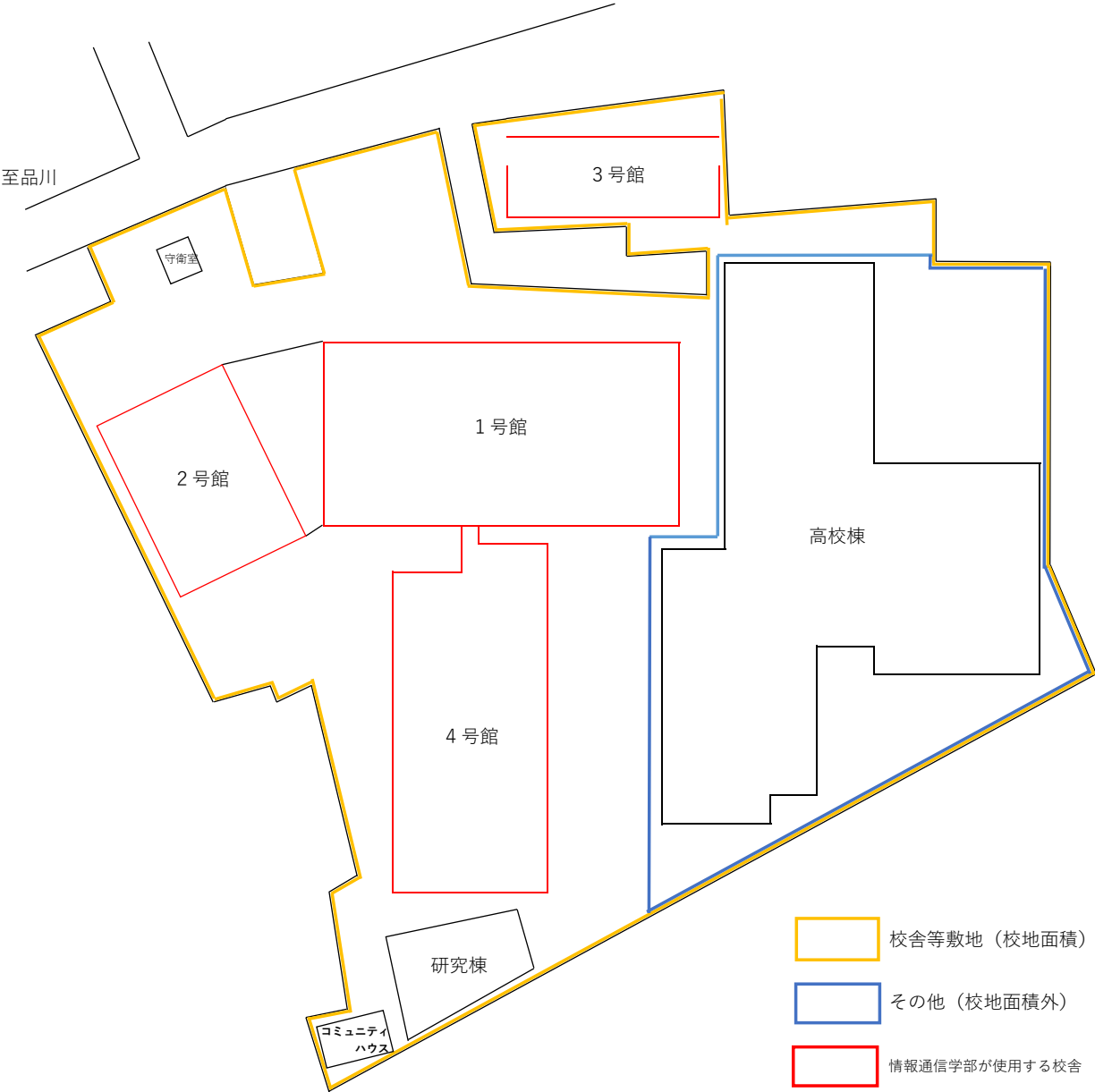
湘南校舎配置図



湘南校舎 校地・校舎面積

区分	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
校地等	校舎敷地	377,017.10 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	377,017.10 m ²
	運動場用地	155,168.27 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	155,168.27 m ²
	小計	532,185.37 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	532,185.37 m ²
	その他	14,699.03 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	14,699.03 m ²
	合計	546,844.40 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	546,844.40 m ²
校舎	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	

高輪校舎 校舎配置図



高輪校舎 校地・校舎面積

校地等	区 分	専 用	共 用	共有する他の学校の専用	計
	校舎敷地	10,258.75 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	10,258.75 m ²
	運動場用地	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²
	小計	10,258.75 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	10,258.75 m ²
	その他	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²
	合計	10,258.75 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	10,258.75 m ²
校舎	区 分	専 用	共 用	共有する他の学校の専用	計
		20,767.57 m ² (20,767.57 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	20,767.57 m ² (20,767.57 m ²)

**設置の趣旨等を記載した書類
情報通信学部情報通信学科**

【本文目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- 2 学部・学科等の特色…p. 4
- 3 学部・学科等の名称及び学位の名称…p. 5
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…p. 6
- 5 教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p. 9
- 6 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の
具体的計画…p. 14
- 7 入学者選抜の概要…p. 17
- 8 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 18
- 9 施設・設備等の整備計画…p. 20
- 10 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画…p. 21
- 11 管理運営…p. 22
- 12 自己点検・評価…p. 22
- 13 情報の公表…p. 23
- 14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 27
- 15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 27

1 設置の趣旨及び必要性

1. 東海大学の 2022 年度改組改編

東海大学では、建学 80 周年にあたる 2022 年 4 月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国 5 キャンパス 8 校舎 23 学部 62 学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学科構成を目指し、湘南校舎（神奈川県平塚市）に次の学部学科を新設する。

児童教育学部（児童教育学科）を新設する。

情報理工学部（情報メディア学科）を新設する。

建築都市学部（建築学科、土木工学科）を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部（児童教育学科）の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）で行う。

②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎（東京都港区）に次の学部学科を新設する。

経営学部（経営学科）を新設する。

国際学部（国際学科）を新設する。

情報通信学部（情報通信学科）を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部のさらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎（静岡県静岡市）に次の学部学科を新設する。

海洋学部（海洋理工学科（海洋理工学専攻、航海学専攻））を新設する。

人文学部（人文学科）を新設する。

④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、文

理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部さらなる充実を図るため、熊本校舎（熊本県熊本市）において、文理融合学部（経営学科、地域社会学科、人間情報工学科）を新設し、臨空校舎（熊本県上益城郡）において、農学部農学科、動物科学科、食生命科学科を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

2. 情報通信学部情報通信学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

1) 情報通信学部の教育研究上の目的・養成する人材

情報通信技術は社会のインフラであり人々の生活に欠かせない技術である。さらに、コンピュータの能力の向上、小型化、遍在（ユビキタス）化、ネットワーク化およびモバイルデバイスとそのネットワークの発展にともなう情報通信技術の進展により、人々の生活の質的変化・価値観の変化は日々急速に進行し、情報通信分野はその変化の中心で、今までの価値観では考えられない範囲で影響を与えている。このような時代において、情報通信技術をどのように発展させ、どのようにイノベーションを起こし活用していくかは、持続可能な社会を構築していくためにも大変重要な問題である。

情報通信学部においては以上の課題や問題の解決を目指し、多様性と国際性を兼ね備えた広い視野とコミュニケーション能力を有するとともに、情報通信に関する専門知識と技術を身につけ、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考力と活用力を備えた、情報通信技術者としての使命感、倫理観をもった人材を養成する。

情報通信技術による持続可能な社会実現のために、情報通信技術により解決可能な諸問題を理解するための幅広い教養、情報通信技術の基礎知識とそれを問題解決のために自ら応用できる能力および他分野と協働して革新的な技術開発を行うことが出来る能力を修得させる。

2) 情報通信学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

情報通信分野は、日々進歩する技術面の変化だけではなく、人々の生活、政治、環境を含めた世界規模での変化と相関関係を持ちながら、新しい課題や問題を生み出している。情報通信学科では、身近な社会から世界まで生じているこれらの問題に対して“解決策を見出していくこと”を目的に、「グローバル社会の中で活躍できる英語能力と多様化する価値観を受容できる“コミュニケーション力”」を有し、「社会に生じる諸問題に対して“情報通信の専門性と技術力”に基づき、“柔軟な思考力と活用力”をもって他分野との協働により解決を目指す“コーディネート力”」を身に付け、「“情報通信技術者としての使命感と倫理観”をもって“自ら考え行動し、解決を目指す”」ことができる人材を養成し、新しい時代の到来に向けた課題や問題の解決を目指していく。

【ディプロマ・ポリシー】

情報通信学部情報通信学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（情報通信学）」を授与する。

『知識・理解』

高度情報化社会が要求する情報通信の多様な先端技術に柔軟に対応できる基礎・専門知識。

『汎用的技能』

グローバル社会の中で活躍できる英語能力と、多様化する価値観を受容できるコミュニケーション力を持ち、先端的情報通信技術を活用して、社会に生じる様々な問題に対して他分野との協働により解決を目指すことができる“コーディネート力”と実践的専門能力。

『態度・志向性』

高度情報化社会のあり方を総合的に把握し、情報通信技術者としての使命感、責任感、倫理観をもって、自ら考え行動し、解決を目指す。

【養成する人材像】

国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有し、情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考能力と活用能力を備え、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった人材。

3. 研究対象とする中心的な学問分野

情報通信分野は、人々の生活、政治、環境を含めた世界規模での変化と相関関係を持ちながら新しい課題や問題を生み出しており、これらの問題に対して解決策を見出していくことが必要とされている。また第5期科学技術基本計画において提唱された Society 5.0 では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、フィジカル空間からの膨大な情報をサイバー空間において解析し、その結果をフィジカル空間にフィードバックすることにより新たな価値の創造や課題の克服を目指している。

そこで情報通信学科においては、社会のインフラとして人々の生活に欠かせない技術である情報通信学の分野を柱とし、「膨大なデータの処理や認識に活用するAIなどの技術を修得する“先端的データ処理”」、「データ、情報処理資源および情報利用箇所それぞれの空間的な配置に依存しない柔軟な情報活用プラットフォームの構築技術を修得する“プラットフォーム・デザイン”」、「サイバー空間におけるデータ処理の結果をフィジカル空間で活用するインタフェース技術、VR技術、アプリケーション開発などを修得する“総合情報システム”」、「人とモノをつなげる機能の品質維持や有機的な組み合わせを人間の行動を考慮して企画管理するための技術を修得する“マネジメントシステム”」により、専門性を高め将来の情報通信分野の発展に貢献する力を身につけていくための研究活動と教育活動を行う。

2 学部・学科等の特色

情報通信学科では、グローバル社会の中で活躍できる英語能力と多様化する価値観を受容できる“コミュニケーション力”を有し、社会に生じる諸問題に対して「情報通信の専門性と技術力」に基づき「他分野との協働により解決を目指す“コーディネート力”を身に付け、“自ら考え行動し、解決を目指す”ことができる人材を養成する。「情報通信の専門性と技術力」育成のためのカリキュラムは、IEEE/ACMが定めた情報通信分野のカリキュラム標準に準拠しており、世界で活躍できる情報通信技術を身につけることができる。また、カリキュラ

ムの基幹として、スキルを身に付けていく「情報通信学基幹：専門科目」と“語学力、プレゼン・ライティング等の表現力、協調性、社会で活躍するための実践力”などのコンピテンシーを獲得する「情報通信学基幹：自己発展科目」を配置し、高年次にはより専門性の高い4つの科目群（「先端的データ処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」）を配置しており、Society5.0 を実装した社会を実現するための総合的情報通信技術を身に付けることができる。これらカリキュラムを通して学ぶ総合的情報通信技術を問題解決力として結実させるために、4年間で3つのフェーズを通じて実践していく。1・2年次に多様な教養科目、専門基礎科目を学ぶ事により、「情報通信技術でどのような社会問題を解決できるのか？」という問題発見能力を養う「問題発見フェーズ」、2・3年次では、問題解決のための知識獲得を目的とした専門科目を学ぶ事により、幅広い専門知識・技能を習得する「知識獲得フェーズ」、その上で、4年次には、学生自らの問題発見し、これまでに習得した知識、技術を活用して問題解決に取り組む「問題解決フェーズ」である。これら専門科目での学びに加え、社会科学系学部が開講する学系共通科目の履修による多種多様な学びを通じて「総合知」を身につけることで、世界標準の情報通信技術を活用してSociety5.0 を実装し、SDGs を達成することに貢献できる人材を育成することを特色としている。

なお、情報通信学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像(平成17年1月)」で提言された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、大学の7種の機能のうち、「幅広い職業人の養成」を担う人材の養成を目指す。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学科の名称

情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、さらにそれを社会で十分に応用できる柔軟な思考力と活用能力を備え、幅広い知識、国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有すると共に、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった、グローバル化する世界における高度情報化社会の発展と創造に寄与できる人材育成を行うことから、学科の名称を「情報通信学科」とする。

2. 学位の名称

情報通信学部において、学位は専門領域を適確に表現できることが重要であり、産業界にも受け入れやすく、国際的にも普通に受け入れられる名称である必要がある。こうした背景の下に、学位の名称を「学士（情報通信学）」とする。

【日本語名称】

学部名称：情報通信学部

学科名称：情報通信学科

学位名称：学士（情報通信学）

【英訳名称】

情報通信学部	: Undergraduate School of Information and Telecommunication Engineering
情報通信学科	: Department of Information and Telecommunication Engineering
学士（情報通信学）	: Bachelor of Information and Telecommunication Engineering

4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

情報通信学部情報通信学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

情報通信学科では、Society5.0 を実装した社会を実現するための世界標準かつ総合的情報通信技術を身に付けるために、各学部・学科の基本を理解し、所属する学部学科にとらわれず自ら学びを進め、自ら問題を見出し、解決を目指していく姿勢を身につけていく「学系共通科目」を、カリキュラムの基幹として、スキルを身に付けていく「情報通信学基幹：専門科目」と”語学力、プレゼン・ライティング等の表現力、協調性、社会で活躍するための実践力”などのコンピテンシーを獲得する「情報通信学基幹：自己発展科目」を、高年次にはより専門性の高い4つの科目群（「先端的数据処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」）を設定し、科目を配置する。

なお、この教育課程は、IEEE/ACM が定める IT の世界標準カリキュラムである IT2017 に準拠したカリキュラムとなっている。

『学修成果の評価方法』

情報通信学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をととして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。**【資料1】参照**

2. 教育課程の構成

1) 現代文明論・現代教養科目・英語科目（教養科目）

教養科目として、1年次から2年次にかけ、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをととして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てると

ともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

「Ⅰ 現代文明論」

幅広い分野の問題点や課題の発見、そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした「現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

「Ⅱ 現代教養科目」

“基礎教養科目”において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」を開講し、“発展教養科目”において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シティズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、“健康スポーツ科目”において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

「Ⅲ 英語科目」

“英語コミュニケーション科目”において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につけるため、「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」を開講する。

「ライティング&ライティング」を開講する。

2. 主専攻科目（専門科目）

「学系共通科目」

本学の社会科学系学部におけるグローバル人材教育を推進するため、情報通信学部、政治経済学部、法学部、観光学部、国際学部、経営学部の共通科目として「学系共通科目」を置く。この科目群は、各学部・学科の基本を理解する入門的な科目から始まり、学部学科を超えて、学生たちが融合、刺激しあいながら自ら学びを進めていくこと、自ら問題を見出し、解決を目指していく姿勢を育成していくことを目的とする。

多分野にまたがる入門科目により、幅広い専門分野の基礎的な知識・視野と学生たちの興味を引き出し、「異文化コミュニケーション入門」において、国や人種における違いだけではなく、地域性や世代、経験の違いなどにより生じる文化背景の異なる人への開かれた心と態度を養う。「グローバルPBL」により、様々なレベルでの協働プロジェクトを行い、自ら考え、解決に向けて動いていく力を、実践的に身に付けていくことを目指していく。

「情報通信学基幹：自己発展科目」

語学力、プレゼンテーションやライティング等の表現力、協調性、社会で活躍するための実践力などのコンピテンシーを獲得する科目を配置する。標準的な語学的能力、情報通信技術に関する倫理観、ライティングとプレゼンテーションに関する能力を身に付ける科目を

1・2年次に開講し、3年次に専門に関する英語科目「技術英語」、「グローバルビジネス英語」を開講してIT業界でグローバルに活躍できる語学力を身に付けると共に、「プロジェクト基礎」、「プロジェクト1」、「プロジェクト2」で協働して問題解決に当たる能力を身に付け、4年次の「問題解決フェーズ」につなげる。

語学力に関しては、「アカデミック英語」、「グローバルスキル」を2年次で、「技術英語」「グローバルビジネス英語」を3年次で、いずれも必修科目として配置し、表現力を育成するために、「テクニカルライティング」と「テクニカルプレゼンテーション」をいずれも2年次に必修科目として配置する。

社会で正しくIT技術を活用するために必要となる“倫理観”を養うために、「AI社会と情報倫理」、「知的財産」を配置する。さらに社会における専門分野の活用事例を知り自身のキャリアを考えるために、「情報通信産業論」、「企業研究」、「インターンシップ」を配置する。加えて、自身の得意分野・専門性を活かし、他者との協働により課題解決を行うプロジェクト系科目として「プロジェクト基礎」、「プロジェクト実習1・2」を配置する。

なお、この科目群の中では「AI社会と情報倫理」、「知的財産」、「プロジェクト実習1・2」、「企業研究」が、IT2017 Essential 準拠科目となる。

「情報通信学基幹：専門科目」

情報通信技術の基礎知識・技術を身に付けるための科目を配置する。専門科目では、現代における諸問題や未来に生じる変化を解決・実現するために必要となる情報通信技術の専門知識・スキルを修得することを目的として、情報通信技術における「ネットワーク」、「セキュリティ」、「コンピュータ工学」、「プラットフォーム技術」、「ソフトウェア工学」、「データベース・情報管理」、「UXデザイン」、「アプリケーション開発」、「ウェブ・モバイルシステム」等の各分野について学ぶ。

まず1年次の「情報通信学通論」でIT2017 Essential が定める情報通信の全技術分野の概要を学ぶ。技術者として必要な数学、物理などの自然科学は「自然科学基礎」、「物理学実験」で学ぶ。

情報通信分野に必要な数学については、その基礎を「情報通信数学基礎」で学ぶが、専門科目で必要となる高いレベルの数学は、各専門科目内で専門の内容と関連付けて学ぶ形とする。この形とすることで専門基礎と専門科目の内容が乖離すること、及び学生ごとの履修科目や履修順序の違いによる、教員にとっては授業運営の困難さ、学生にとっては授業への満足度の低下を防ぐ効果が期待される。プログラミング教育についても同様の形を取る。1年次に基礎となる「プログラミング」を開講するが、その後は「AIプログラミング」のようにその専門科目で必要となるプログラミング技術を科目内容に合わせて科目内で学ぶ形とする。

科目は自然科学・数学に関する科目の他、大きくソフトウェアエンジニアリング系、コンピュータエンジニアリング系、ヒューマンコンピュータインタラクション系、ネットワーク系に分かれ、合計26科目が開講される。これらの科目の履修の後、最後に「情報通信ゼミナール」、「卒業研究1・2」が必修科目として開講される。

なお、この科目群の中では「情報通信学通論」、「プログラミング」、「データ構造とアルゴリズム」、「離散数学」、「データベース」、「コンピュータアーキテクチャ」、「暗号と情報セキ

セキュリティ」、「ヒューマンインタフェース」、「通信ネットワーク工学」、「webアプリケーション開発」、「オペレーティングシステム」、「サイバーセキュリティ」が IT2017 Essential 準拠科目となり、「自己発展科目」科目群の5科目と合わせて IT2017 Essential の全範囲を網羅することになる。

「先端的データ処理」

Society5.0 を実装した社会を実現するために高年次に配置された、より専門性の高い4つの科目群のうちの1つである。この科目群では、クラウド上にデータを集めて処理する技術について学ぶ。

3年次における「知識獲得フェーズ」においてより専門的な学修を行うために「人工知能と知的制御」、「メディア処理・認識」、「ビッグデータ」など6科目を開講する。

「プラットフォーム・デザイン」

Society5.0 を実装した社会を実現するために高年次に配置された、より専門性の高い4つの科目群のうちの1つである。この科目群では、Society5.0 を支える情報通信の基板となる技術について学ぶ。

3年次における「知識獲得フェーズ」においてより専門的な学修を行うために「プラットフォームアーキテクチャ」、「クラウドコンピューティング」など5科目を開講する。

「総合情報システム」

Society5.0 を実装した社会を実現するために高年次に配置された、より専門性の高い4つの科目群のうちの1つである。この科目群では、クラウド上のサイバー空間とフィジカル空間の人とを結ぶ情報処理技術について学ぶ。

3年次における「知識獲得フェーズ」においてより専門的な学修を行うために「情報検索と検索インタフェース」、「CGとバーチャルリアリティ」など4科目を開講する。

「マネジメントシステム」

Society5.0 を実装した社会を実現するために高年次に配置された、より専門性の高い4つの科目群のうちの1つである。この科目群では、Society5.0 を実装した社会、いわゆるスマート社会の安全性、信頼性、人々の行動について学ぶ。5科目が配置される。

なお、「情報通信学基幹：専門科目」科目群の「機械学習」、「先端的データ処理」科目群の「サイバーフィジカルシステム」、「データ分析」、「ビッグデータ」、「総合情報システム」科目群の「モバイルアプリケーション開発」の5科目は、IT2017 Supplement 準拠科目となる。

5 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

1. 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目（専門科目）の融合の実現を目指し、1年次から2年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる“健康スポーツ科目”や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける“英語コミュニケーション科目”により、主専攻科目（専門科目）への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深化させていく。

以上を礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目（専門科目）」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

2. 教養科目に基づく専門科目の展開

情報通信学科の学修は、①教養科目による知識の習得と多角的な現代文明における問題の把握・理解に並行して、専門科目により、グローバル人材教育を推進するための社会科学系の基礎的な学びと連動した「問題発見フェーズ」（1年次から2年次前期）、②発見した問題を解決するための知識を獲得する「知識獲得フェーズ」（2年次後期と3年次）、③実際に発見した問題の解決を図っていく「問題解決フェーズ」（4年次）という流れに沿って、教養教育で得られた知識や広い視点を活用して進められる。

また、各学年においては、具体的な情報通信技術に関するスキルを学ぶ科目群「情報通信学基幹：専門科目」と、語学、倫理観、キャリア設計、協働力など社会人基礎力、コンピテンシーを学ぶ科目群「情報通信学基幹：自己発展科目」とで科目が構成される。そして、3年次においては情報通信学の各分野を詳しく学びより実践的な問題解決能力・知識を獲得するための科目群「先端的データ処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」の4つが設置され、4年次の“問題解決フェーズ”における「卒業研究1・2」や「グローバルPBL」を通じて、実践力や解決力を育成していく。

3. 履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を3桁の数字でナンバリングしている。1桁目は履修推奨年次、2桁目は科目群やグループ、3桁目は履修時の条件の有無を表している。これらカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。これらの仕組みを活用しながら、本学科においては以下のとおり学修を進めていく。

また、履修学生数の設定については、講義科目、機材を利用した実習・演習を含む科目、

研究室毎に実施するゼミナール系科目など、それぞれの科目の特徴を考慮し、効果的な授業が実施できるように科目毎に適切に管理を行う計画である。

1) 学修の進め方

情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、さらにそれを社会で十分に応用できる柔軟な思考力と利活用能力を備え、幅広い知識、国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有すると共に、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった、グローバル化する世界における高度情報化社会の発展と創造に寄与できる人材を育成するために、4年間を「問題発見フェーズ」、「知識獲得フェーズ」、「問題解決フェーズ」の3つのフェーズに分け、情報通信技術により現代社会の問題を発見解決できる力を養う。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

「学系共通科目」

1年次から開講し、多分野にまたがる入門科目である「SDGs入門」、「IT入門」、「政治学入門」、「経済学入門」、「法学入門」、「AIとデータサイエンス入門」により、より幅広い専門分野の基礎的な知識・視野と学生たちの興味を引き出し、2年次の「異文化コミュニケーション入門」において、国や人種における違いだけではなく、地域性や世代、経験の違いなどにより生じる文化背景の異なる人への開かれた心と態度を養う。4年次には、東京キャンパスを活用して様々なレベルでの協働プロジェクトを行う「グローバルPBL」により、自ら考え、解決に向けて動いていく力を、より実践的に身に付けていくことを目指していく。

「情報通信学基幹：自己発展科目」

語学、倫理、表現力、協働力、キャリア形成など主に社会人基礎力、コンピテンシーを育成する科目で構成される。主に3年次までに開講され、これらの学びが「問題解決フェーズ」における共同での研究やプロジェクトの実施、その成果のまとめ、発表を行う上での基盤となる。

語学は、2年次に標準的な英語科目を2科目開講し、3年次に専門に特化した「技術英語」と「グローバルビジネス英語」を開講する。これらの科目では、情報通信技術に関する文献、マニュアル、論文等を読解する能力およびIT企業で働く上で必要となる英語について学ぶ。

倫理に関しては、1年次に「AI社会と情報倫理」を開講し、その後、知的財産や特許などについて学ぶ「知的財産」へと学修を進める。

表現力に関しては、2年次に「テクニカルライティング」、「テクニカルプレゼンテーション」を開講し、技術文書の書き方、論文発表、提案発表の方法などについて学ぶ。

協働力については、「知識獲得フェーズ」で獲得した知識を複合的に活用し課題を解決するプロジェクト科目を開講し、その力を高めていく。2年次と3年次の間、春期休暇期間の集中科目として「プロジェクト基礎」を、3年次に「プロジェクト実習1」、「プロジェクト実習2」をそれぞれ開講する。

キャリア形成については、3年次に「情報メディア産業論」を開講する。これはIT企業に勤務されている方をお迎えして講演を頂くオムニバス形式の科目で、学生に自分のキャリアについて考えをもらうために開講する。同じ学期に「企業研究」を開講する。この科目で

は、企業の調査方法、特に普段知る機会が少ない、企業を相手に業務を行っているいわゆる B to B 企業を中心として各種データベースを用いた調査方法、企業情報の理解について学ぶ。これらを受けたのち、「インターンシップ」にて実際に企業実習を行う。

「情報通信学基幹：専門科目」

この科目群では、専門的知識、いわゆる「スキル」を、IEEE/ACM が定めるカリキュラムの国際標準である IT2017 Essential に準拠して開講する。1 年次から 2 年次前期を「問題発見フェーズ」、2 年次後期から 3 年次を「知識獲得フェーズ」、4 年次を「問題解決フェーズ」とし、情報通信技術により現代社会の問題を発見解決できる力を養う。

「問題発見フェーズ」では、情報通信技術を学ぶ上で基盤となる自然科学、数学、プログラミングなどの知識を学び、これらと教養科目における学びを結びつけ、現代社会における諸問題を情報通信技術でどのように解決するか、を考える力を身に付けさせる。さらに「学系共通科目」により社会科学系学部の基礎的科目の履修を推奨しており、これらの学びを通じて、専門を異とする他学部、特に社会科学系学部との協働により問題解決を試みるべき問題についても発見する能力を養う。具体的には、1 年次前期に「情報通信学通論」により情報通信学全般の技術要素を概論的に学び、「自然科学基礎」、「情報通信学基礎」、「プログラミング」によりそれぞれの知識基盤を学ぶ。これらを元に 1 年次後期と 2 年次前期に、特に数学とプログラミング能力を高める科目「データサイエンスと数理」、「A I プログラミング」、「離散数学」を開講する。教養科目での学びの内容および「学系共通科目」での学びの内容も含めて、情報通信技術および社会科学系との協働により解決すべき、もしくは解決できる問題についてのレポートを全学生に提出させる。

「知識獲得フェーズ」では、「問題発見フェーズ」で発見した問題を解決するための知識を獲得するための科目を開講する。「先端的データ処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」の各科目群の基礎となる知識を学ぶための科目である。「認知科学」、「ヒューマンインタフェース」、「ソフトウェア設計モデリング」、「web アプリケーション開発」の科目では、人にやさしいソフトウェア開発を学ぶ。「データベース」「機械学習」では A I やデータ処理・管理技術を学ぶ。「コンピュータアーキテクチャ」、「オペレーティングシステム」では I T の基盤となっているコンピュータ技術について学び、「暗号と情報セキュリティ」、「通信ネットワーク工学」、「サイバーセキュリティ」ではセキュアな通信ネットワークを実現するための手法について学ぶ。

「問題解決フェーズ」では、3 年次後期の「情報通信ゼミナール」と併せて「卒業研究 1」「卒業研究 2」により、「問題発見フェーズ」で発見した問題等について「知識獲得フェーズ」で獲得した知識を用いて具体的に解決を試みる。その過程で問題解決の方法、計画的にプロジェクトを遂行する方法等について学修を行う。

「先端的データ処理」

「情報通信学基幹：専門科目」科目群の、特に「知識獲得フェーズ」における科目と連動して、特にデータ処理に関して、言語・メディア処理、ビッグデータ処理、サイバー空間とフィジカル空間を繋ぐ情報システムなど、より専門的な科目を配置する。

「プラットフォーム・デザイン」

「情報通信学基幹：専門科目」科目群の、特に「知識獲得フェーズ」における科目と連動して、特に情報通信技術の基盤となるコンピュータや情報処理、ネットワーク環境に関するより専門的な科目を配置する。

「総合情報システム」

「情報通信学基幹：専門科目」科目群の、特に「知識獲得フェーズ」における科目と連動して、特に人の生活を豊かに便利にするような応用情報処理技術に関する専門的な科目を配置する。

「マネジメントシステム」

「情報通信学基幹：専門科目」科目群の、特に「知識獲得フェーズ」における科目と連動して、特に情報化社会の管理、信頼性、安全性に関する専門的な科目を配置する。

2) 卒業要件

以下の合計で 124 単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限：20 単位（1 学期）)

□科目区分Ⅰ現代文明論＜必修科目＞ 2 単位修得

□科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目＜必修科目＞ 4 単位修得

発展教養科目＜必修科目＞ 6 単位修得

健康スポーツ科目＜必修科目＞ 2 単位修得

□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 ＜必修科目＞ 4 単位修得

□科目区分Ⅳ主専攻科目 76 単位修得

＜必修科目＞

■各科目群に設定された 28 単位を修得 (28 単位)

＜選択科目＞

■学系共通科目 ■情報通信学基幹：自己発展科目 ■情報通信学基幹：専門科目

■先端的データ処理 ■プラットフォーム・デザイン ■総合情報システム

■マネジメントシステム

の区分より、合わせて 48 単位以上修得 (合計 48 単位)

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位修得

合計 124 単位修得

3) 履修モデル

前掲の【養成する人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。【資料2】参照

4) 履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、CAP制を設定する。1学期（1セメスター）における履修登録の上限を20単位と定めることにより、確実な授業外学習（予習・復習）がなされるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、セメスター期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

5) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定めるルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

6 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

ア 実習先の確保の状況

情報通信学部情報通信学科の「インターンシップ」は選択科目であり、履修者は入学定員の半数以下を想定しているため、【実習施設一覧】のとおりの120名分の実習先を確保している。

【実習施設一覧】

授業科目	実習施設名	所在地	受入れ可能人数
インターンシップ	アールシーソリューション株式会社	東京都新宿区西新宿 8-14-21 双英ビル 3F	2人
	アルテリア・ネットワークス株式会社	東京都港区新橋 6-9-8 住友不動産新橋ビル	3人
	イーネット株式会社	東京都港区新橋 6-4-9 北海ビル新橋5階	2人
	株式会社SCC	東京都中野区中野 5-62-1	2人
	株式会社エデルタ	東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿NSビル 28階	2人
	沖昌エンジニアリング株式会社	東京都北区東十条 6丁目4番15号	2人
	カチシステムプロダクツ株式会社	東京都品川区東五反田 2-7-18 SOWA五反田ビル 3F	2人
	株式会社キーワードマーケティング	東京都中央区築地 7-2-1 THE TERRACE TSUKIJI 2F	2人

インターンシップ	株式会社キューブシステム	東京都品川区大崎 2-11-1 大崎ウィズタワー	3人
	共同印刷株式会社	東京都文京区小石川 4-14-12	2人
	株式会社協和エクシオ	東京都渋谷区渋谷 3 丁目 29 番 20 号	3人
	株式会社クライム	東京都中央区日本橋蛸殻町 1-36-7 蛸殻町千葉ビル 4F	2人
	株式会社コア	東京都世田谷区三軒茶屋 1-22-3 コアビル	3人
	国際通信企画株式会社	神奈川県横浜市港北区新横浜 1-19-2 京浜建物第5ビル	2人
	株式会社コスモス	神奈川県横浜市神奈川区広台太田町 4-21 トラストワンビル 22	2人
	三和工機株式会社	東京都千代田区神田美倉町 12-2 三和ビル	2人
	ジスクソフト株式会社	神奈川県川崎市中原区小杉町 1-403 武蔵小杉 STM ビル 3 階	3人
	株式会社システム設計事務所	東京都千代田区富士見 2-4-3 朝日観光ビル 3F	2人
	株式会社ジャング・テック	千葉県千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデン B 棟 9 階	2人
	株式会社ゼネット	東京都豊島区南池袋 2-30-17 朝日生命南池袋ビル 2 階	2人
	株式会社セントラルシステムズ	神奈川県横浜市中区住吉町 6-68-1 横浜関内地所ビル	2人
	株式会社ソルパック	東京都港区六本木 4-1-4 黒崎ビル 8 階	6人
	株式会社ダイヤコーポレーション	東京都中野区中野 2-2-4 ダイアビル	2人
	株式会社DUE	東京都中央区日本橋小伝馬町 16-8 共同ビル 6 階	2人
	株式会社テクノ・セブン本社	東京都世田谷区池尻 3-1-3	3人
	株式会社東京システム技研	東京都新宿区西新宿 1-21 明宝ビル	3人
	株式会社東邦プラン	神奈川県川崎市幸町新塚越 201 ルリエ新川崎 7F	3人
	株式会社東和コンピュータマネジメント	東京都千代田区東神田 2-5-12 龍角散ビル 7F	3人

インターンシップ	株式会社トータル オーエーシステムズ	東京都新宿区西新宿 2-3-1 新 宿モノリス 6F	2人
	株式会社ナイスク	東京都千代田区三番町 1-5 石 油保険ビル B1	2人
	内藤電誠工業株式 会社	神奈川県川崎市中原区下沼部 1933	2人
	ナビオコンピュー タ株式会社	東京都千代田区岩本町 2-7-1 ナビオビル	3人
	株式会社日本アシ スト	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 4-36-1 ナイス第2ビル 6F	2人
	日本サード・パー ティ株式会社	東京都品川区北品川 4-7-35 御 殿山トラストタワー14階	2人
	日本電算株式会社	東京都品川区上大崎 2-25-2 新 目黒東急ビル13階	3人
	株式会社ハイマッ クス	神奈川県横浜市西区みなとみら い2-3-5 クイーンズタワーC棟 16階	2人
	フォーシーズンズ 株式会社	東京都中央区日本橋人形町 1-1-10 麻業会館5階	2人
	富士インフォック ス・ネット株式会 社	東京都港区芝 5-13-15 芝三田 森ビル 5F	2人
	富士ゼロックスシ ステムサービス株 式会社	東京都千代田区神田錦町 3-7-1 興和一橋ビル5階	2人
	株式会社富士通コ ンピュータテクノ ロジーズ	神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1	2人
	株式会社プラス	東京都港区芝浦 3-14-18	3人
	株式会社ユーエス エス	東京都港区虎ノ門 3-12-1 ニッ セイ虎ノ門ビル	2人
	株式会社Y S L ソ リューション	神奈川県横浜市中区長者町 4-9-1 YS 関内ビル	2人
	ワタキューセイモ ア株式会社	京都市下京区烏丸通高辻下ル薬 師前町 707 烏丸シティ・コアビル 5F	2人
	新光商事株式会社	東京都品川区大崎 1-2-2 アー トヴィレッジ大崎セントラルタ ワー13F	1人

イ 実習先との連携体制

実習先とは事前協議を行い、実習期間と時間、実習内容、実習中の事故発生時の対応、実習生の実習企業による評価方法などについて意思統一を行い、契約書を交わした上で履修学生の派遣を行う事とする。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

本科目は、「事前指導」、「企業での実習」、「事後指導」からなる。「事前指導」では、研修先に関する調査、基本的な社会人研修などを実施する。「事後指導」では、インターンシップ参加者全員が実習先での経験についてプレゼンテーションを行い、経験を共有して今後のキャリア形成に役立てる。プレゼンテーションでは実習企業と実習内容の紹介、実習先で学んだこと、それを今後のキャリア、就職活動にどのように活かすか、について発表させる。事前指導のレポート、実習内容のレポート、事後指導におけるプレゼンテーションの内容を総合的に評価して教員の責任の下に成績評価を行い、単位認定を行う。企業担当者による実習評価は参考資料にとどめる。なお企業担当者による評価票は、企業に了解を取った上で実習学生に公開する。

7 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

【アドミッション・ポリシー】

『求める学生像』

情報通信学部情報通信学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

情報通信学部情報通信学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して基礎的な英語の文章理解力、文章表現力、会話能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを利用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から選択した科目について、その各項目の内容を理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

情報通信学の知識や技術を活用するだけでなく、文理融合の観点から、人文・社会科学系の知識・技能も総合して応用できること、および、それらの発信ができることが期待できること。

（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

情報通信システムの開発、実装には、多くの過程があり、かつ多くの専門領域の人々との協働作業が必要となる。情報通信学科ではプロジェクト実習でこれらの学修を進めるが、その際、多様な価値観を理解し、友好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事が期待できることが求められる。

2. 入学者選抜の概要

情報通信学部情報通信学科の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」の試験により選抜を行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」、「面接試験（口述試験含む）」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の3科目または理系の3科目を受験して高得点の2科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、3教科の科目を受験して3科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、学校推薦による選抜入試 36%、学力等による選抜入試 64%である。

3. 入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上の教員とし、学長が任命する体制となっている。

8 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 専任教員組織

情報通信学部情報通信学科の専任教員組織は、教授 10 名、准教授 7 名、講師 6 名、助教 1 名の 24 名で構成されており、完成年度における年齢構成は、30～39 歳 1 名、40～49 歳 7 名、50～59 歳 6 名、60～64 歳 7 名、65～69 歳 3 名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が 1 名（講師 1 名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」

第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。**【資料3】参照**

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A（講師 59 歳） 主な担当科目：「ビックデータ」	令和8年度	博士もしくは修士の学位を有する30～50歳代で、データ工学を専門分野とし、教授もしくは准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

2. 教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「Ⅱ現代教養科目」の「入門ゼミナール1・2」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

3. 専門科目の教員配置の考え方

専門科目についての考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行う事である。ゼミナール、卒業研究科目など研究室毎に分かれて少人数で行う授業については原則として学科に所属する専任の全教員が担当する。基礎系、特に英語については、その分野で教育経験が豊富な教員が担当する。

「学系共通科目」

「学系共通科目」については、各分野を専門とする兼任教員が担当する。

「情報通信学基幹：自己発展科目」

「アカデミック英語」、「グローバルスキル」は標準的な英語科目であるため、英語教育を専門とする教員が担当する。「技術英語」、「グローバルビジネス英語」は情報通信学科の専任教員で特に国際活動に積極的な教員や実務型教員が担当する。

「プロジェクト基礎」、「プロジェクト実習1」、「プロジェクト実習2」は、履修学生を少人数に分けて実施するため複数の教員が担当する。

「情報通信学基幹：専門科目」

情報通信学科の技術的基礎となる科目群であり、情報通信学科を構成する全教員が担当する。担当する科目は、教員の教育・研究経験、専門性と各科目の内容を照合し、実績がある教員を優先して配置する。「情報通信ゼミナール」、「卒業研究1」、「卒業研究2」は、学生が各教員の研究室に配属されて実施される科目であるため、全教員が担当する。

「先端的データ処理」「プラットフォーム・デザイン」「総合情報システム」「マネジメントシステム」

これらの各科目群においては、科目の内容に関して豊富な教育・研究経験を有する専任教員を配置する。

9 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

情報通信学部情報通信学科は、1～2年次の教育を湘南校舎（神奈川県平塚市）において、3～4年次の教育を高輪校舎（東京都港区）において行う。

湘南校舎の校地面積は532,185.37㎡であり、多目的グラウンドをはじめ複数の運動場が整備されており、芝生広場「Palette パレット」などの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されている。また、高輪校舎の校地面積は10,258.75㎡であり、「コミュニティハウス」や1号館の屋上庭園など学生の休息できる場所が既に整備されているため、新たな整備計画はない。

2. 校舎等施設の整備計画

校地校舎等の図面のとおり、湘南校舎において、19号館を中心として、専任教員研究室、コンピュータ室、教室等を専用・共用として確保している。また、高輪校舎においても、1号館を中心として、専任教員研究室、コンピュータ室、教室等を専用・共用として確保している。これにより、湘南校舎での1～2年次の教育、高輪校舎での3～4年次の教育、教員の研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、情報通信学部情報通信学科の学問領域に関わる図書資料として、図書40,709冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。**【資料4】参照**

また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した24時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、情報通信学部情報通信学科の1～2年次が利用する湘南校舎の図書館の面積は11,089㎡、3～4年次が利用する高輪校舎の図書館の面積は1,147㎡であり、両校舎の図書館にそれぞれに閲覧室や東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用

できる検索パソコンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」(<https://elib.maruzen.co.jp/>)において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約 1550 タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど 500 タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の付属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の付属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

10 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

1～2年次の教育を湘南校舎（神奈川県平塚市）において、3～4年次の教育を高輪校舎（東京都港区）において行い、湘南校舎の収容定員は 480 名、高輪校舎の収容定員は 480 名である。

専任教員の研究室、授業を行う教室等の各施設について、湘南校舎、高輪校舎それぞれに確保しており、湘南校舎における 1～2年次の教育、高輪校舎における 3～4年次の教育を支障なく実施することができる。

なお、湘南校舎、高輪校舎における各教員の出校日（授業実施日を含む）の曜日を固定していることから、教員・学生ともに、1日のなかで2校舎間を移動することは生じないため、余裕を持った授業運営ができる。また、学部学科の運営、教学、研究等を支える事務組織についても、湘南校舎、高輪校舎それぞれに既に構築されているため、教育研究に支障がない体制となっている。

11 管理運営

情報通信学部情報通信学科の管理運営は、基本的には情報通信学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月 1 回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

また、情報通信学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

1 2 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5 年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の 3 項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6（2024）年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記 1 及び 2 などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

1 3 情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ＞大学の概要＞学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学の概要＞において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称

トップ＞大学の概要＞教育・研究組織について

「各学部」の名称

トップ＞教育・研究＞＜学部・学科＞及び＜大学院＞

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップペ

ーの＜大学の概要＞＜（大学の取り組み）教育研究年報＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（教育研究上の情報）＞において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜研究支援・体制＞において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞年齢別教員数

「教員が有する学位及び業績」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部・学科＞各学部・学科（各研究科・専攻）トップ＞教員紹介「ResearchMap」

トップ＞教育・研究＞研究支援・体制＞研究活動・ライセンス検索＞教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞理念・歴史＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー＞に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞＜収容定員＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学の概要＞（理念・歴史）教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞収容定員

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞＜情報の公表＞（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要＞においてシラバスを公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要＞授業内容・計画（シラバス）

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」

トップ＞教育・研究＞[学部・学科]、[大学院]＞各学部・学科・専攻・課程・研究科トップ＞カリキュラム

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ＞情報の公表＞（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜受験・入学案内＞において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ＞受験・入学案内＞学部・学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜キャリア・就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支

援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ＞学生生活＞学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ＞学生生活＞キャリア就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ＞学生生活＞教育支援組織＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜学則・コンプライアンス＞において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ＞大学の概要＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「学則」

トップ＞大学の概要＞学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ＞大学の概要＞自己点検評価活動

1 4 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1. 教育支援センターによる全学実施体制

東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。例年、年度において3回開催しており、この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

2. 各学部の取り組み

情報通信学部情報通信学科では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてPDCAのサイクルを実施する。

また、情報通信学部にはFD委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。さらにFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的に行い、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のFD研究会を実施し、情報通信学部所属教員による担当授業の改善報告やFDの講演会を開催し、講師として、優れた授業を行う教員を大学として表彰する「東海大学 Teaching Award」の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。

なお、学部においてMSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

1 5 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をとらして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそ

のための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、情報通信学部情報通信学科においては、コミュニケーション能力やコーディネート力の獲得、キャリア形成を目的とする「情報通信学基幹：自己発展科目」の学びにより、社会的、職業的な自立につなげる。

2. 教育課程外の実践について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3. 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b oを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b oにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以上

設置の趣旨等を記載した書類
情報通信学部情報通信学科

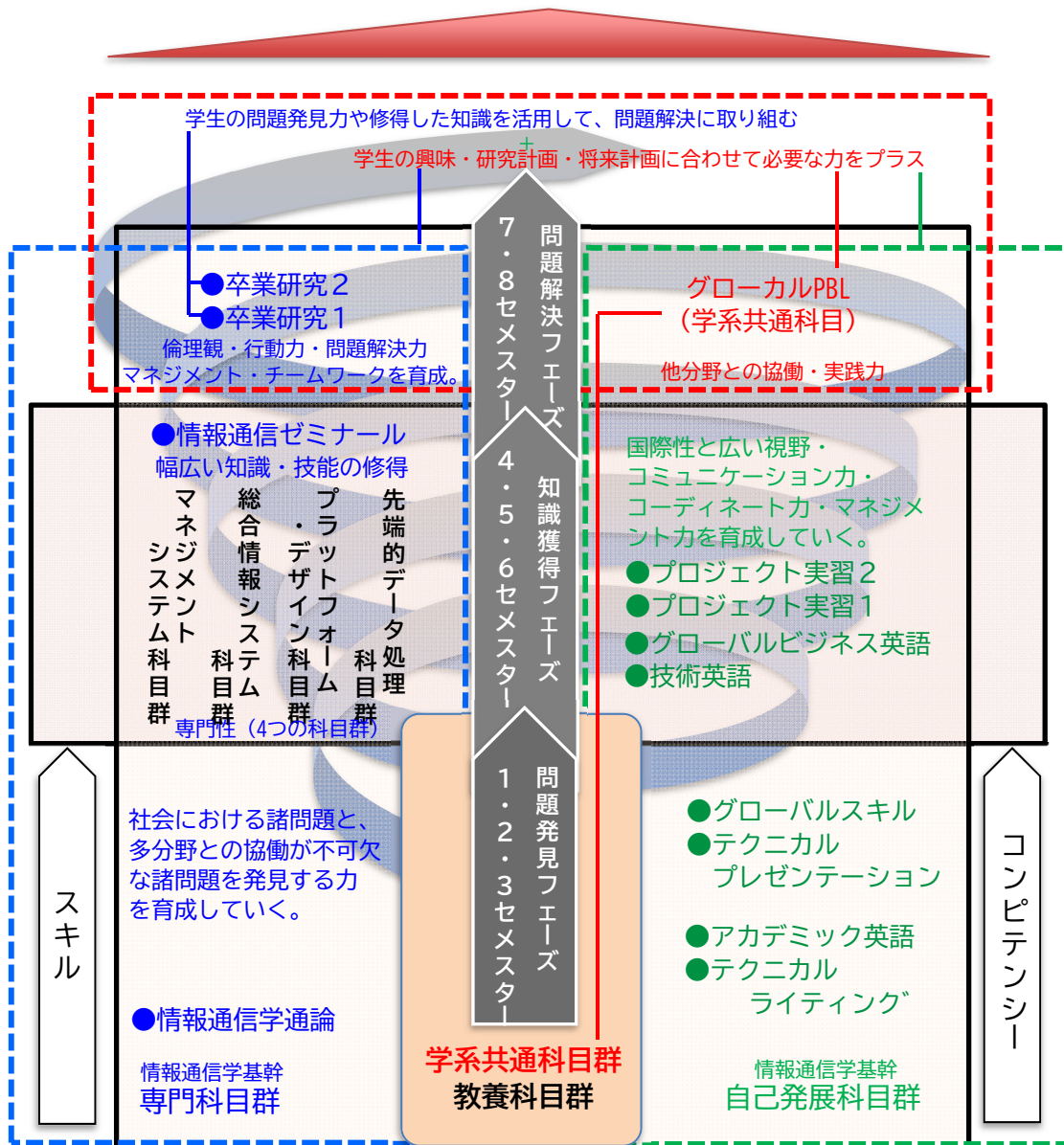
【資料目次】

- 資料1 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図
…p. 2
- 資料2 履修モデル…p. 3
- 資料3 学校法人東海大学教職員定年規程
学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規…p. 4
- 資料4 学術雑誌一覧…p. 9

情報通信学部情報通信学科

「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図

- グローバル社会の中で活躍できる英語能力と、多様化する価値観を受容できるコミュニケーション力を持った人材を育成。
- 社会に生じる諸問題に対して”情報通信の専門性と技術力”に基づき、柔軟な思考力と活用力をもち、他分野との協働により解決を目指す“コーディネート力”を持った人材を育成。
- 情報通信技術者としての使命感と倫理観をもって、自ら考え行動し、解決を目指す人材を育成。



●印：必修科目

履修モデル：情報通信学部情報通信学科 【養成する人材像】国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有し、情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考能力と利活用能力を備え、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった人材

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	入門ゼミナール A	2	入門ゼミナール B	2			現代教養講義	2								
	シチズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語スピーキング・リスニング	2	英語リーディング・ライティング	2												
IV 主専攻科目	情報通信学通論	2	法学入門	2	アカデミック英語	2	グローバルスキル	2	技術英語	2	グローバルビジネス英語	2	卒業研究 1	4	卒業研究 2	4
	SDGs 入門	2	AI 社会と情報倫理	2	テクニカルライティング	2	テクニカルプレゼンテーション	2	プロジェクト実習 1	2	プロジェクト実習 2	2	グローバル PBL	2		
	自然科学基礎	2	データサイエンスと数理	3	異文化コミュニケーション入門	2	アントレプレナーシップ入門	2	情報通信産業論	2	情報通信ゼミナール	2				
	情報通信数学基礎	3	データ構造とアルゴリズム	3	知的財産	2	デジタル信号処理	2	ヒューマンインタフェース	3	サイバーセキュリティ	2				
	プログラミング	2	AI プログラミング	2	離散数学	3	データベース	3	通信ネットワーク工学	3	情報通信ゼミナール	2				
					情報理論	2	コンピュータアーキテクチャ	3	データ分析	2	ビッグデータ	2				
					基礎解析学	2	認知科学	2	プラットフォームアーキテクチャ	2	モバイルコンピューティング	2				
					人間工学	2	暗号と情報セキュリティ	2	情報検索と検索インタフェース	2	モバイルアプリケーション開発	3				
									マネジメントシステム	2	プロジェクトマネジメント	2				
単位数合計		18		19		19		20		20		19		6		4

この履修モデルは、2 年次後期から 3 年次後期（第 4～6 セメスター）において、「先端的データ処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」の各分野を平均的に履修する場合を想定している。学生の関心に応じて、一部の分野の科目の履修を増減したり、「インターンシップ」を履修することが想定される。

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日
 1991年6月17日 1994年4月1日
 2000年4月1日 2003年4月1日
 2004年4月1日 2006年4月1日
 2007年4月1日 2011年4月1日
 2012年4月1日 2013年4月1日
 2017年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職1種・2種	65
			中級職1種・2種	62
			一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職1種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1等級～4等級	65
			5等級～7等級	62
			8等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65

			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

○学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規

(制定 2017年4月1日)

改訂 2020年4月1日

(目的・趣旨)

第1条 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規（以下「この内規」という。）は、
「学校法人東海大学特任教職員任用規程」（以下「規程」という。）に定める特任教職員のうち、大学・短大の特任教員（以下「特任教員」という。）の任用についての運用を定めることを目的とする。

(個別管理区分)

第2条 特任教員の各人の雇用条件を、雇用契約書等で提示することを目的として、規程第3条に定める個別管理区分は、次の項目とし、詳細を別表に定めるものとする。

- (1) 採用区分
- (2) 職務区分
- (3) 所属及び勤務地
- (4) 資格
- (5) 1回の雇用期間
- (6) 授業責任時間
- (7) 招聘の有無
- (8) 年俸額
- (9) 教育及び研究に関する経費配算
- (10) 外部資金要件
- (11) その他

(限度年齢)

第3条 規程第4条及び第5条の定めその他、次の各号の満年齢に達する年度末を契約期間の限度とする。

- (1) 教授 65 歳
 - (2) 准教授以下 62 歳
- 2 原則として教授に限り、専任定年後に継続して雇用することができる。その場合、限度年齢は 68 歳とするが、特段の事情がある場合は、稟議により、70 歳に達する年度末までを限度とすることができる。
- 3 本条における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」及び「民法」第 143 条による。

(契約更新に関する条件)

第4条 特任教員の契約は、次の各号のいずれかに該当する場合、更新を行わないものとする。

- (1) 担当する授業科目が減少し、授業責任時間を満たさないとき。
- (2) 担当する業務がなくなったとき。
- (3) 担当する研究プロジェクトが終了したとき。
- (4) 外部資金要件の者については、人件費、研究費等の経費全額を充足し得る外部資金が確保できないとき。
- (5) その他、雇用契約書等に定める契約内容が遵守されないとき。

(専任への任用変更)

第5条 特任教員が専任教員への任用変更を希望する場合、人事計画に基づき、公募する教員採用に応募することができる。ただし、専任定年後の継続雇用者を除く。

- 2 専任教員と同等の職務に就く特任教員は、所属学部等より推薦があった場合、所定の専任採用審査を受けることができる。このとき、在職中の教育・研究の業績及び勤務実績のほか、学生指導、学部学科等所属する組織の運營業務、大学内外の各種業務等の担当について評価する。

付 則

- 1 この内規は、2017年4月1日から施行する。

- 2 (経過措置)

規程の付則第3項に定める経過措置を適用する特任教員第3種の任用手続は、規程の制定に伴い、任用に係る委員会を廃止するため、他の特任教員と同様とする。

付 則 (2020年4月1日)

この内規は、2020年4月1日より施行する。

別表

個別管理区分	内 容
(1)採用区分	新採用, <u>再採用</u> , 再雇用
(2)職務区分	教育・研究の職務を主に担当, 教育を主に担当, 研究を主に担当, 診療を主に担当, その他
(3)所属及び勤務地	各機関に定める所属及び勤務地
(4)資格	教授, 准教授, 講師, 助教, 助手
(5)1回の雇用期間	1回の雇用期間は1か年度毎とする。専任への任用変更は原則として5か年度以内とする。 最長雇用期間は9か年度とし, 外部資金を要件とする者については, 外部資金未確保の場合は更新しない。
(6)授業責任時間	職務内容に応じて3コマ, 6コマ, 10コマ, その他 専任定年後の継続雇用者は原則として3コマとする。
(7)招聘の有無	大学による招聘にて採用された者は, 成果に応じて給与に特別加算することができる。ただし, 専任定年後の継続雇用者を除く。
(8)年俸額	職務による諸手当については年俸額に含むものとする。実績による諸手当については, 実績に応じて別途支給する。
(9)教育及び研究に関する経費配算	特定の診療を行う職務の教員を除き, 職務内容に応じて, 研究費又は教育開発費を配算する。
(10)外部資金要件	該当する外部資金の要件及び名称
(11)その他	<u>上記個別管理区分に定める他, 特別の事情のある場合は, 必要に応じて記載する。</u>

(注) 採用区分の内容は、次のように定める。

(1) 新採用

新たに特任教員として雇用契約を締結すること。

(2) 再採用

専任退職後，引続き特任教員として雇用契約を締結すること。

(3) 再雇用

退職した者が，一定の期間を経て，再度雇用契約を締結すること。

学術雑誌一覧

情報通信学部情報通信学科

No.	誌名（国内雑誌）
1	日経コンピュータ = Nikkei computer.
2	情報処理学会研究報告. SLDM, システムLSI設計技術 / 情報処理学会 [編].
3	情報処理学会研究報告. DD, デジタル・ドキュメント / 情報処理学会.
4	情報処理学会研究報告. MBL, [モバイルコンピューティングとワイヤレス通信] / 情報処理学会 [編].
5	情報処理学会研究報告. CSEC, コンピュータセキュリティ / 情報処理学会 [編].
6	情報処理学会研究報告. ITS, 高度交通システム / 情報処理学会 [編].
7	情報処理学会研究報告. 自然言語処理研究会報告 / 情報処理学会.
8	情報処理学会研究報告. [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] / 情報処理学会.
9	情報処理学会研究報告. SLP, 音声言語情報処理 / 情報処理学会 [編].
10	情報処理学会研究報告. ソフトウェア工学研究会報告 / 情報処理学会.
11	情報処理学会研究報告. 情報システムと社会環境研究報告 / 情報処理学会 [編].
12	情報処理学会研究報告. オーディオビジュアル複合情報処理 / 情報処理学会.
13	情報処理学会研究報告. EVA, システム評価 / 情報処理学会 [編].
14	情報処理学会研究報告. HPC, [ハイパフォーマンスコンピューティング研究報告] / 情報処理学会 [編].
15	情報処理学会研究報告. 計算機アーキテクチャ研究会報告 / 情報処理学会.
16	情報処理学会研究報告. AL, アルゴリズム研究会報告 / 情報処理学会.
17	情報処理学会研究報告. コンピュータと教育研究会報告 / 情報処理学会.
18	情報処理学会研究報告. ICS, 知能と複雑系 / 情報処理学会 [編].
19	情報処理学会研究報告. グラフィクスとCAD研究会報告 / 情報処理学会 [編].
20	情報処理学会研究報告. CVIM, コンピュータビジョンとイメージメディア / 情報処理学会 [編].
21	情報処理学会研究報告. MPS, 数理モデル化と問題解決研究報告 / 情報処理学会.
22	情報処理学会研究報告. マルチメディア通信と分散処理研究会報告 / 情報処理学会.
23	情報処理学会研究報告. 音楽情報科学 / 情報処理学会.
24	情報処理学会研究報告. GN, [グループウェアとネットワークサービス研究報告] / 情報処理学会 [編].
25	情報処理学会研究報告. GI, ゲーム情報学 / 情報処理学会 [編].
26	情報処理学会研究報告. 人文科学とコンピュータ研究会報告 / 情報処理学会.
27	情報処理学会研究報告. EIP, 電子化知的財産・社会基盤 / 情報処理学会 [編].
28	情報処理学会研究報告. DSM, [分散システム/インターネット運用技術] / 情報処理学会 [編].
29	情報処理学会研究報告. HI, ヒューマンインタフェース研究会報告 / 情報処理学会.
30	情報処理学会研究報告. データベース・システム研究会報告 / 情報処理学会.
31	情報処理学会研究報告. 情報学基礎研究会報告 / 情報処理学会.
32	情報処理学会研究報告. QAI, [高品質インターネット] / 情報処理学会 [編].
33	インターネット白書 = Internet white book / 日本インターネット協会編.
34	情報問題研究 / 情報問題研究会 [編集].
35	東海大学紀要. 電子情報学部 = Proceedings of the School of Information Technology and Electronics, Tokai University.
36	電子情報通信学会技術研究報告. DC, ディペンダブルコンピューティング : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].

37	コンピュータユーザー調査年報.
38	ネットビジネス会社年鑑. 企業編.
39	ネットビジネス会社年鑑. 決算編.
40	情報処理学会研究報告. MBL, [モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会研究報告] = IPSJ SIG technical reports / 情報処理学会[編].
41	デジタルアーカイブ白書 = Digital archives white paper.
42	組込みプレス = Embedded software press.
43	情報処理学会研究報告. HCI, ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告 = IPSJ SIG technical reports / 情報処理学会.
44	情報処理学会論文誌. ハイパフォーマンズコンピューティングシステム / 情報処理学会 [ハイパフォーマンズコンピューティングシステム研究会論文誌編集委員会].
45	情報処理学会論文誌. 数理モデル化と応用 / 情報処理学会 [編].
46	情報処理学会論文誌. コンピュータビジョンとイメージメディア / 情報処理学会 [コンピュータビジョンとイメージメディア研究会論文誌編集委員会] [編].
47	情報処理学会論文誌. データベース / 情報処理学会 [編].
48	情報処理学会論文誌. プログラミング.
49	情報処理学会論文誌. コンピューティングシステム / 情報処理学会 [コンピューティングシステム編集委員会].
50	情報処理学会論文誌トランザクション / 情報処理学会 [編].
51	情報処理学会研究報告. IOT, [インターネットと運用技術] = IPSJ SIG Technical Reports / 情報処理学会 [編].
52	情報処理学会研究報告 / 情報処理学会.
53	情報処理学会デジタルプラクティス = Journal of digital practices / デジタルプラクティス編集委員会 [編].
54	Software design = ソフトウェアデザイン.
55	Web+DB press = ウェブDBプレス.
56	IBM review / 日本アイ・ビー・エム.
57	I/O / 日本マイクロコンピュータ連盟.
58	サンケン技報 = Sanken technical report.
59	エレクトロニクス : 電子雑誌.
60	エレクトロニクスダイジェスト = Electronics digest.
61	エレクトロニシアン / 小峰工業技術.
62	National technical report / 松下電器産業 [編].
63	日置技報 / 日置電機株式会社.
64	画像電子学会誌 = The journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan / 画像電子学会 [編].
65	国際通信の研究 / 国際電信電話株式会社.
66	真空 : journal of the Vacuum Society of Japan / 真空協会 [編].
67	通信工業 / 通信機械工業会 [編集] = / Communication Industries Association of Japan.
68	スペクトラム / 電子通信学会 [編].
69	電子顕微鏡 = Electron microscopy / 日本電子顕微鏡学会.
70	研究期報 / 九州電力株式会社総合研究所.
71	テレビジョン学会誌.

72	電氣通信學會雜誌 = The journal of the Institute of Electrical Communication Engineers of Japan / 電氣通信學會.
73	電氣通信研究所研究実用化報告 / 日本電信電話公社電氣通信研究所 = Electrical Communication Laboratory technical journal / the Electrical Communication Laboratory, Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation.
74	電氣通信研究所研究実用化報告. 別冊 / 日本電信電話公社武蔵野電氣通信研究所.
75	電子 = Denshi / 電子機械工業会 [編].
76	電子科学 : 科学技術展望.
77	電子技術 / 日刊工業新聞社 [編].
78	電子計測 : denshi keisoku series / 電子機械工業会電子計測器技術委員会編集.
79	電子顕微鏡 / 電子顕微鏡學會.
80	電子材料 = Electronic Materials and Parts / 工業調査会 [編] ; 日本電子材料技術協会監修.
81	電子写真 / 電子写真学会.
82	電子通信学会雑誌 / 電子通信学会 [編].
83	電子通信学会誌 = The journal of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan / 電子通信学会.
84	電子通信学会論文誌. A / 電子通信学会 = The transactions of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan. A / the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan.
85	電子通信学会論文誌. B.
86	電子通信学会論文誌. C.
87	電子通信学会論文誌. D.
88	電子展望.
89	電波科學.
90	東芝レビュー = Toshiba review.
91	研究期報 / 東北電力株式会社.
92	東洋通信機技報 = Toyo technical report.
93	東洋電機技報.
94	日経エレクトロニクス = Nikkei electronics / 日経マグローヒル社.
95	電力工学海外論抄 / 海外論抄刊行会.
96	電機 : 日本電機工業會月報 : Nippon Electric Machine Industry Association monthly report.
97	半導体研究所報告 / 半導体研究振興会.
98	技術新論 / 電氣日本社.
99	放送技術 / 日本放送協会技術研究所 [編].
100	松下電工技報 / 松下電工株式会社技術総務部.
101	三菱電機技報 : Mitsubishi Denki giho.
102	横河技報 = Yokogawa technical report / 横河電機製作所 [編].
103	電子写真学会誌 / 電子写真学会.
104	電子工業 = Electronics.
105	照明学会誌.
106	電氣試験所第一部彙報 / 電氣試験所.
107	研究期報. 技術研究編 / 四国電力株式会社.

108	研究期報 / 四国電力株式会社.
109	電子通信スペクトラム / 電子通信学会 [編].
110	大日本電線時報 = Dainichi Nippon Cables review.
111	電気雑誌OHM.
112	電気協會雜誌 : Denki Kyokai zasshi / 日本電気協會.
113	富士時報 / 富士時報編輯部.
114	Fujitsu / 富士通信機製造株式會社 [編].
115	電算機利用に関するシンポジウム講演概要 / 土木学会.
116	NEC技報 = NEC technical journal.
117	日通工技報 / 日本通信工業 [編].
118	電線時報 / 日本電線工業会, 19
119	電子技術総合研究所年報 / 工業技術院電子技術総合研究所.
120	電子通信学会総合全国大会講演論文集.
121	古河電工時報 / 古河電気工業 [編].
122	画像技術.
123	画像工学コンファレンス論文集 / 電気学会電子装置技術委員会.
124	技術研究所年報 / 北海道電力株式会社技術研究所.
125	研究年報 / 日本放送協會総合技術研究所, [日本放送協會]放送科学基礎研究所 [編].
126	テレビジョン学会技術報告 / テレビジョン学会.
127	電子工業年鑑 / 通商産業省編.
128	コア技術 = The core technology / 広報新聞分科会 [編].
129	O plus E.
130	オプトロニクス.
131	岩崎技報 / 岩崎通信機.
132	岩通技報 / 岩崎通信機.
133	昭和電線電纜レビュー / 昭和電線電纜.
134	神鋼電機.
135	通研月報 / 逓信省電気通信研究所.
136	電子航法研究所報告 = Electronic Navigation Laboratory papers / 運輸省電子航法研究所.
137	電子航法研究所年報 / 運輸省電子航法研究所.
138	トランジスタ技術.
139	日本信号技報 = Nippon Signal technical journal.
140	藤倉電線技報 / 藤倉電線.
141	無線資料 / 東京電気無線株式會社 [編].
142	技報 = Univac technology review / 日本ユニバック [編].
143	電気・情報関連学会連合大会講演論文集 / 電気学会, 電子通信学会, 照明学会, テレビジョン学会, 情報処理学会 = Joint convention record of Institutes of Electrical and Information Engineers, Japan / Institutes of Electrical and Information Engineers, Japan.
144	情報通信学会誌 / 情報通信学会.
145	人工知能学会誌 = Journal of Japanese Society for Artificial Intelligence / 人工知能学会 [編].

146	日経超電導 / 日経マグロウヒル社 = Nikkei superconductors / Nikkei Mcgrawhill, Inc..
147	三菱電線工業時報 = Mitsubishi Cable Industries review / 三菱電線工業株式会社編.
148	エレクトロニクスライフ.
149	KDDテクニカルジャーナル = KDD technical journal / 国際電信電話株式会社.
150	人工知能学会全国大会論文集 = Proceedings of the Annual Conference of JSAI / 人工知能学会.
151	Theコミュニケーション : 電気通信技術情報誌 = The communication.
152	電波科学エレクトロニクスライフ.
153	技術研究所季報 = Quarterlies of Kintetsu Research Lab. / 近畿日本鉄道株式会社技術研究所 [編].
154	Unisys技報 : technology review / 日本ユニシス [編].
155	月刊エンター.
156	コミュニケーションデザイン = Communication design.
157	コンピュータ白書 / 日本電子計算開発協会.
158	情報化白書 / 日本情報処理開発協会編.
159	神鋼電機技報 = Shinko electric journal / 神鋼電機株式会社広報室.
160	日立電子エンジニアリング技報.
161	世界コンピュータ年鑑 = Computer yearbook / 日本情報処理開発協会.
162	データベース白書 / データベース振興センター編 ; 通商産業省機械情報産業局監修.
163	電気事業要覧 / 逓信省電気局 [編].
164	電気機械器具及材料特製品 / 電気協会 [編].
165	電気年鑑 / 電友社編集部編纂.
166	電子情報通信学会技術研究報告. AI, 人工知能と知識処理 / 電子情報通信学会 [編].
167	電子情報通信学会技術研究報告. A・P, アンテナ・伝播 / 電子情報通信学会.
168	電子情報通信学会技術研究報告. CAS, 回路とシステム / 電子情報通信学会.
169	電子情報通信学会技術研究報告. COMP, コンピューテーション / 電子情報通信学会.
170	電子情報通信学会技術研究報告. CPM, 電子部品・材料 / 電子情報通信学会.
171	電子情報通信学会技術研究報告. CPSY, コンピュータシステム / 電子情報通信学会.
172	電子情報通信学会技術研究報告. CS, 通信方式 / 電子情報通信学会.
173	電子情報通信学会技術研究報告. DE, データ工学 / 電子情報通信学会.
174	電子情報通信学会技術研究報告. DSP, デジタル信号処理 / 電子情報通信学会.
175	電子情報通信学会技術研究報告. EA, 電気音響 / 電子情報通信学会.
176	電子情報通信学会技術研究報告. ED, 電子デバイス / 電子情報通信学会.
177	電子情報通信学会技術研究報告. EID, 電子ディスプレイ / 電子情報通信学会.
178	電子情報通信学会技術研究報告. EMC, 機構部品 / 電子情報通信学会.
179	電子情報通信学会技術研究報告. EMCJ, [環境電磁工学] / 電子情報通信学会 [編].
180	電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 / 電子情報通信学会 [編集].
181	電子情報通信学会技術研究報告. ICD, 集積回路.
182	電子情報通信学会技術研究報告. IE, 画像工学 / 電子情報通信学会.
183	電子情報通信学会技術研究報告. IN, 情報ネットワーク / 電子情報通信学会.
184	電子情報通信学会技術研究報告. ISEC, 情報セキュリティ / 電子情報通信学会.
185	電子情報通信学会技術研究報告. IT, 情報理論 / 電子情報通信学会.

186	電子情報通信学会技術研究報告. MR, 磁気記録 / 電子情報通信学会 [編].
187	電子情報通信学会技術研究報告. MW, マイクロ波 / 電子情報通信学会.
188	電子情報通信学会技術研究報告. NLP, 非線形問題 / 電子情報通信学会.
189	電子情報通信学会技術研究報告. OCS, 光通信システム / 電子情報通信学会.
190	電子情報通信学会技術研究報告. OME, 有機エレクトロニクス.
191	電子情報通信学会技術研究報告. OQE, 光・量子エレクトロニクス / 電子情報通信学会.
192	電子情報通信学会技術研究報告. OS, オフィスシステム / 電子情報通信学会.
193	電子情報通信学会技術研究報告. PE:電子通信用電源技術.
194	電子情報通信学会技術研究報告. PRU, パターン認識・理解 / 電子情報通信学会.
195	電子情報通信学会技術研究報告. R, 信頼性 / 電子情報通信学会 [編].
196	電子情報通信学会技術研究報告. RCS, 無線通信システム / 電子情報通信学会.
197	電子情報通信学会技術研究報告. SANE, 宇宙・航行エレクトロニクス / 電子情報通信学会.
198	電子情報通信学会技術研究報告. SAT, 衛星通信 / 電子情報通信学会.
199	電子情報通信学会技術研究報告. SCE, 超伝導エレクトロニクス / 電子情報通信学会.
200	電子情報通信学会技術研究報告. SDM, シリコン材料・デバイス / 電子情報通信学会.
201	電子情報通信学会技術研究報告. SE, 交換 / 電子情報通信学会.
202	電子情報通信学会技術研究報告. SSD, 半導体・トランジスタ / 電子情報通信学会.
203	電子情報通信学会技術研究報告. SSE, 交換システム / 電子情報通信学会.
204	電子情報通信学会技術研究報告. US, 超音波.
205	電子情報通信学会技術研究報告. VLD, VLSI設計技術.
206	電子情報通信学会誌 = The journal of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
207	電子情報通信学会論文誌. A, 基礎・境界 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. A.
208	電子通信学会技術研究報告. AI, 人工知能と知識処理 / 電子通信学会.
209	電子通信学会技術研究報告. COMP, コンピューテーション / 電子通信学会.
210	電子通信学会技術研究報告. CPSY, コンピュータシステム / 電子通信学会.
211	電子通信学会技術研究報告. DE, データ工学 / 電子通信学会.
212	電子通信学会技術研究報告. EID, 電子ディスプレイ / 電子通信学会.
213	電子通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 / 電子通信学会.
214	電子通信学会技術研究報告. FTS, フォールトトレラントシステム / 電子通信学会.
215	電子通信学会技術研究報告. MBE, MEとバイオサイバネティックス / 電子通信学会.
216	電子通信学会技術研究報告. OS, オフィスシステム / 電子通信学会.
217	電子通信学会技術研究報告 PE:電子通信用電源技術.
218	電子通信学会技術研究報告. PRU, パターン認識・理解 / 電子通信学会.
219	電子通信学会技術研究報告. SP, 音声 / 電子通信学会.
220	電子部品・材料研究会資料 / 電子通信学会.
221	画像工学研究会資料 / 電子通信学会.
222	光・量子エレクトロニクス研究会資料 / 電子通信学会.
223	電力管理案に関する議会資料, 19
224	日本半導体年鑑.

225	プロンプト：仕事に役立つパソコンソフト誌：NK personal computer magazine.
226	電子情報通信学会技術研究報告. SST, スペクトル拡散 / 電子情報通信学会[編].
227	通信総合研究所季報 = Review of the Communications Research Laboratory / 郵政省通信総合研究所情報管理部情報管理課.
228	電子通信学会技術研究報告. AL, オートマトンと言語 / 電子通信学会.
229	電子通信学会技術研究報告. A・P, アンテナ・伝播 / 電子通信学会.
230	電子通信学会技術研究報告. CAS, 回路とシステム / 電子通信学会.
231	電子通信学会技術研究報告. CPM, 電子部品・材料 / 電子通信学会.
232	電子通信学会技術研究報告. CS, 通信方式 / 電子通信学会.
233	電子通信学会技術研究報告. CST, 回路とシステム理論 / 電子通信学会.
234	電子通信学会技術研究報告. EA, 電気音響 / 電子通信学会.
235	電子通信学会技術研究報告. EC, 電子計算機 / 電子通信学会.
236	電子通信学会技術研究報告. ED, 電子装置 / 電子通信学会.
237	電子通信学会技術研究報告. ED, 電子デバイス / 電子通信学会.
238	電子通信学会技術研究報告. EMC, 機構部品 / 電子通信学会.
239	電子通信学会技術研究報告. EMCJ, [環境電磁工学] / 電子通信学会 [編].
240	電子通信学会技術研究報告. ET, 教育技術 / 電子通信学会.
241	電子通信学会技術研究報告. IE, 画像工学 / 電子通信学会.
242	電子通信学会技術研究報告. IN, 情報ネットワーク / 電子通信学会.
243	電子通信学会技術研究報告. IT, 情報理論 / 電子通信学会.
244	電子通信学会技術研究報告. MBE, 医用電子・生体工学 / 電子通信学会.
245	電子通信学会技術研究報告. MR, 磁気記録 / 電子通信学会 [編].
246	電子通信学会技術研究報告. MW, マイクロ波 / 電子通信学会.
247	電子通信学会技術研究報告. NLP, 非線形問題 / 電子通信学会.
248	電子通信学会技術研究報告. OQE, 光・量子エレクトロニクス / 電子通信学会.
249	電子通信学会技術研究報告. PE:電子通信用電源技術調査.
250	電子通信学会技術研究報告. PRL, パターン認識と学習 / 電子通信学会.
251	電子通信学会技術研究報告. R, [信頼性] / 電子通信学会.
252	電子通信学会技術研究報告. SANE, 宇宙・航行エレクトロニクス / 電子通信学会.
253	電子通信学会技術研究報告. SAT, 衛星通信 / 電子通信学会.
254	電子通信学会技術研究報告. SCE, 超伝導エレクトロニクス / 電子通信学会.
255	電子通信学会技術研究報告. SE, 交換 / 電子通信学会.
256	電子通信学会技術研究報告. SSD, 半導体・トランジスタ / 電子通信学会.
257	電子通信学会技術研究報告. US, 超音波 / 電子通信学会.
258	アンテナ・伝播研究会資料 / 電気通信学会.
259	オートマトンと言語研究会資料 / 電子通信学会.
260	通信方式研究会資料 / 電気通信学会.
261	回路とシステム理論研究会資料 / 電気通信学会.
262	電子計算機研究会資料 / 電気通信学会.
263	電子装置研究会資料 / 電気通信学会.

264	教育技術研究会資料 / 電子通信学会.
265	非線形問題研究会資料 / 電子通信学会.
266	パターン認識と学習研究会資料 / 電子通信学会.
267	信頼性研究会資料 / 電気通信学会.
268	宇宙航行エレクトロニクス研究会資料 / 電気通信学会.
269	交換研究会資料 / 電気通信学会.
270	半導体・トランジスタ研究会資料 / 電気通信学会.
271	超音波研究会資料 / 電気通信学会 [編].
272	情報サービス産業白書 = White paper of information service industry / 情報サービス産業協会編 ; 通商産業省機械情報産業局監修.
273	情報通信年鑑 = Information communications almanac / 情報通信総合研究所 [編].
274	電子情報通信学会春季全国大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Spring National Convention record, the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
275	研究報告 / 北海道電力株式会社技術研究所.
276	電子情報通信学会技術研究報告. EA, 応用音響 / 電子情報通信学会.
277	電子通信学会技術研究報告. NLC, 言語処理とコミュニケーション / 電子通信学会.
278	電子情報通信学会技術研究報告. NLC, 言語処理とコミュニケーション / 電子情報通信学会.
279	電子情報通信学会技術研究報告. NLC, 言語理解とコミュニケーション / 電子情報通信学会.
280	NTT技術ジャーナル : NTTテレコミュニケーション情報誌.
281	電波年鑑 / 郵政省電波監理局 [編集].
282	電電建設 / 電信電話工事協会 [編].
283	實用化報告 / 電気通信省電気通信研究所 [編].
284	電気工事人 : 免許試験指導雑誌.
285	照明學會月報.
286	ミリ波と赤外線専門講習会予稿.
287	技術参考資料.
288	技術参考資料 / 日本放送協會.
289	技術調査及研究報告 / 日本放送協會 [編].
290	電子通信学会会誌・論文誌総目次.
291	電子情報通信学会総合全国大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = National Convention record, the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
292	電子情報通信学会技術研究報告. SS, ソフトウェアサイエンス / 電子情報通信学会.
293	電子情報通信学会技術研究報告. FTS, フォールトトレラントシステム.
294	通信総合研究所年報 / 郵政省通信総合研究所 [編].
295	電子情報通信学会技術研究報告. HC, ヒューマンコミュニケーション / 電子情報通信学会.
296	研究年報 / 北海道電力株式会社総合研究所.
297	コンピュータソフトウェア / 日本ソフトウェア科学会編集.
298	昭和電線レビュー = Showa Electric Wire and Cable review / 昭和電線電纜株式会社 [編].
299	非線形磁気応用研究委資料.

300	非直線理論研究会資料 / 電子通信学会.
301	電子計算機研究専門委員会[資料] / 電気通信学会, 1
302	非直線理論研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
303	非直線理論研究会資料 / 電気通信学会.
304	インホメーション理論研究専門委員会資料 / 電気通信学会 [編].
305	医用電子装置研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
306	医用電子装置研究会資料 / 電気通信学会.
307	磁性材料研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
308	磁性材料・部品研究会資料 / 電気通信学会.
309	回路網理論研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
310	回路網理論研究会資料 / 電気通信学会.
311	航空電子機器研究専門委員会資料 / 電気通信学会 [編].
312	航行エレクトロニクス研究会資料 / 電気通信学会.
313	マイクロ波伝送研究専門委員会資料 / 電気通信学会 [編].
314	マイクロ波伝送研究会資料 / 電気通信学会.
315	マイクロ波真空管研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
316	オートマトンと自動制御研究専門委員会資料 / 電気通信学会 [編].
317	オートマトンと自動制御研究会資料 / 電気通信学会.
318	トランジスタ研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
319	トランジスタ研究会資料 / 電気通信学会.
320	通信方式研究専門委員会資料 / 電気通信学会.
321	電子回路部品・材料研究会資料 / 電気通信学会.
322	電子情報通信学会技術研究報告. EMD, 機構デバイス / 電子情報通信学会 [編].
323	人工知能学会全国大会チュートリアル講演
324	電子情報通信学会技術研究報告. KBSE, 知能ソフトウェア工学 / 電子情報通信学会.
325	電子情報通信学会技術研究報告. OFS, オフィスシステム / 電子情報通信学会 [編].
326	電子通信学会技術研究報告. SS, ソフトウェアサイエンス / 電子通信学会.
327	電子学報.
328	パイオニア技報 : おととひかり = Pioneer technical report.
329	電子情報通信学会技術研究報告. CST, コンカレント工学 / 電子情報通信学会.
330	電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語 / 電子情報通信学会.
331	PFU technical review / 株式会社PFU.
332	研究資料 / 中部電力 [編].
333	Pioneer R&D.
334	電子情報通信学会技術研究報告. FACE, 情報通信倫理 / 電子情報通信学会 [編].
335	電業社機械 : Dengyosha kikai / 電業社機械製作所.
336	電子情報通信学会技術研究報告. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎 / 電子情報通信学会 [編].
337	電子情報通信学会技術研究報告. HIP, ヒューマン情報処理 / 電子情報通信学会 [編].
338	電子情報通信学会技術研究報告. MVE, マルチメディア・仮想環境基礎 / 電子情報通信学会 [編].

339	電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Proceedings of the ... Society Conference of IEICE / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
340	情報通信技術研究所所報 / 東海大学(東京)短期大学部情報通信技術研究所 [編集].
341	電子情報通信学会技術研究報告. LQE, レーザ・量子エレクトロニクス / 電子情報通信学会.
342	電子情報通信学会技術研究報告. OPE, 光エレクトロニクス / 電子情報通信学会.
343	パソコンライフ.
344	研究開発報告 / 北陸電力株式会社地域総合研究所 [編集].
345	電子情報通信学会技術研究報告. PRMU, パターン認識・メディア理解 / 電子情報通信学会 [編].
346	人文学と情報処理 / 勉強データセンター編集.
347	映像情報メディア学会誌 : 映像情報メディア = The journal of the Institute of Image Information and Television Engineers.
348	電子情報通信学会技術研究報告. EE, 電子通信エネルギー技術 / 電子情報通信学会 [編].
349	Matsushita technical journal.
350	電子情報通信学会技術研究報告. PS, 光スイッチング / 電子情報通信学会 [編].
351	電子情報通信学会技術研究報告. OFT, 光ファイバ応用技術 / 電子情報通信学会 [編].
352	電子情報通信学会技術研究報告. TM, テレコミュニケーションマネジメント / 電子情報通信学会 [編].
353	Interface = インターフェース / CQ出版 [編].
354	KDD R & D report.
355	電子情報通信学会春季大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Proceedings of the ... IEICE spring conference / The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
356	電子情報通信学会秋季大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Proceedings of the ... IEICE fall conference / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
357	電子情報通信学会秋季全国大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Autumn national convention record, the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers / the Institute of Electronics, Information and communication Engineers.
358	電子情報通信学会技術研究報告. ITS / 電子情報通信学会 [編].
359	電子情報通信学会技術研究報告. FACE, 情報文化と倫理 / 電子情報通信学会.
360	電子情報通信学会技術研究報告. SSS, 安全性 / 電子情報通信学会 [編].
361	電子情報通信学会技術研究報告. MI, 医用画像 / 電子情報通信学会 [編].
362	電子情報通信学会総合大会講演論文集 / 電子情報通信学会 = Proceedings of the ... IEICE general conference / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
363	電子技術総合研究所研究報告 / 電子技術総合研究所.
364	Information / インフォメーションサイエンス.
365	NTT R&D.
366	OHMジャーナル.
367	電子情報通信学会論文誌. C, エレクトロニクス = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. C.
368	広島国際学院大学研究報告 / 広島国際学院大学 [編集].
369	電子技術総合研究所彙報 = Bulletin of the Electrotechnical Laboratory / 電子技術総合研究所 [編].
370	電子技術総合研究所調査報告 / 電子技術総合研究所.
371	FEDジャーナル / 新機能素子研究開発協会 [編].
372	NTT電気通信研究所研究実用化報告 = Electrical Communications Laboratories technical journal / 日本電信電話株式会社情報管理部技術広報部門.

373	衛星通信年報 / 郵政省, 国際電信電話株式会社 [編].
374	海外通信工学 / 電気通信學會.
375	研究実用化報告 / 電気通信省電気通信研究所 [編] = Electrical Communication Laboratories technical journal / Electrical Communication Laboratory, Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation.
376	原子力発電.
377	研究期報 / 四国電力株式会社技術研究所 [編集].
378	照明學會雜誌 / 照明學會 [編].
379	真空工業 / 真空機器協会.
380	信号保安 / 信号保安協会.
381	住友電気彙報.
382	住友電線彙報 / 住友電線製造所.
383	大日電線時報 / 大日電線株式会社品質管理部.
384	電気・情報関連学会連合大会講演予稿集 / 電子情報通信学会, 電気学会, 照明学会, テレビジョン学会, 情報処理学会 [主催].
385	通信工学邦文外國雜誌 / 電信電話學會.
386	テレビジョン / テレビジョン学会.
387	電気化学: the journal of the Electrochemical Association of Japan / 電気化学協会 [編].
388	電気學界時報 / 電気學會.
389	電気學會論文集 / 電気學會.
390	電気協會々報.
391	電気通信学会全国大会講演論文集.
392	電気通信経営月報 / 日本電信電話公社経営調査室.
393	電気鐵道 / 鐵道電化協會.
394	電気特許月報 / 電気學會.
395	電子計算と制御.
396	電子工業振興協會会報 / 日本電子工業振興協会.
397	電子情報通信学会論文誌. B, 通信 / 電子情報通信学会.
398	電子通信学会通信部門全国大会講演論文集.
399	電子通信学会光・電波部門全国大会講演論文集 / 電子通信学会.
400	電設工業 / 日本電設工業会.
401	電波研究所季報 / 郵政省電波研究所 = Quarterly review / the Radio Research Laboratories.
402	電波研究所年報 / 郵政省電波研究所.
403	電力調査統計月報 = Monthly report on electric power statistics / 公益事業委員会事務局編.
404	電算機利用に関するシンポジウム講演集 / 土木学会土木情報システム委員会.
405	日電月報.
406	日本電力調査報告書.
407	農電研究所所報 / 農電研究所.
408	発電水力 = Hydro electric power / 発電水力協会 [編].
409	マツダ新報.
410	ラヂオの日本.
411	照明ニュース / 照明知識普及委員會編.

412	電気試験所研究報告 / 電気試験所.
413	電気試験所調査報告 / 逓信省電気試験所編輯.
414	電気通信 / 電気通信協会 [編].
415	電気通信施設 : shisetsu / 電気通信省施設局.
416	電子通信学会全国大会講演論文集.
417	電信電話學會雜誌.
418	電波時報 / 郵政省電波監理局.
419	電波と受験 / 無線従事者教育協会 [編].
420	JEITA review / 電子情報技術産業協会(JEITA) [編].
421	富士電機時報 = Fusi Denki jiho.
422	三菱電機 / 三菱電機技報社.
423	電子通信学会創立50周年記念全国大会講演論文集.
424	連合大会講演論文集 / 電気学会, 電気通信学会, 照明学会 [編].
425	Science of humanity : Bensei : 人文学と情報処理.
426	電子情報通信学会技術研究報告. IA, インターネットアーキテクチャ / 電子情報通信学会 [編].
427	電子情報通信学会技術研究報告. WIT, 福祉情報工学 / 電子情報通信学会 [編].
428	電子情報通信学会技術研究報告. MoMuC, モバイルマルチメディア通信 / 電子情報通信学会 [編].
429	電子情報通信学会技術研究報告. NS, ネットワークシステム / 電子情報通信学会 [編].
430	電子情報通信学会技術研究報告. SWIM, ソフトウェアインタプライズモデリング / 電子情報通信学会 [編].
431	電子情報通信学会技術研究報告. CQ, コミュニケーションクオリティ / 電子情報通信学会 [編].
432	Toyo's technical bulletin / 東洋通信機株式会社 [編].
433	日本画像学会誌 / 日本画像学会 [編].
434	電子情報通信学会技術研究報告. SITE, 技術と社会・倫理 : IEICE technical report.
435	電子情報通信学会技術研究報告. OIS, オフィスインフォメーションシステム : IEICE technical report.
436	情報技術レターズ / 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ(ISS), 情報処理学会 [編] = Information technology letters / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers Information and Systems Society, Information Processing Society of Japan.
437	情報科学技術フォーラム学術系・企業系予稿集 / 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ(ISS), 情報処理学会 [編] = / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers Information and Systems Society, Information Processing Society of Japan.
438	情報科学技術フォーラム一般講演論文集 / 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ(ISS), 情報処理学会 [編] = / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers Information and Systems Society, Information Processing Society of Japan.
439	年報 / 郵政省通信総合研究所 [編].
440	通信総合研究所年報 / 通信総合研究所 [編].
441	電子情報通信学会技術研究報告. WBS, ワイドバンドシステム : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
442	電子情報通信学会技術研究報告. PN, フォトニックネットワーク / 電子情報通信学会 [編].
443	顕微鏡 / 日本顕微鏡学会 = Microscopy / Japanese Society of Microscopy.
444	電力需給の概要 / 通商産業省公益事業局需給課編.
445	情報通信ジャーナル = Telecom journal.

446	Design wave magazine = デザインウェーブマガジン.
447	電子情報通信学会論文誌. D, 情報・システム = The IEICE transactions on information and systems (Japanese edition).
448	情報通信研究機構年報 / 情報通信研究機構 [編] = / National Institute of Information and Communications Technology.
449	電子情報通信学会技術研究報告. SR, ソフトウェア無線 = IEICE technical report. SR, [Software radio] / 電子情報通信学会 [編].
450	電子情報通信学会技術研究報告. RECONF, リコンフィギャラブルシステム : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
451	東海大学紀要. 情報理工学部 = Proceedings of the School of Information Science and Technology, Tokai University.
452	情報通信学会年報 / 情報通信学会 [編].
453	電子情報通信学会技術研究報告. USN, ユビキタス・センサネットワーク : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
454	電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集 = Proceedings of the ... IEICE society conference.
455	電子情報通信学会技術研究報告. SIP, 信号処理 : IEICE technical report / 電子情報通信学会.
456	電子情報通信学会技術研究報告. SIS, スマートインフォメディアシステム / 電子情報通信学会 [編].
457	電子情報通信学会技術研究報告. AN, アドホックネットワーク : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
458	電子情報通信学会技術研究報告. MBE, MEとバイオサイバネティックス / 電子情報通信学会.
459	電子情報通信学会技術研究報告. SP, 音声 / 電子情報通信学会.
460	電子情報通信学会技術研究報告. NC, ニューロコンピューティング / 電子情報通信学会.
461	電子情報通信学会技術研究報告. ICM, 情報通信マネジメント : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
462	パナソニック電工技報 = Panasonic Electric Works technical report / パナソニック電工 [編].
463	東海大学紀要. 情報通信学部 = Proceedings of the School of Information and Telecommunication Engineering, Tokai University.
464	電子情報通信学会総合大会講演論文集 / 電子情報通信学会 [編] = Proceedings of the ... IEICE general conference / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
465	電子情報通信学会総合大会講演論文集 = Proceedings of the ... IEICE general conference.
466	電子情報通信学会技術研究報告. ICSS, 情報通信システムセキュリティ : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
467	電子情報通信学会技術研究報告. LOIS, ライフインテリジェンスとオフィス情報システム = IEICE technical report. LOIS, Life intelligence and office information systems / 電子情報通信学会 [編].
468	デジタル・デザイン・テクノロジー = Digital design technology.
469	電子情報通信学会技術研究報告. IBISML, 情報論の学習理論と機械学習
470	電子情報通信学会技術研究報告. MWP, マイクロ波・ミリ波フォトンクス
471	電子情報通信学会技術研究報告. CNR, クラウドネットワークロボット : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
472	電子情報通信学会技術研究報告. EMM, マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. EMM, Enriched multimedia / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
473	電子情報通信学会技術研究報告. EST, エレクトロニクスシミュレーション / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. EST, Electronic simulation technology / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.

474	電子情報通信学会技術研究報告. IMQ, イメージ・メディア・クオリティ : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
475	電子情報通信学会技術研究報告. MSS, システム数理と応用 : IEICE technical report / 電子情報通信学会 [編].
476	画像電子学会誌 = The journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan.
477	電子情報通信学会技術研究報告. SC, サービスコンピューティング / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. SC, Services Computing / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
478	富士電機技報 = Fuji Electric journal / 富士電機 [編].
479	電子情報通信学会技術研究報告. SRW, 短距離無線通信 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. SRW, Short range wireless communications / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
480	電子情報通信学会技術研究報告. MoNA, モバイルネットワークとアプリケーション / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. MoNA, Mobile network and applications / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
481	電子情報通信学会技術研究報告. ASN, 知的環境とセンサネットワーク / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. ASN, Ambient intelligence and sensor networks / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
482	電子装置研究会資料 / 電気学会.
483	電子材料研究会資料 / 電気学会 [編].
484	制御変換装置研究会資料 / 電気学会 [編].
485	情報処理研究会資料 / 電気学会 [編].
486	プラズマ研究会資料.
487	電子顕微鏡学会誌 / 日本電子顕微鏡学会.
488	電子情報通信学会技術研究報告. WPT, 無線電力伝送 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. WPT, Wireless power transfer / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
489	人工知能 : journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence / 人工知能学会 [編].
490	電子情報通信学会技術研究報告. MICT, ヘルスケア・医療情報通信技術 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. MICT, Healthcare and medical information communication technology / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
491	電子情報通信学会技術研究報告. RCC, 高信頼制御通信 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. RCC, Reliable communication and control / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
492	電子情報通信学会技術研究報告. BioX, バイオメトリクス / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. BioX, Technical committee on biometrics / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
493	東光高岳技報 = Takaoka toko review / 東光高岳 [編].
494	Web designing = ウェブデザイン : サイト構築のためのトータルデザイン誌.
495	電子情報通信学会技術研究報告. SR, スマート無線 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. SR, Smart radio / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
496	電子情報通信学会技術研究報告. EMT, 電磁界理論 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. EMT, Electromagnetic theory / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
497	電子情報通信学会技術研究報告. CCS, 複雑コミュニケーションサイエンス / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. CCS, Complex communication science / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.

498	FPGAマガジン.
499	電子情報通信学会技術研究報告. ICTSSL, 安全・安心な生活とICT / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. ICTSSL, Information and communication technologies for safe and secure life / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
500	東海大学情報科学論文業績集 / 東海大学電子計算機室 [編].
501	電子情報通信学会技術研究報告. MVE, メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎 / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. MVE, Media experience and virtual environment / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
502	電子情報通信学会技術研究報告. MRIS, 磁気記録・情報ストレージ / 電子情報通信学会 [編] = IEICE technical report. MRIS, Magnetic recording & information storage / the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
503	MJ無線と実験 : stereo technic soft & hard.
504	CQ ham radio / 日本アマチュア無線連盟 [編].
505	日経パソコン = Nikkei personal computing.

国内雑誌 505種

No.	誌名（国外雑誌）
1	Software : practice and experience.
2	The journal of logic programming.
3	Parallel processing letters.
4	Proceedings of the School of Information Science and Technology, Tokai University / School of Information Science and Technology, Tokai University.
5	Journal of simulation : JOS.
6	Digital scholarship in the humanities : DSH : journal of the alliance of digital humanities organizations.
7	Advances in computers.
8	Advances in electronics.
9	Advances in information processing in organizations.
10	Application and industry.
11	Applied acoustics = Angewandte Akustik.
12	Bell Labs technical journal.
13	CQ : the radio amateur's journal.
14	Communications society : a digest of news and events of interest to the IEEE Communications Society.
15	Computers and the humanities.
16	Control engineering : instrumentation and automatic control systems.
17	Control systems magazine.
18	Cumulative index to entire IEEE Group transactions/journals.
19	Cumulative index to proceedings of the IEEE, subject & author.
20	Cybernetica.
21	Database : the magazine of database reference and review.
22	Deutsche Elektrotechnik.
23	Digital systems for industrial automation.
24	Direct current. New series.
25	ECS electrochemistry letters : eel.
26	ECS journal of solid state science and technology : jss.
27	ECS solid state letters : ssl.
28	Electric technology U.S.S.R.
29	Electrical communication.
30	Electrical construction and maintenance.
31	Electrical engineering.
32	Electrical journal, 19
33	Electrical world.
34	Electrician.
35	Electricity commission, electricity supply.
36	Electrochimica acta.
37	Electronic and radio engineer : incorporating wireless engineer.
38	Electronic engineering.
39	Electronic technology.
40	Electronics : the worldwide technology weekly.
41	Electronics letters.
42	Electronics world.
43	Electronics.

44	ElectronicsWeek.
45	Elektrie.
46	Elektrotechnische Berichte.
47	Elektrotechnische Zeitschrift. Ausgabe A.
48	Elektrotechnische Zeitschrift. Ausgabe B : ETZ.
49	Elektrowirtschaft.
50	Engineering & technology : the IET.
51	Evolutionary computation.
52	Experimental wireless & the wireless engineer.
53	Experimental wireless.
54	FED journal. Suppl.
55	Fuji electric review.
56	Fujitsu scientific and technical journal / Fujitsu.
57	Fuzzy sets and systems : an international journal.
58	General Electric review.
59	IBM journal of research and development / International Business Machines Corporation.
60	IBM systems journal.
61	IEE proceedings. Part H, Microwaves, antennas and propagation.
62	IEE proceedings. Part H, Microwaves, optics and antennas.
63	IEE proceedings. Part J, Optoelectronics.
64	IEE proceedings. Pt. F, Communications, radar and signal processing / Institution of Electrical Engineer.
65	IEEE ASSP magazine : a publication of the IEEE Acoustics, Speech, and Signal Processing Society.
66	IEEE Communications Society magazine / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
67	IEEE International Convention record / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
68	IEEE aerospace and electronic systems magazine.
69	IEEE circuits and devices magazine / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
70	IEEE circuits and systems magazine / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
71	IEEE communications magazine / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
72	IEEE design & test of computers / IEEE Computer Society [and] the Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.
73	IEEE electrical insulation magazine : a publication of the IEEE Electrical Insulation Society.
74	IEEE electron device letters.
75	IEEE engineering in medicine and biology : the quarterly magazine of the Engineering in Medicine & Biology Society.
76	IEEE engineering in medicine and biology magazine : the quarterly magazine of the Engineering in Medicine & Biology Society.
77	IEEE engineering management review / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
78	IEEE expert.
79	IEEE journal of oceanic engineering / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
80	IEEE journal of quantum electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
81	IEEE journal of robotics and automation.
82	IEEE journal of solid state circuits / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
83	IEEE journal on selected areas in communications : a publication of the IEEE Communications Society.
84	IEEE micro.

85	IEEE microwave and wireless components letters : a publication of the IEEE Microwave Theory and Techniques Society.
86	IEEE software / IEEE Computer Society.
87	IEEE spectrum.
88	IEEE student journal / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
89	IEEE technology & society magazine.
90	IEEE transactions on acoustics, speech, and signal processing.
91	IEEE transactions on aerospace / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
92	IEEE transactions on aerospace and electronic systems / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
93	IEEE transactions on aerospace and navigational electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
94	IEEE transactions on antennas and propagation.
95	IEEE transactions on applications and industry / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
96	IEEE transactions on audio and electroacoustics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
97	IEEE transactions on audio.
98	IEEE transactions on automatic control / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
99	IEEE transactions on biomedical engineering / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
100	IEEE transactions on broadcast and television receivers / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
101	IEEE transactions on broadcasting.
102	IEEE transactions on cable television.
103	IEEE transactions on circuit theory / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
104	IEEE transactions on circuits and systems / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
105	IEEE transactions on communication and electronics / the Institute of Electrical and Electronics Engineers.
106	IEEE transactions on communication technology.
107	IEEE transactions on communications / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
108	IEEE transactions on communications systems / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
109	IEEE transactions on component parts / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
110	IEEE transactions on components, hybrids, and manufacturing technology / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
111	IEEE transactions on computers / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
112	IEEE transactions on consumer electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
113	IEEE transactions on education / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
114	IEEE transactions on electrical insulation / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
115	IEEE transactions on electromagnetic compatibility / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
116	IEEE transactions on electron devices / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
117	IEEE transactions on electronic computers / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
118	IEEE transactions on engineering management / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
119	IEEE transactions on engineering writing and speech.
120	IEEE transactions on geoscience and remote sensing.
121	IEEE transactions on geoscience electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
122	IEEE transactions on human factors in electronics.
123	IEEE transactions on industrial electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.

124	IEEE transactions on industrial electronics : a publication of the IEEE Industrial Electronics Society.
125	IEEE transactions on industrial electronics and control instrumentation / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
126	IEEE transactions on industry and general applications / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
127	IEEE transactions on industry applications / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
128	IEEE transactions on information theory : a journal devoted to the theoretical and experimental aspects of information transmission, processing, and utilization / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
129	IEEE transactions on instrumentation and measurement.
130	IEEE transactions on magnetics.
131	IEEE transactions on manufacturing technology : a publication of the IEEE Manufacturing Technology Group / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
132	IEEE transactions on medical imaging.
133	IEEE transactions on microwave theory and techniques / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
134	IEEE transactions on military electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
135	IEEE transactions on nuclear science.
136	IEEE transactions on parts, hybrids and packaging / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
137	IEEE transactions on parts, materials and packaging.
138	IEEE transactions on pattern analysis and machine intelligence.
139	IEEE transactions on plasma science / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
140	IEEE transactions on product engineering and production.
141	IEEE transactions on professional communication / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
142	IEEE transactions on radio frequency interference / Professional Technical Group on Radio Frequency Interference.
143	IEEE transactions on reliability.
144	IEEE transactions on software engineering : a publication of the IEEE Computer Society / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
145	IEEE transactions on sonics and ultrasonics.
146	IEEE transactions on space electronics and telemetry / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
147	IEEE transactions on systems science and cybernetics.
148	IEEE transactions on systems, man and cybernetics / IEEE Systems, Man and Cybernetics Group.
149	IEEE transactions on ultrasonics engineering / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
150	IEEE transactions on vehicular communications / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
151	IEEE transactions on vehicular technology / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
152	IEEJ transactions on electrical and electronic engineering : official journal of the Institute of Electrical Engineering of Japan / = 電気学会.
153	IEICE transactions on communications electronics information and systems.
154	IEICE transactions on communications.
155	IEICE transactions on electronics.

156	IEICE transactions on fundamentals of electronics, communications and computer sciences.
157	IEICE transactions on information and systems.
158	IEEE transactions on image electronics and visual computing.
159	IRE Transactions on electronic computers / Institute of Radio Engineers.
160	IRE WESCON convention record.
161	IRE national convention record.
162	IRE transactions on aeronautical and navigational electronics / the Institute of Radio Engineers.
163	IRE transactions on antennas and propagation / Institute of Radio Engineers.
164	IRE transactions on audio / Institute of Radio Engineers.
165	IRE transactions on automatic control / Institute of Radio Engineers.
166	IRE transactions on broadcast and television receivers / Institute of Radio Engineers.
167	IRE transactions on broadcast transmission systems / Institute of Radio Engineers.
168	IRE transactions on broadcasting / Institute of Radio Engineers.
169	IRE transactions on circuit theory / Institute of Radio Engineers.
170	IRE transactions on component parts / Institute of Radio Engineers.
171	IRE transactions on education / Institute of Radio Engineers.
172	IRE transactions on electron devices / Institute of Radio Engineers.
173	IRE transactions on engineering management / Institute of Radio Engineers.
174	IRE transactions on engineering writing and speech / Institute of Radio Engineers.
175	IRE transactions on industrial electronics / IRE.
176	IRE transactions on information theory.
177	IRE transactions on instrumentation / Institute of Radio Engineers.
178	IRE transactions on medical electronics.
179	IRE transactions on microwave theory and techniques / Institute of Radio Engineers.
180	IRE transactions on nuclear science / Institute of Radio Engineers.
181	IRE transactions on product engineering and production.
182	IRE transactions on production techniques.
183	IRE transactions on radio frequency interference / Professional Group on Radio Frequency Interference.
184	IRE transactions on reliability and quality control / Institute of Radio Engineers.
185	IRE transactions on space electronics and telemetry / Institute of Radio Engineers.
186	IRE transactions on vehicular communications / IRE.
187	IT professional : technology solutions for the enterprise.
188	Index to IEEE publications / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
189	Information intelligence online newsletter.
190	Information sciences : an international journal.
191	Information sciences, applications.
192	International journal of adaptive control and signal processing.
193	International journal of approximate reasoning : official publication of the North American Fuzzy Information Processing Society / North American Fuzzy Information Processing Society.
194	International journal of circuit theory and applications.
195	International journal of instructional media.
196	International journal of neural systems.
197	International journal of plasma environmental science & technology.
198	International journal of robotics & automation.
199	International journal of supercomputer applications and high performance computing.
200	Jahrbuch der Drahtlosen Telegraphie und Telephonie.

201	Journal of Asia Electronics Union, 197
202	Journal of complexity.
203	Journal of computational neuroscience.
204	Journal of electromagnetic waves and applications.
205	Journal of electron microscopy.
206	Journal of electronics and control. 1st series.
207	Journal of electronmicroscopy / Japanese Society of Electron Microscopy.
208	Journal of experimental and theoretical artificial intelligence.
209	Journal of information processing / Information Processing Society of Japan.
210	Journal of lightwave technology : a joint IEEE/OSA publication.
211	Journal of magnetism and magnetic materials.
212	Journal of materials science. Materials in electronics.
213	Journal of the Institution of Electrical Engineers.
214	Journal of the Institution of Electrical Engineers. New series.
215	Laser focus world.
216	Leadership and management in engineering.
217	Microlithography world.
218	Microwave and optical technology letters.
219	Microwave journal.
220	Mitsubishi Denki laboratory reports : Mitsubishi Denki Kabushiki Kaisha Kenkyusho.
221	NTT technical review.
222	NTZ : Nachrichtentechnische Zeitschrift.
223	Network : computation in neural systems.
224	New Zealand electrical journal.
225	Nordisk tidskrift for informationsbehandling.
226	Optical and quantum electronics.
227	Papers of Electronic Navigation Laboratory.
228	Philips journal of research.
229	Philips technical review.
230	Proceedings of the IEEE / Institute of Electrical and Electronics Engineers.
231	Proceedings of the IRE / Institute of Radio Engineers.
232	Proceedings of the Institute of Radio Engineers.
233	Proceedings of the Institution of Electrical Engineers.
234	Proceedings of the Institution of Electrical Engineers. Pt. B, Electronic and communication engineering.
235	Proceedings of the Institution of Electrical Engineers. Pt. B, Radio and electronic engineering.
236	Proceedings of the School of Information Technology and Electronics of Tokai University / School of Information Technology and Electronics, Tokai University.
237	Proceedings of the Wireless Section of the Institution / Institution of Electrical Engineers.
238	Progress in quantum electronics : an international review journal.
239	QST : devoted entirely to amateur radio.
240	Quarterly transactions of the American Institute of Electrical Engineers.
241	RCA review.
242	Radio & television news.
243	Radio and electronic engineer.
244	Radio news.
245	Radio science.

246	Report of radio research in Japan / compiled by the Radio research Committee of the National Research Council of Japan.
247	Reports of radio researches and works in Japan / compiled by the Radio research Committee of the National Research Council of Japan.
248	S.I.D. journal / Society for Information Display.
249	Semiconductors and semimetals.
250	Semiconductors.
251	Sony Corporation Research Center reports.
252	Sony Research Center reports.
253	Sony technical reports / Sony.
254	Students' quarterly journal / Institution of Electrical Engineers.
255	Sumitomo Electric technical review.
256	Summaries of reports of the Electrotechnical Laboratory.
257	Technische Mitteilungen A.E.G. Telefunken.
258	Telefunken Hausmitteilungen.
259	Telefunken Zeitung.
260	Telefunken.
261	Telegraphen und Fernsprech Technik.
262	The Bell system technical journal : devoted to the scientific and engineering aspects of electrical communication.
263	The Electric journal.
264	The Electrical review.
265	The International journal of supercomputer applications.
266	The Marconi review.
267	The Post Office Electrical Engineers' journal / Institution of Post Office Electrical Engineers.
268	The Transactions of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan. Section E, English.
269	The Transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers.
270	The international journal of high performance computing applications.
271	The journal of the Institution of Electrical Engineers. Part I, General.
272	The journal of the Institution of Electrical Engineers. Part III, Communication engineering.
273	The journal of the Institution of Electrical Engineers. Part III, Radio and communication engineering.
274	The proceedings of the Institution of Electrical Engineers. Part I, General.
275	The proceedings of the Institution of Electrical Engineers. Part III, Radio and communication engineering.
276	The proceedings of the Institution of Electrical Engineers. Pt. C, Monographs.
277	Theoretical computer science.
278	Today's engineer.
279	Transactions of the American Institute of Electrical Engineers. Pt. 1, Communication and electronics.
280	Transactions of the American Institute of Electrical Engineers. Pt. 2, Applications and industry.
281	Transactions of the Illuminating Engineering Society.
282	Transactions of the Institute of Measurement and Control.
283	Transit journal.
284	Westinghouse engineer.
285	Wireless engineer : the journal of radio research and progress.

286	Wireless engineer and experimental wireless.
-----	--

国外雑誌 286種

学生確保の見通し等を記載した書類
情報通信学部情報通信学科

【本文目次】

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p. 2
 - (1) 学生の確保の見通し…p. 2
 - 1) 定員充足の見込み…p. 2
 - 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p. 3
 - 3) 学生納付金の設定の考え方…p. 4
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況…p. 5
2. 人材需要の動向等社会の要請…p. 8
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）…p. 8
 - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p. 8

学生の確保の見通し等を記載した書類

情報通信学部情報通信学科

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

1) 定員充足の見込み

情報通信学部情報通信学科の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な体制として、入学定員を 240 名、収容定員を 960 名として教育研究活動を開始する計画である。

①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。情報通信学部情報通信学科の学位の分野「工学関係」が含まれる「理・工学系」の過去 5 年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況（【資料①－1】【資料①－2】「令和 2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26・33～34）をみると、【資料①－1】のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに對し、志願倍率も増加傾向を示しており、令和 2 年度においては 13 倍を超える水準に達し、定員充足率も 100%を満たしている状況である。このうち、【資料①－2】のとおり、令和 2 年度における、情報通信学部情報通信学科に類似した名称・分野の学部には焦点を絞って見てみると、「情報科学部」は約 26.5 倍、「総合情報学部」は約 9.2 倍、「情報理工学部」は約 17.7 倍となっており、【資料①－1】の動向と同様に、倍率に幅はあるものの、入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、情報通信学部情報通信学科が受け持つ学問分野について高い需要があると分析される。

②将来性についての分析

東海大学は、全国に 19 学部（令和 3 年現在。募集停止学部を除く。）を展開している大規模大学である。情報通信学部情報通信学科は、1・2 年次は湘南キャンパス（平塚市）、3・4 年次は高輪キャンパス（東京都）で学修を進める計画である。現在、湘南キャンパスには、約 18,000 名程度の学部生が在籍しており、在学生の 6 割程度が首都圏（神奈川県、東

京都、千葉県）からの学生である。特に、地元神奈川県内の学生が、湘南キャンパスに通う学生全体の 5 割程度を占めている。また、4 割程度は、首都圏以外、全国から入学してくる学生である。また、同様に、全国に 14 校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在している。

将来的にみると、18 歳人口の減少は避けられない状況であるが、本学の通学圏である首都圏においては、その減少率は低いものであることに加え、【資料①-3】のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していることから、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①今後の人口動態

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020 年度版）」（リクルート進学総研）に依れば、全国の 18 歳人口の推移は、【資料②】のとおり「2020 年 116.7 万人→2032 年 102.3 万人」となり、「約 14.4 万人／12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

一方、本学の入学者の半数程度を占めると考えられる神奈川県 の 18 歳人口の推移【資料③】については、「2020 年 79,403 人→2032 年 73,550 人」と、減少率は「7.4%」であり、全国の減少幅（約 12.3%）に比べて、比較的小さいことが分かる。同様に、東京都をみると「0.6%」ではあるが微増の予測がなされており、東京への人口集中の傾向が続くと判断される。

【資料④】をみると、①進学率の上昇により、大学進学者数が増加していることに加え、②神奈川県における地元残留率は低下傾向にあるものの 38.9%を維持している。さらに、この県内外の移動状況の詳細をみると、東京都への流出が 1 位であると同時に、東京都からの流入も 1 位であることが分かる。この傾向から、神奈川県と東京都は補完しあいながら、同じ生活圈・通学圏内として成立していることもわかる。

以上の状況から、本学の通学圏内である神奈川県と東京都は、18 歳人口の減少の影響は生じるものの、比較的影響は小さい状況が継続すると予測される。そして、現在の進学者の傾向を維持しつつ、入学定員を超

える一定数の志願者数を確保することが可能であると、判断することができる。

②類似する分野への大学進学状況

さらに詳しく分析するため、【資料⑤】「リクルート 入試実態調査」により、学部系統「理学部」「理工学部」「工学部」の10年間の動向を確認していく。全国、一都三県、神奈川県のみにおいても、「理学部」においては多少の減少傾向か横ばいの傾向であるが、志願倍率9倍以上と高い水準になっている。「理工学部」においては、2020年度（令和2年度）には、17～18倍の高い志願倍率となっており、「工学部」においては、10年前から志願者数が大幅に増加し、志願倍率も10倍を超える高い水準になっている。

また、【資料⑥】のとおり、情報通信学部情報通信学科と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、高い志願倍率を維持しており、志願者数の確保を見込むことができる。

③既設の学部における定員充足状況

既存学部等の定員充足状況については、【資料⑦】のとおり、既設学部の情報通信学部通信ネットワーク工学科（入学定員80名）、情報通信学部組込みソフトウェア工学科（入学定員80名）の6年間の状況をみると、志願者数は、それぞれ約600名から約1,200名で推移している。

情報通信学部情報通信学科の入学定員は、240名に増加する計画であるが、志願者数は入学定員を大幅に超えている状況に加え、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

3) 学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者である学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑥】に記載する競合校の学納金と比較

しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 情報通信学部 情報通信学科	240	200,000	1,354,000		59,200	1,613,200
玉川大学 工学部 情報通信工学科	60	250,000	1,402,400	270,000	36,074	1,958,474
工学院大学 情報学部 情報通信工学科	90	250,000	1,080,000	310,000	41,160	1,681,160
東京電機大学 工学部 情報通信工学科	110	250,000	1,401,000		22,160	1,673,160

注１） 本学以外の各大学の情報は、2021年4月時点の公式ウェブサイトにより調査。

注２） 各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけではなく、大学への進路希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサポート活動を行うことである。

令和２（2020）年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和２（2020）年度については Web Open Campus と称し、自宅からでも参加できる「360° キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を

持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、HPや各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入学者希望者を増やすことを目指すだけでなく、「入試対策講座」の開催や、体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備されたWeb等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

①オープンキャンパス（対面、オンライン）計画

- ・2021年度東海大学開催オープンキャンパス（予定）

対面：6月20日（日）、8月21（土）、8月22日（日）、3月13日（日）

〔学科説明、個別面談、キャンパス見学〕

WEB：7月、8月

- ・入試対策講座（6月、8月、10月）
- ・進学相談会、キャンパス見学会
- ・全国開催進学相談会（約350会場を予定。実施は未定。）

②HP【受験生・高校教員向け】受験生情報サイト・SNSからの情報発信 YouTubeチャンネル（東海大学公式）配信動画

■東海大学ホームページ 受験生情報サイト
(<http://www.tokai-adm.jp/>)

■東海大学「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」
(<https://tokai-marugoto.jp/>)

③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進学についてのPRだけでなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学のサポートを行っていく計画である。

④大学入試説明会（高校教員対象）：5月～6月にWebでの開催を予定。

⑤各種メディアからの情報発信（受験情報サイト、メディア企画）

⑥出願促進プロモーション

S N S 広告、エリアアド、コンビニ広告

交通広告、出願促進DM（全国の接触者対象）

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、学生確保に向けて具体的な取組を行うことにより、入学定員を満たすことができると確信することができる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

情報通信学部情報通信学科の教育研究上の目的は、グローバル社会の中で活躍できる英語能力と多様化する価値観を受容できる“コミュニケーション力”を有し、社会に生じる諸問題に対して「情報通信の専門性と技術力」に基づき多分野との協働により解決を目指す“コーディネート力”を身に付け、“自ら考え行動し、解決を目指す”ことができる人材を養成することである。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。情報通信学部情報通信学科においては、上記のとおり急激な変化に対応し、情報通信の専門性と技術力に加え、コミュニケーション力と多分野との協働により解決できるコーディネート力を身に付けた人材を育成する計画であり、将来的に必要なとされる人材像と合致している。

情報通信学部情報通信学科は、情報通信学部通信ネットワーク工学科と情報通信学部組込みソフトウェア工学科を基礎として設置する計画であり、現状から分析すると、【資料⑧】のとおり、既設学科が育成する人材へのニーズは多岐に渡り、情報通信業を中心に、多様な分野へ卒業生が就職していることが分かる。また、【資料⑨】のとおり、情報通信学部通信ネットワーク工学科は、2018年度が100%、2019年度が98.2%、組込みソフトウェア工学科は2018年度、2019年度ともに100%と高い就職決定率就職率は高い水準となっている。加えて、本学への求人については、【資料⑩-1】の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えている。そして、【資料⑩-2】のとおり、全国から求人が寄せられている。

情報通信学部情報通信学科においても、その教育研究上の目的から、【資料⑧】と同様に、多様な分野への就職を目指していく。そして、様々な分野からのニーズに応え、課題解決を目指して社会で活躍していく人材を、引き続き輩出していくと確信している。以上の状況から、情報通信学部情報通信学科の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以上

学生確保の見通し等を記載した書類
情報通信学部情報通信学科

【資料目次】

【資料①-1】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 26）…p. 2

【資料①-2】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33～34）…p. 2

【資料①-3】「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。…p. 2

【資料②】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 82 2021年3月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020年度版）6ページより抜粋…p. 3

【資料③】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）2ページより抜粋…p. 3

【資料④】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）15ページより抜粋…p. 4

【資料⑤】「リクルート入試実態調査」による統計…p. 5

【資料⑥】リクルート「入試実態調査」より集計…p. 6

【資料⑦】既設学科の学生確保の状況…p. 6

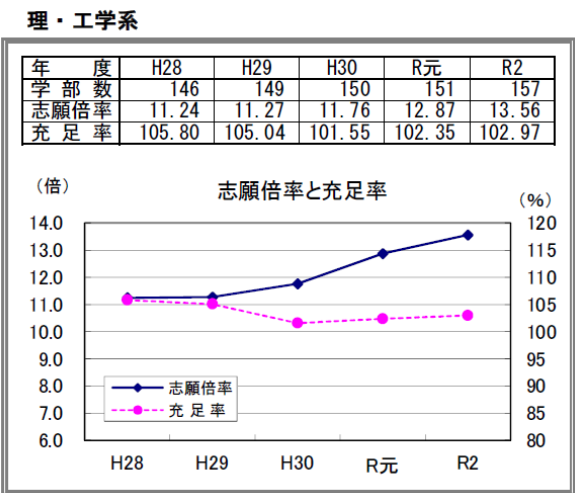
【資料⑧】既設学科の就職先…p. 7

【資料⑨】既設学科の就職決定率…p. 8

【資料⑩-1】東海大学産業別求人会社数…p. 8

【資料⑩-2】東海大学地域別求人会社数…p. 8

【資料①-1】



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26）

【資料①-2】

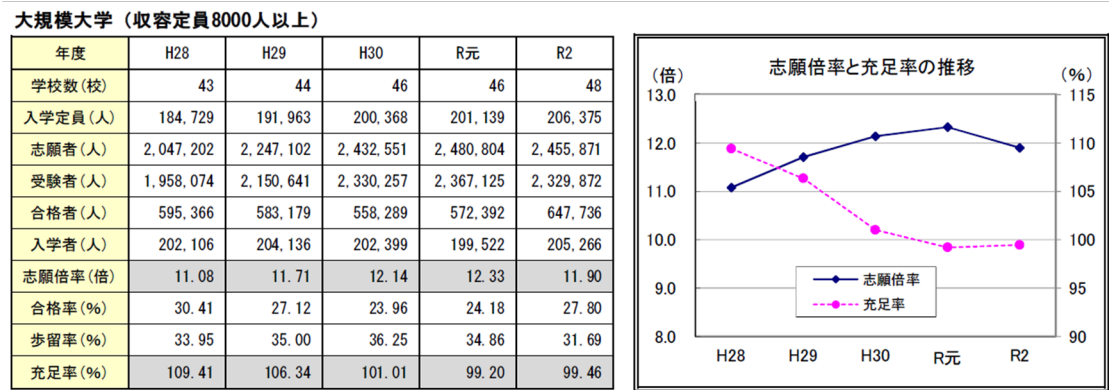
5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減
情報科学部	4	4	0	1,046	1,046	0	26,130	27,781	1,651	1,126	1,136	10	107.65	108.60	0.95
総合情報学部	6	6	0	1,685	1,685	0	15,209	15,667	458	1,800	1,779	△ 21	106.82	105.58	△ 1.24
情報理工学部	3	3	0	835	835	0	12,776	14,833	2,057	792	808	16	94.85	96.77	

「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.33～34）

【資料①-3】



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。

【資料②】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体 計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.7	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	89.4	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021 年 3 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版) 6 ページより抜粋

【資料③】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
埼玉	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587
	指数	100.0	98.3	96.8	95.3	93.2	95.7	95.8	95.8	95.2	94.2	91.5	91.0	90.8
千葉	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742
	指数	100.0	99.4	97.6	96.8	93.1	95.8	95.8	97.4	95.4	94.6	92.8	91.0	90.1
東京	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791
	指数	100.0	99.0	98.9	97.3	95.2	99.2	100.9	98.1	98.7	98.9	98.0	99.2	100.6
神奈川	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550
	指数	100.0	98.8	98.1	95.9	93.5	95.9	96.8	98.2	97.0	97.1	94.6	94.5	92.6
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.86 2021 年 4 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020 年度版) 2 ページより抜粋

神奈川県



学校数

大学 : 31 (国立 2・公立 2・私立 27)
 短期大学 : 14 (公立 1・私立 13)
 専門学校 : 101 (公立 5・私立 96)

卒業生数

2011年60,814人→2020年66,293人 (5,479人増加)

進学者数

大学 : 2011年33,604人→2020年38,113人 (4,509人増加)
 短期大学 : 2011年 3,312人→2020年 2,295人 (1,017人減少)
 専門学校 : 2011年 8,694人→2020年11,737人 (3,043人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年55.3%→2020年57.5% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.4%→2020年 3.5% (1.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年14.3%→2020年17.7% (3.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年43.9%→2020年38.9% (5.0ポイント低下)
 短期大学 : 2011年65.7%→2020年69.2% (3.5ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (10,133人)、2位静岡 (2,104人)、3位千葉 (2,101人)
 短期大学 : 1位東京 (265人)、2位静岡 (172人)、3位長野 (36人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (17,035人)、2位千葉 (912人)、3位埼玉 (909人)
 短期大学 : 1位東京 (605人)、2位北海道 (57人)、3位静岡 (30人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業生数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外の高校出身者が大学・短期大学に入学者したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学者のこと(浪人含)

リクルート進学総研マーケットリポート Vol186 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版) 15ページより抜粋

「リクルート 入試実態調査」による統計

- ＊各年度で志願者数非公表の大学があります
 ＊分野系統は調査に協力いただきました大学の指定分野になります。
 ＊下記のエリアは本部設置所在エリアになります

<全国>

理学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	7,972	8,435	8,456	8,648	8,755	8,823	9,288	9,244	9,500	9,443
志願者数	99,089	104,621	112,059	115,566	108,542	103,865	102,602	103,646	111,174	112,682
志願倍率	12.4	12.4	13.3	13.4	12.4	11.8	11.0	11.2	11.7	11.9
理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	15,883	16,469	16,000	16,305	16,598	17,296	17,976	18,601	18,493	19,260
志願者数	228,332	239,953	261,791	279,319	284,812	296,929	304,397	317,034	334,414	363,942
志願倍率	14.4	14.6	16.4	17.1	17.2	17.2	16.9	17.0	18.1	18.9
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	33,436	34,156	32,657	32,552	33,175	31,472	32,427	32,217	32,341	31,492
志願者数	251,173	269,923	302,133	326,672	343,195	339,033	360,223	380,879	431,255	455,944
志願倍率	7.5	7.9	9.3	10.0	10.3	10.8	11.1	11.8	13.3	14.5

<一都三県>

理学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	5,460	5,550	5,720	5,791	5,870	6,034	6,235	6,212	6,349	6,302
志願者数	70,447	73,968	78,365	79,924	76,556	72,350	71,462	71,220	74,699	74,412
志願倍率	12.9	13.3	13.7	13.8	13.0	12.0	11.5	11.5	11.8	11.8
理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	8,922	8,969	9,228	9,562	9,979	10,294	10,585	10,779	10,869	11,442
志願者数	127,978	135,131	152,173	156,800	159,463	173,594	174,058	182,761	189,860	207,976
志願倍率	14.3	15.1	16.5	16.4	16.0	16.9	16.4	17.0	17.5	18.2
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	16,413	16,886	16,134	15,688	16,103	15,367	15,694	15,791	15,608	14,983
志願者数	154,434	171,244	184,788	198,621	207,653	207,306	215,552	234,344	262,769	269,763
志願倍率	9.4	10.1	11.5	12.7	12.9	13.5	13.7	14.8	16.8	18.0

<神奈川のみ>

理学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	520	566	566	535	535	537	912	907	907	904
志願者数	4,679	5,751	5,998	5,896	5,573	5,230	8,349	8,963	9,485	9,301
志願倍率	9.0	10.2	10.6	11.0	10.4	9.7	9.2	9.9	10.5	10.3
理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員			359	359	364	370	754	754	733	733
志願者数			2,821	3,158	3,563	3,340	7,580	8,487	11,489	12,896
志願倍率			7.9	8.8	9.8	9.0	10.1	11.3	15.7	17.6
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	2,588	2,487	2,056	2,001	2,101	2,133	3,368	3,401	3,417	3,286
志願者数	11,478	13,706	12,269	13,334	14,290	13,473	22,272	23,209	30,168	33,071
志願倍率	4.4	5.5	6.0	6.7	6.8	6.3	6.6	6.8	8.8	10.1

株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

【資料⑥】

学部・学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
情報通信学部 情報通信学科	玉川大学	東京	工学部	情報通信工学科	募集人員								47	47	47
					志願者数(合計)								311	375	620
					志願倍率								6.6	8.0	13.2
	工学院大学	東京	情報学部	情報通信工学科	募集人員						90	90	90	90	90
					志願者数(合計)						1,248	1,382	1,316	1,631	1,746
					志願倍率						13.9	15.4	14.6	18.1	19.4
	東京電機大学	東京	工学部	情報通信工学科	募集人員	100	100	90	90	110	90	90	90	95	95
					志願者数(合計)	1,617	1,825	1,723	2,015	1,775	1,798	1,621	1,688	1,997	2,472
					志願倍率	16.2	18.3	19.1	22.4	16.1	20.0	18.0	18.8	21.0	26.0

リクルート「入試実態調査」より集計／データは株式会社リクルートマーケティングパートナーズより提供

【資料⑦】

既設学部等の学生確保の状況

情報通信部 通信ネットワーク工学科（入学定員80名）

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	849	778	201	84	10.6	1.05
2017年度	759	722	207	87	9.5	1.08
2018年度	894	852	185	86	11.2	1.07
2019年度	1,261	1,190	203	81	15.8	1.01
2020年度	1,071	1,014	175	80	13.4	1.00
2021年度	975	905	242	79	12.2	0.99

情報通信部 組込みソフトウェア工学科（入学定員80名）

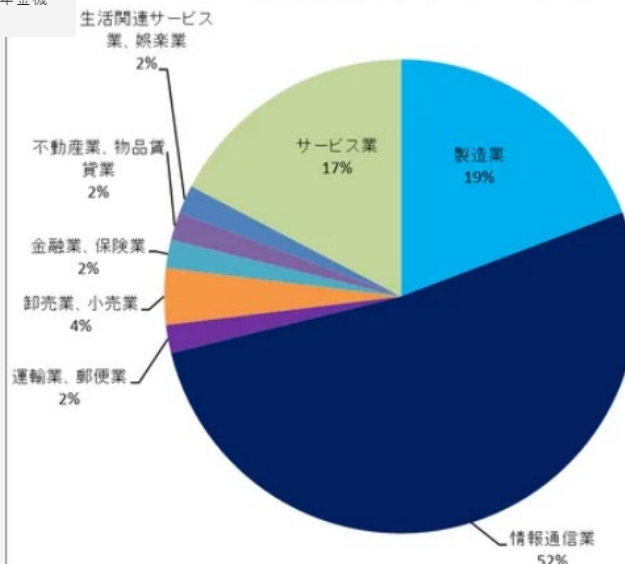
	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	587	543	207	91	7.3	1.13
2017年度	790	743	236	82	9.9	1.02
2018年度	673	647	217	97	8.4	1.21
2019年度	1,255	1,186	217	78	15.7	0.97
2020年度	981	921	187	87	12.3	1.08
2021年度	928	849	201	81	11.6	1.01

組込みソフトウェア工学科

主な就職先

日本精機/スタンレー電気/JVCケンウッド/日立ソリューションズ・テクノロジー/東芝インフラシステムズ/富士通フロンテック/住友重機械工業/本田技研工業/ジャステック/東芝デジタルソリューションズ/エヌアイディ/かんぽシステムソリューションズ/日立社会情報サービス/東海旅客鉄道/山九/協栄産業/八洲電機/オン・セミコンダクター/日本年金機構/海老名市消防本部

組込みソフトウェア工学科



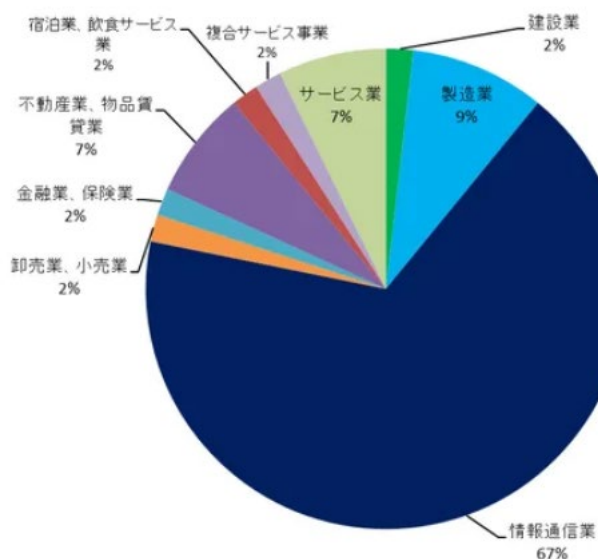
東海大学 HP より抜粋

通信ネットワーク工学科

主な就職先

協和エクシオ/住友電設/NTTファシリティーズ中央/パナソニック/日立オートモティブシステムズ/ソフトバンク/アルテリア・ネットワークス/CIJ/日立社会情報サービス/三菱電機インフォメーションシステムズ/Sky/NTTコムソリューションズ/テクマトリックス/シーティーシー・テクノロジー/タイトー/警視庁/神奈川県警察本部

通信ネットワーク工学科



東海大学 HP より抜粋

【資料⑨】

2) 学部

2020年5月15日現在

＜就職決定率の算出方法＞

※就職決定率＝調査時点の就職決定者数／就職希望者数×100

※決定者数＝「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年5月21日時点の数値

＜就職希望者数の算出方法＞

※2019年度就職希望者数＝キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」の者＋就職希望者の内「3月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

学部	学科	専攻・課程等	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	決定率（％）	2019年度	2018年度
							進学者数	決定率（％）
情報通信学部	情報メディア学科		76	70	66	94.3	3	95.4
	組込みソフトウェア工学科		65	51	51	100.0	11	100.0
	経営システム工学科		75	61	60	98.4	9	100.0
	通信ネットワーク工学科		63	56	55	98.2	4	100.0
合計			279	238	232	97.5	27	98.9

【資料⑩-1】

2019 年度 東海大学産業別求人会社数

産業	2019年度
農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産	66
建設・住宅・不動産	1,624
水産・食品	251
素材・化学	244
医薬品・医療関連・化粧品	95
ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	63
鉄鋼・非鉄・金属製品	362
機械・プラントエンジニアリング	434
電子・電機	472
自動車・輸送用機器	329
精密機器・医療用機器	174
印刷・パッケージ	84
OA 機器・家具・スポーツ・玩具・その他	136
小計	4,334
エネルギー	88
銀行	27
信用金庫・労働金庫	75
信販・クレジット・ファイナンス	10
その他金融	29
リース・レンタル	47
保険	66
証券・投信・投資顧問	34
小計	288

産業	2019年度
商社（総合）	93
商社（水産・食品）	117
商社（ファッション関連）	62
商社（素材関連）	52
商社（化学・医薬品・化粧品）	67
商社（エネルギー）	20
商社（精密機器・医療用機器）	156
商社（自動車・輸送用機器）	212
商社（家具・インテリア・日用品）	25
商社（鉄鋼・非鉄・金属製品）	67
その他商社	235
小計	1,106
百貨店	16
コンビニエンス・GMS ストア	94
生活協同組合	26
専門店（ファッション関連）	111
専門店（エンターテインメント）	9
専門店（電器）	18
専門店（家具・インテリア）	4
専門店（フード）	23
専門店（ドラッグストア・調剤薬局）	39
専門店（自動車関連）	112
専門店（動物関連）	3
その他専門店	105
小計	560

産業	2019年度
フードサービス	127
ホテル・旅行	179
その他の教育・学習支援業	91
エンターテインメント	54
調査・コンサルタント	200
人材紹介・人材派遣	107
その他サービス	856
小計	1,614
IT・情報処理	情報処理・ソフトウェア 1,475
情報・インターネットサービス	196
小計	1,671
情報（通信・マスコミ）	通信関連 87
マスコミ	324
小計	411
運輸・倉庫	運輸 241
倉庫	63
小計	304
官公庁・団体	373
教育機関	113
医療・福祉施設	675
専門・技術サービス業	38
合計	11,573

2019 年度卒業生数 6,281 名

